

日本大学芸術学部

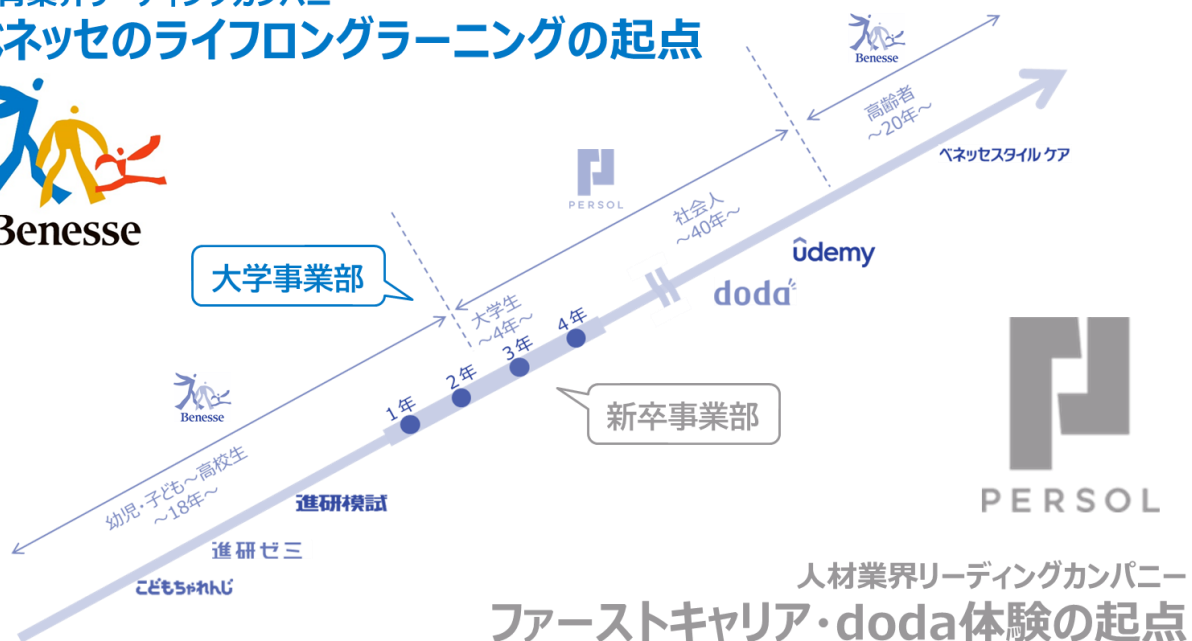
2026年度
GPS-Academic結果ご報告
2026年7月30日

Corporate Slogan

まなぶ と はたらく を つなぐ

学歴ではなく「**学習歴**」を大学と社会の共通評価にできるよう、
大学が育成したい人材像の徹底的な可視化と、
多様な学生の学びと経験が、社会で評価される仕組みづくりを目指します。

教育業界リーディングカンパニー
ベネッセのライフロングラーニングの起点



人材業界リーディングカンパニー
ファーストキャリア・doda体験の起点

GTEC
Global Test of English Communication

GPS-Academic®
Global Proficiency Skills program®



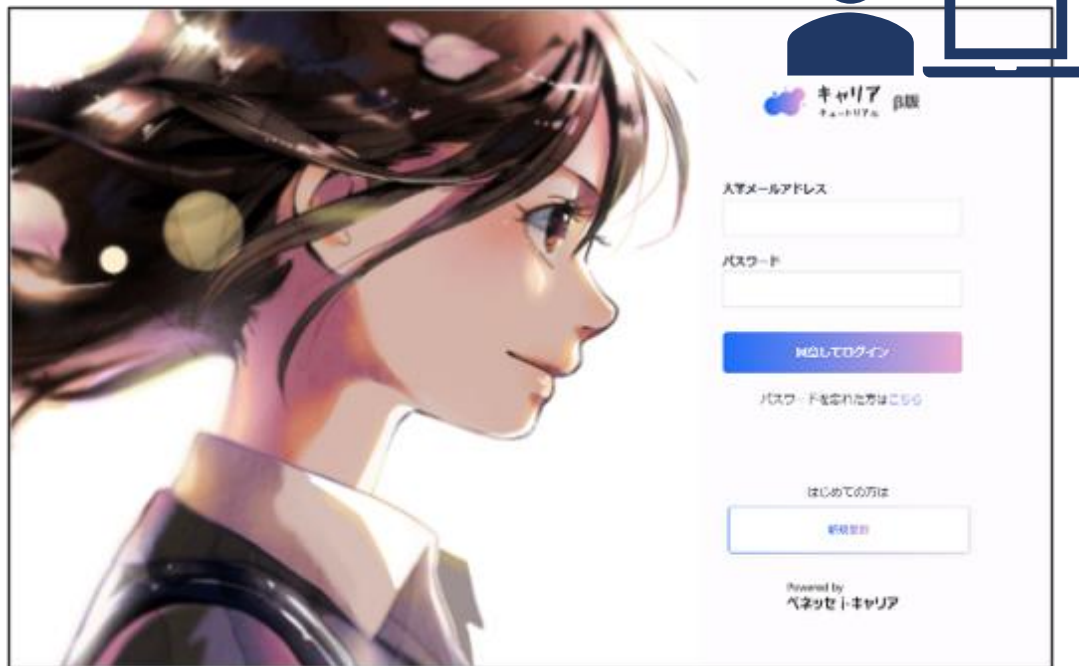
doda 新卒エージェント

doda キャンパス

“答えを出さないAI”を活用した就活支援ツール
キャリアチュートリアル

2025年11月～

キャリアチュートリアル



画面イメージ

学生ひとりひとりが、「自分にあった就活の一步目」を踏み出すための、**個別最適なキャリア教育・指導を実現するキャリア教育用教材**です。
“答えを出さずに問いを出す”AIと壁打ちをすることで、
学生の思考とキャリア選択を促します。

2026年7月～

データリテラシー実践力チェック (DC)



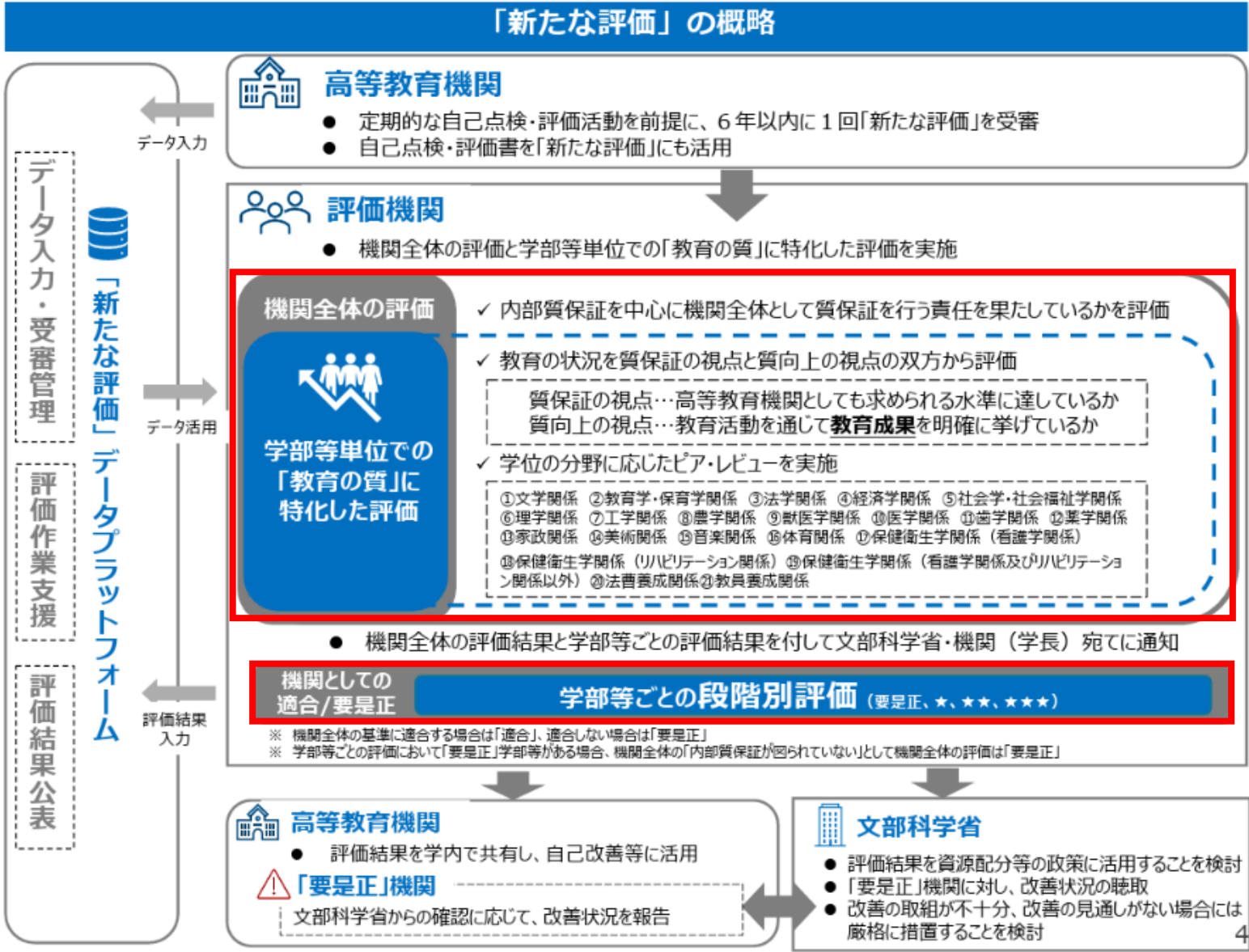
画面イメージ

大学のまなびを活かして「DX領域に素養のある学生」を可視化し、
DX採用の母集団形成で学生と企業がつながる仕組みを構築する。
“知っている”ではなく、“できる”を可視化し、まなぶとはたらくをつなぐ
サービス。

	概要	学部
1	はじめに：本取組みの概要・GPS-Academicについて	・日本大学の8つの検証とこれまでの取り組み（参考）文部科学省の新しい評価制度読み解き ・アセスメント概要・活用イメージ
2	1章：分析に用いたデータ概要	・2026年度単年受検概要 ・学年・学部別受検率推移（2023年度～2025年度） ・報告テーマのまとめ（新入生調査・出口の質保証）
3	2章：報告テーマ①新入生調査（23～26年度過年度比較）	・4か年平均スコア（全国比較） ・散布図によるクロス集計（全国比較） ・日本大学学部別比較 ・入試区分比較 ・学生意識調査抜粋（全国比較） など
4	3章：報告テーマ②出口の質保証調査（23年度入学生4か年過回比較）	・4回連続受検者平均スコア ・標準偏差・有意差表 ・1→4年生度数分布・散布図 ・1→2→3→4年生箱ひげ図 ・同一受検者スコアUP/STAY/DOWN比 ・4回連続受検者学生意識調査
5	今後に向けて	全学の今後の取り組み・学部の今後の取り組み
6	Appendix	4回連続受検者平均スコア（学科別）

はじめに
本取組みの概要
GPS-Academicについて



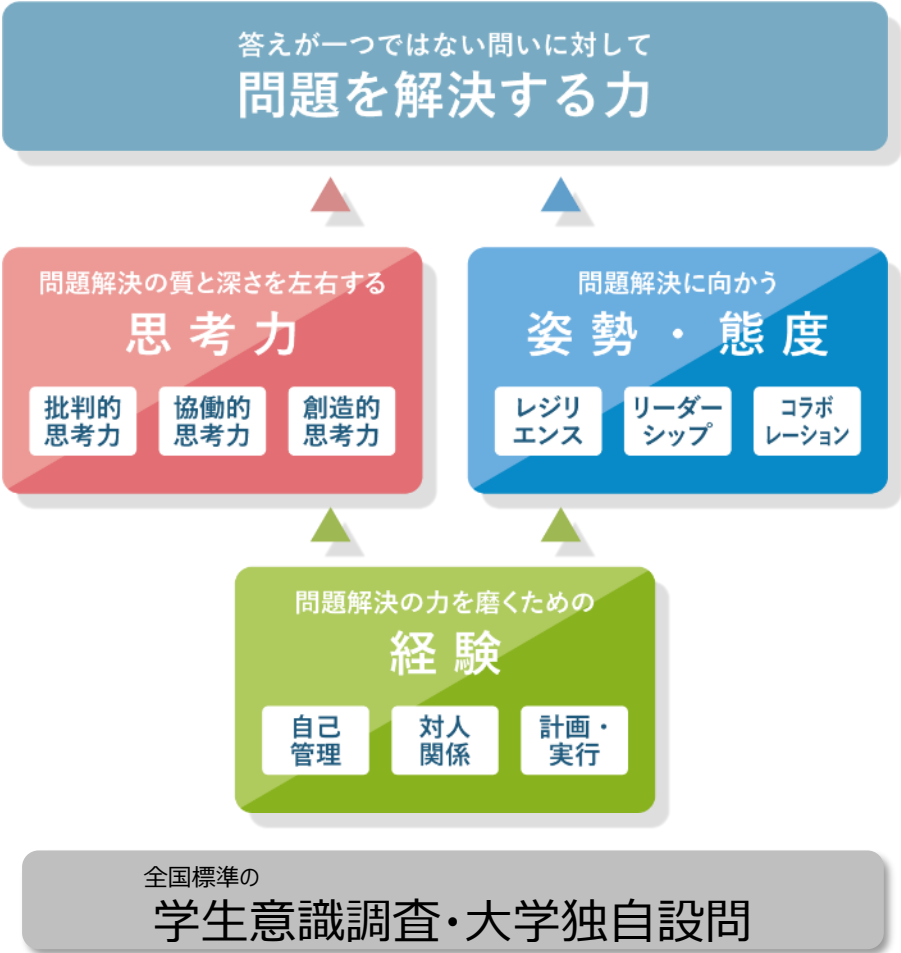


* 大学分科会（第190回）会議配付資料 教育・学習の質向上に向けた新たな評価の在り方ワーキンググループ 議論のまとめ概要（2026年6月3日）

学部ごとの段階別評価の考え方と評価結果の活用イメージ				
✓ 学部ごとの教育の質を評価するにあたっては、質保証の視点と質向上の視点から評価し、評価結果は段階別に示す。 ✓ 学部ごとの段階別評価は ①「実施している教育が高等教育機関として（法令等で）求められている水準に達していない学部」 ②「実施している教育が高等教育機関として（法令等で）求められている水準に達している学部」 (②の水準に達していることを前提に) ③「学生の成長につながる優れた取組を通じて高い教育成果が期待される学部」 ④「学生の成長につながる優れた取組を通じて高い教育成果を上げている学部」 という4段階を検討してはどうか。 ✓ 評語については、例えば、星（3つ星、2つ星、1つ星、要改善）にするなど、高校生や企業等の社会にとってわかりやすい評語とする方向で検討してはどうか。				
段階の 意味	高等教育機関として 求められている水準に 達していない学部	高等教育機関として 求められている水準に達している 学部	学生の成長につながる優れた 取組を通じて高い教育成果が 期待される学部	学生の成長につながる優れた 取組を通じて高い教育成果を 上げている学部
評語（案）	要改善	1つ星（★）	2つ星（★★）	3つ星（★★★）
判定 方法 ・ 活用 イメージ	✓ 「質保証の視点」による評価は実践している教育が法令等 で求められる水準に達しているかで判定。 ✓ 具体的には、学部ごとの評価項目を質保証の視点により 評価し、1つでも満たさない項目がある場合は「要改善」 として判断する。		✓ 「質向上の視点による評価」は学生の成長につながる取組（教育 実践等）と教育成果で判定。 ✓ 具体的には、大学側から、学生の成長につながる優れた取組（教育 実践等）の内容、教育成果の程度及び両者の関連性について、根拠 を示して提出してもらい、総合的に勘案して判断する。	
	□ 要改善学部の場合、高等教育機関として求められる水準 に達していないおそれがあることから、文部科学省において ペナルティを含めたその後の対応を実施することを検討 □ なお、要改善学部の場合であっても、文部科学省により 早期の改善が確認されるなど、状況に応じて再評価の 受審が可能とすることを検討する。		□ 高く評価された学部に対してはインセンティブを検討 （高い評価のイメージ）	

* 中央教育審議会大学分科会／教育・学習の質向上に向けた新たな評価の在り方ワーキンググループ（第9回）／配布資料1（2026年3月17日）

GPS-Academicは答えが1つではない問いに対して問題を解決する力を「思考力」「姿勢態度」「経験」の3観点で測定。
高大社共通の指標として使えるよう設計しています。



高大社共通の指標		
高 校	大 学	社 会
GPS-Academic [®] Global Proficiency Skills program [®]	GPS-Academic [®] Global Proficiency Skills program [®]	GPS-Business [®] Global Proficiency Skills program [®]

CBTの強み

現実世界に近い出題

テキスト問題だけでなく、音声問題・動画問題も出題

現実世界に近い場面を想定した出題にすることでリアルな場面での思考力を測定。

いつでも、どこでも

インターネットにつながったPCがあれば、いつでもどこでも受検可能

時間・場所を問わずに実施可能。入学前、授業内、一斉授業の無い長期休みなど、各大学にとって受検に効果的なタイミングで実施可能。

即時返却

受検後、即結果をリリース。次の一步に繋がりやすい

答案回収→発送→採点→発送→返却の無駄を省く。

問題解決能力

直接評価

間接評価

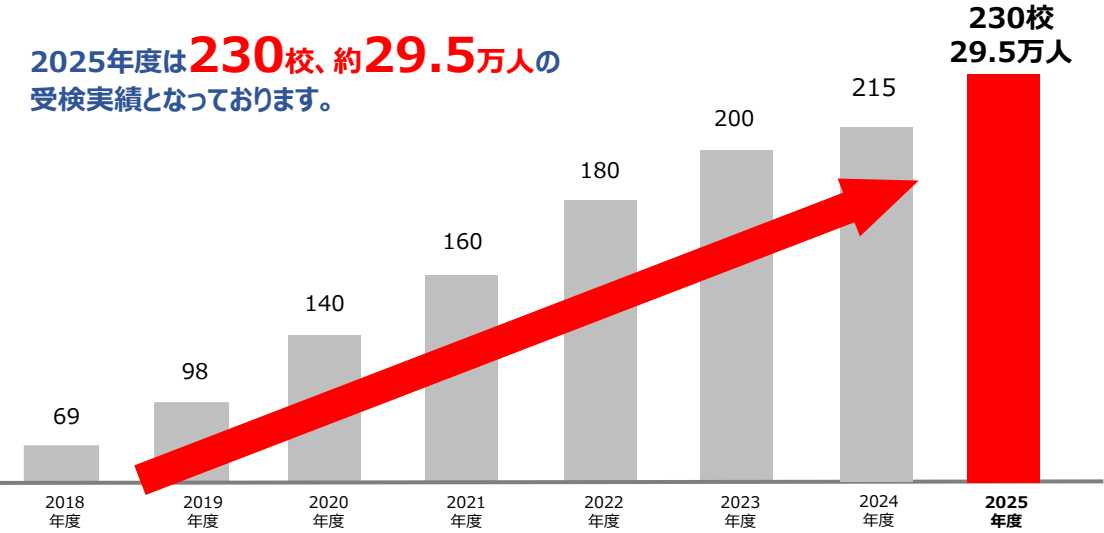
意識調査アンケート

	GPS-A 測定項目		新・社会人基礎力	学力の3要素
思考力 総合	批判的思考力	・情報を抽出し吟味する ・論理的に組み立てて表現する★	考え抜く力 (シンキング)	思考力 判断力 表現力
	協働的思考力	・他者との共通点・違いを理解する ・社会に参画し人と関わる★		
	創造的思考力	・情報を関連づける・類推する ・問題をみだし解決策を生み出す★		
姿勢・態度	レジリエンス	・感情の制御 ・立ち直りの速さ ・状況に応じ冷静に対応する	チームで働く力 (チームワーク)	主体性を持って 多様な人々と協働して学ぶ態度
	リーダーシップ	・自ら先頭に立って進める ・未知の物に挑戦する ・粘り強くやり抜く		
	コラボレーション	・相手の立場に立とうとする ・他者と関わろうとする積極性		
経験	自己管理	・挑戦する経験 ・続ける経験 ・ストレスに対処する経験	前に踏み出す (アクション)	主体性を持って 多様な人々と協働して学ぶ態度
	対人関係	・多様性を受容する経験 ・関係性を築く経験 ・議論する経験		
	計画・実行	・課題を設定する経験 ・解決策を立案する経験 ・実行・検証する経験		
学生意識	新入生用 or 在校生用	・大学教育への期待と評価 ・学習行動と今後の取り組み ・大学への適応 ・進路への意識と行動	何を学ぶか どのように学ぶか どう活躍するか	★記述あり版のみ

各種ベンチマークスコアとの比較により、自大学の特徴を見出すことが可能です

①全受検者平均（学年ごと）

2025年度は**230校**、約**29.5万人**の
受検実績となっております。



②学問系統別平均（20系統）

全国_人文科学
全国_社会科学
全国_理工
全国_医歯薬
全国_生活・芸術
全国_その他

※中分類：6カテゴリ

全受検者_人文
全受検者_外国語
全受検者_教育
全受検者_法学
全受検者_経済・経営
全受検者_社会学
全受検者_国際関係
全受検者_総合科学
全受検者_理
全受検者_工

全国_農・水産
全国_医
全国_歯
全国_薬
全国_保健衛生
全国_体育
全国_生活科学
全国_芸術学
全国_短期大学部
全国_その他

※小分類：20カテゴリ

③偏差値帯別平均

全国_入試偏差値60以上
全国_入試偏差値50～60未満
全国_入試偏差値40～50未満
全国_入試偏差値40未満

※入試偏差値帯は、ベネッセコーポレーションで
定めている各大学ごとの入試偏差値帯を基に区分

④入試区分別平均

一般選抜（旧：一般入試）
学校推薦型選抜_推薦入試
学校推薦型選抜_指定校推薦入試
学校推薦型選抜_付属・系列校推薦入試
学校推薦型選抜_一般・公募推薦入試
学校推薦型選抜_その他推薦入試
総合型選抜（旧：AO入試）
共通テスト利用入試（旧：センター試験利用入試）
留学生入試
その他

⑤GPS-Business社会人調査結果

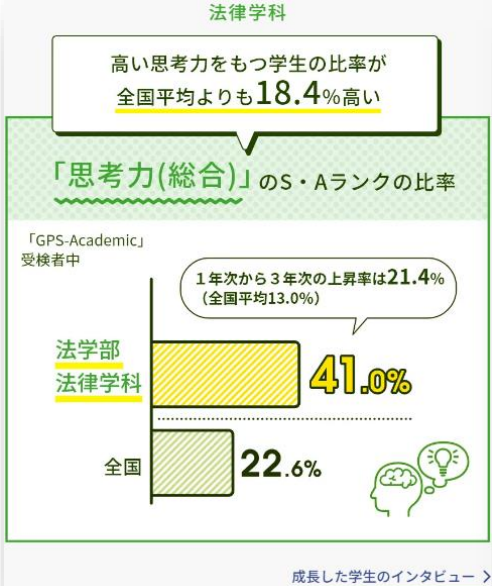
GPS-Business®
Global Proficiency Skills program®

12

新入生への初年次教育・キャリア教育の教材、高校訪問時に持参するリーフレット、HP公開など多岐にわたり活用。

量的データ

質的データ



多面的に活用することで費用対効果面でも評価された取り組み

* 成長する成蹊大生の図鑑（成蹊大学HPより） https://www.seikei.ac.jp/university/aboutus/edu_info/pictorialbook/

ホームページに公開



リーフレット化し
高校訪問時に持参

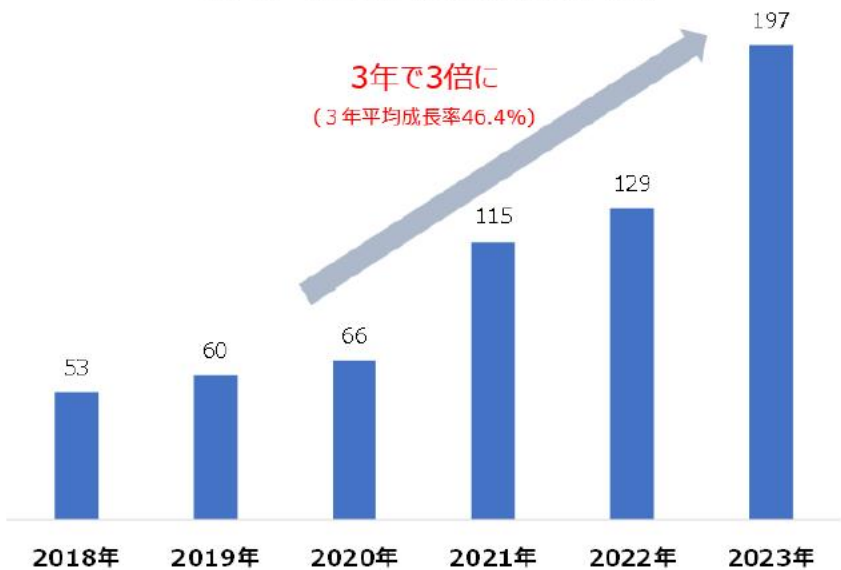


入学時に
新入生に配布

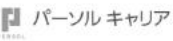
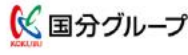




GPS-Business契約社数



3年で3倍に
(3年平均成長率46.4%)



GPS-Business HP : https://www.benesse-i-career.co.jp/gps_business/

ベネッセi-キャリア主催 オンラインセミナー

大学キャリアセンター必見！

参加無料

大学が育む“学びの力”と社会との接続を考える

「採用の仮面」著者 × パナソニック人事が語る
企業が求める人材とこれからのキャリア教育・就活の在り方について

ベネッセi-キャリアでは、就職活動において「学歴」ではなく、学生一人ひとりが大学でどのような学びや成長を遂げてきたのかという「学びの力」や「学びの成果」が正当に評価される社会の実現を目指しています。一方で、大学キャリアセンターの現場では、学生が自身の学びや学びの成果を十分に言語化できず、大学での学びと企業が求める人材像と結びつけられていないという課題も多く見られます。本セミナーでは、「採用の仮面」著者のしそまる先生と、パナソニック人事として長年採用に携わってこられた上田氏の対談を通じて、企業が求める人材とこれからのキャリア教育・就活の在り方について考える機会を提供します。

日時 2026年 2月27日(金) 15:00～16:30

オンライン開催

私服OK
カメラOFF
マイクOFF

当日のプログラム

- ベネッセi-キャリアより情報発信
- ニトリ採用担当から漫画家へ「漫画」を通じて大学・学生に伝えたい就活との向き合い方
- パナソニック人事が語る求める人材像と採用の変化
- トークセッション(質疑応答含む)
- クロージング

しそまる(大場達也)先生 元・ニトリ人事の漫画家

上田 伸一様 パナソニックキャリア・ソリューション・エグゼクティブ(株) 人事センター・タレント・アタリイ・タレント・アタリイ・タレント・アタリイ

小田桐 一弘 株式会社ベネッセi-キャリア 大規模事業本部 部長 兼 人事部 兼 人事部 兼 人事部

お申込みURL あるいは右記コードからお申込みください。

※所属されている大学のメールアドレスでお申込みください。
※事前登録のZOOMウェビナーです。ご登録後、開会URLを返信いたします。

【お問い合わせ】 株式会社ベネッセi-キャリアセミナー事務局 info@benesse-i-career.co.jp

大学名	内容	参考情報
中央大学・法	法学部にて入試検証及び学修成果の一環で実施、結果は全学のポートフォリオから閲覧可能な仕組みを構築	https://www.benesse-i-career.co.jp/gps_academic/case/case25/
明治大学・商	「思考力」という指標を、授業の効果検証や学生への指導に役立てる実践	https://youtu.be/EtAv_LNcE6Y
慶應義塾大学・医	思考力を育むことを意識して学生生活を送ってもらうための初年次教育の成果検証、改善	https://www.benesse-i-career.co.jp/gps_academic/case/case18/
立命館大学	学園コンピテンシーの質的・量的到達度調査／短期留学プログラムの成果検証のために活用／付属校でのスクールポリシー可視化等	https://shinken-ad.co.jp/between/backnumber/pdf/2025_317_toku-shu15.pdf
成城大学	学修成果の可視化から入試制度改革まで改善議論を行うための可視化ツールとして活用	https://www.benesse-i-career.co.jp/gps_academic/case/case16/index.html
成蹊大学	多面的な学修成果の可視化の客観的な指標として活用し、結果データをもとに教学改善の議論を実施、可視化した成果をリーフレット化	https://youtu.be/MvWfYMf47bs
東邦大学	ディプロマポリシーを客観的に可視化するツールとして位置づけ、アセスメントプランにも組み込み活用	https://youtu.be/CXFf_PTFPXI
駒澤大学	教学マネジメントを回すために学修成果の可視化の1つのツールとして活用し、アセスメントプランにも記載	https://youtu.be/At1kEFaCjjU
工学院大学	理工系学生にも不可欠な「思考力」の可視化や、学生のポテンシャルを入学前に発掘	https://youtu.be/Ylkmor8BIDo
北海学園大学	学修成果を客観的なデータで可視化することで教学改善を行い、学生への個別FBによる振り返りや学びの動機付け	https://youtu.be/zr0Ww1iudng
近畿大学	卒業生調査と紐づけ、ロールモデル学生の結果をもとに初年次教育の見直し及び就職支援システムを構築	https://youtu.be/SfK7TBP1Ki8?si=DX_FIIDdUXZyR30Z
九州大学	新設学部（共創学部）の入学生の特色を客観的なデータを用いて検証するツールとして活用	https://www.benesse-i-career.co.jp/gps_academic/case/case05/
電気通信大学	GPAでは見えない学生の思考力、姿勢・態度等を把握し、アセスメントを改革の根拠、学生支援データとして活用	https://www.benesse-i-career.co.jp/gps_academic/case/case11/
岩手県立大学	看護学教育認証評価の制度化に向けて、質保証の客観的指標として活用→その後全学部・全学年への実施に展開	https://www.benesse-i-career.co.jp/gps_academic/case/case19/
青山学院大学	全学部・全学年向けの学生調査の一環として実施。従来のアンケート調査に加え、2020年度より客観指標を取り入れた多面的調査に拡大	https://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/survey.html

※最新のご活用事例は、下記ホームページをご覧ください

https://www.benesse-i-career.co.jp/gps_academic/case/
or
https://www.benesse-i-career.co.jp/gps_academic/video/

1章

分析に用いたデータ概要

※：受検率は、受検者数/システム登録人数で算出しています

■全体サマリ

学年	登録受検者総数	選択式受検者数	受検率	(昨年度)
1年生	16,280	13,330	81.9%	82.3%
2年生	16,489	9,420	57.1%	55.9%
3年生	15,799	7,156	45.3%	47.0%
4年生	17,867	5,995	33.6%	35.8%
5年生	724	474	65.5%	70.0%
6年生	801	472	58.9%	54.2%
通信	7,311	889	12.2%	5.3%
総計	75,271	37,736	50.1%	

学部	登録受検者総数	選択式受検者数	受検率
法学部	7,278	2,601	35.7%
文理学部	8,365	2,700	32.3%
経済学部	6,833	2,634	38.5%
商学部	5,469	2,149	39.3%
芸術学部	3,807	1,618	42.5%
国際関係学部	2,823	2,192	77.6%
危機管理学部	1,338	754	56.4%
スポーツ科学部	1,301	642	49.3%
生産工学部	6,706	5,365	80.0%
工学部	3,444	2,539	73.7%
理工学部	9,037	5,475	60.6%
生物資源科学部	7,204	4,783	66.4%
医学部	790	373	47.2%
歯学部	794	701	88.3%
松戸歯学部	788	696	88.3%
薬学部	1,548	1,274	82.3%
短期大学部（三島）	98	76	77.6%
短期大学部（専攻科）	38	37	97.4%
短期大学部（船橋）	299	238	79.6%
通信教育部	7,311	889	12.2%
総計	75,271	37,736	50.1%

学年	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
1年生	77.5%	78.4%	82.3%	81.9%
2年生	52.4%	50.4%	55.9%	57.1%
3年生	55.2%	43.6%	47.0%	45.3%
4年生	41.5%	34.3%	35.8%	33.6%
5年生	77.2%	57.7%	70.0%	65.5%
6年生	77.5%	60.5%	54.2%	58.9%

学部	学年	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
法学部	1年生	74.6%	59.7%	58.1%	63.5%
	2年生	44.8%	33.4%	36.9%	37.6%
	3年生	46.5%	18.4%	23.8%	25.8%
	4年生	31.7%	15.7%	13.6%	18.7%
文理学部	1年生	36.7%	55.1%	60.4%	66.8%
	2年生	20.6%	11.0%	31.0%	36.6%
	3年生	22.0%	11.8%	19.4%	20.0%
	4年生	11.5%	8.2%	14.2%	10.9%
経済学部	1年生	84.3%	92.6%	79.0%	77.5%
	2年生	47.1%	48.8%	49.6%	39.5%
	3年生	53.0%	31.0%	32.5%	26.3%
	4年生	35.5%	24.0%	19.7%	15.8%
商学部	1年生	81.2%	62.3%	83.4%	72.7%
	2年生	42.0%	32.1%	58.2%	39.5%
	3年生	39.6%	23.9%	45.6%	32.0%
	4年生	20.4%	11.3%	30.5%	16.1%
芸術学部	1年生	73.7%	65.0%	62.6%	78.1%
	2年生	38.5%	37.5%	37.9%	45.8%
	3年生	38.2%	23.9%	27.0%	32.0%
	4年生	27.1%	16.3%	19.9%	18.8%
国際関係学部	1年生	70.5%	95.9%	98.1%	99.4%
	2年生	26.0%	86.0%	75.7%	76.4%
	3年生	24.7%	69.0%	71.0%	56.7%
	4年生	52.7%	74.8%	64.9%	72.9%

学部	学年	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
危機管理学部	1年生	48.9%	94.2%	96.5%	97.7%
	2年生	48.7%	48.5%	57.4%	57.1%
	3年生	42.1%	41.4%	35.5%	46.6%
	4年生	25.9%	30.7%	31.6%	22.6%
スポーツ科学部	1年生	55.2%	92.8%	97.1%	98.7%
	2年生	15.3%	41.3%	43.1%	48.6%
	3年生	30.9%	27.0%	39.2%	34.6%
	4年生	27.4%	22.7%	21.9%	19.1%
理工学部	1年生	89.9%	87.9%	92.1%	93.7%
	2年生	58.8%	66.5%	60.1%	68.9%
	3年生	62.2%	61.3%	65.1%	51.9%
	4年生	47.0%	46.9%	46.8%	35.0%
生産工学部 ※創生デザイン学科	1年生	84.7%	96.3%	95.8%	96.8%
	1年生※	99.3%	92.9%	99.3%	98.4%
	2年生	55.2%	60.6%	74.7%	83.8%
	3年生	71.9%	85.5%	70.7%	81.7%
	4年生	57.7%	56.3%	61.1%	58.9%
	4年生※	—	69.1%	79.8%	80.2%
工学部	1年生	96.5%	97.0%	98.0%	94.8%
	2年生	88.1%	80.0%	79.4%	82.4%
	3年生	80.0%	72.4%	69.5%	62.4%
	4年生	69.8%	71.0%	68.3%	58.9%
生物資源科学部 ※獣医学科	1年生	78.4%	82.2%	97.7%	75.5%
	2年生	48.0%	63.6%	68.5%	70.2%
	3年生	61.0%	46.3%	62.6%	69.4%
	4年生	38.5%	39.3%	32.6%	53.7%
	5年生※	56.8%	5.0%	47.5%	35.0%
	6年生※	78.1%	16.5%	8.5%	13.1%

学部	学年	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
医学部	1年生	74.8%	58.5%	70.4%	95.5%
	2年生	37.1%	19.3%	33.6%	52.4%
	3年生	42.4%	33.6%	14.6%	59.2%
	4年生	38.3%	18.9%	40.8%	47.8%
	5年生	52.0%	24.1%	21.5%	14.4%
	6年生	78.3%	58.1%	31.1%	7.6%
歯学部	1年生	95.3%	100.0%	96.9%	99.2%
	2年生	82.0%	83.5%	95.5%	79.0%
	3年生	89.8%	93.8%	94.2%	99.1%
	4年生	95.1%	95.7%	84.6%	99.3%
	5年生	83.7%	98.3%	83.8%	78.8%
	6年生	91.3%	95.1%	91.1%	76.8%
松戸歯学部	1年生	57.0%	55.8%	72.2%	97.9%
	2年生	32.7%	24.0%	85.2%	97.7%
	3年生	29.3%	23.2%	86.8%	71.4%
	4年生	42.7%	15.4%	54.9%	64.5%
	5年生	62.7%	53.2%	98.2%	99.2%
	6年生	42.9%	30.4%	29.3%	99.3%
薬学部	1年生	98.4%	97.2%	98.4%	98.8%
	2年生	90.1%	86.7%	88.5%	81.6%
	3年生	93.4%	89.7%	68.8%	81.1%
	4年生	98.7%	90.6%	89.1%	77.8%
	5年生	86.1%	83.5%	86.3%	83.3%
	6年生	72.9%	79.1%	77.6%	71.9%
短期大学部(三島)	1年生	61.9%	98.6%	100.0%	95.1%
	2年生	22.7%	80.4%	91.7%	64.9%
短期大学部(船橋)	1年生	78.9%	85.5%	90.4%	95.4%
	2年生	59.5%	55.8%	61.1%	57.9%
短期大学部 (専攻科)	1年生	—	—	100.0%	100.0%
	2年生	—	—	71.4%	94.4%

■ 報告の範囲

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
2020年度入学生	4年生	5年生	6年生	
2021年度入学生	3年生	4年生	5年生	6年生
2022年度入学生	2年生	3年生	4年生	5年生
2023年度入学生	1年生	2年生 ②連続受検者調査	3年生	4年生
2024年度入学生		1年生	2年生	3年生
2025年度入学生		①新入生調査	1年生	2年生
2026年度入学生				1年生



テーマ	報告① 新入生調査 (23～26年度過年度比較) →4カ年の新入生の能力・価値観の変化
	報告② 出口の質保証調査 (23年度入学生4か年過回比較) →能力の成長、価値観の変化
	まとめ：今後に向けて

報告①
新入生調査
(23～26年度過年度比較)

■分析対象テスト一覧

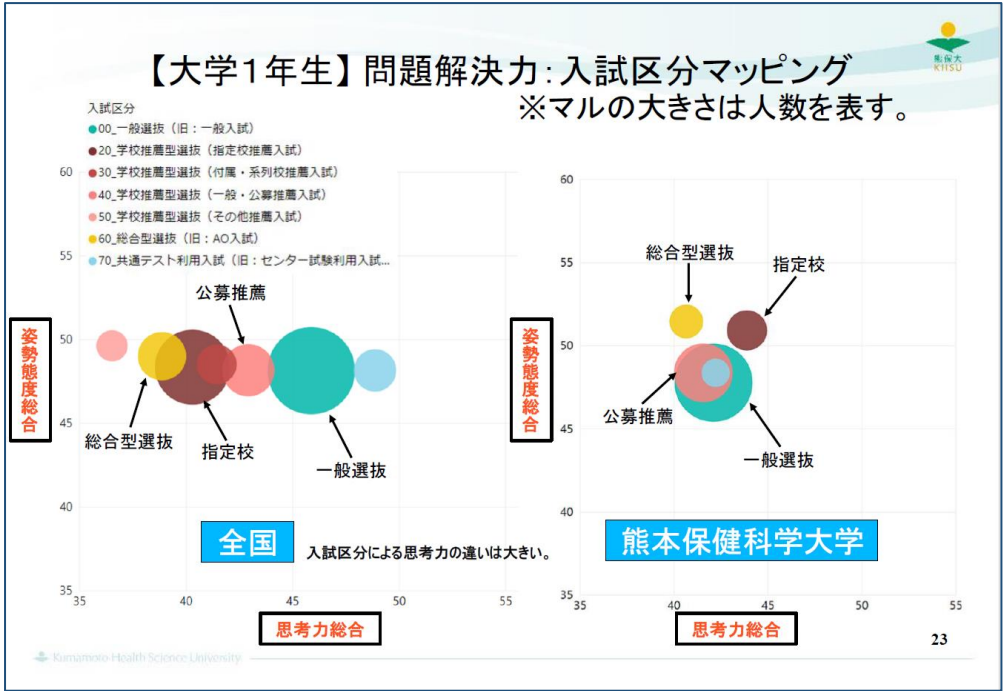
テストコード	テスト名	受検開始日	受検終了日	受検人数
TYA02754	令和5年度芸術学部1年生テスト	2023年4月1日	2023年5月31日	692
TYA03625	令和6年度芸術学部1年生テスト	2024年3月1日	2024年6月5日	590
TYA04799	05510_芸術学部1年生	2025年4月1日	2025年6月5日	563
TYA05875	05510_芸術学部1年生	2026年4月1日	2026年6月5日	709

※2026年度版テストより学生意識調査の設問を一部改訂しております。
改訂に伴い新設・変更した設問はデータがある年度のみの集計表示となります。

■ 熊本保健科学大学：入試検証

入試区分×GPS-Academic・思考力スコア
＝多様な入試制度で入学する学生の質のばらつきを可視化

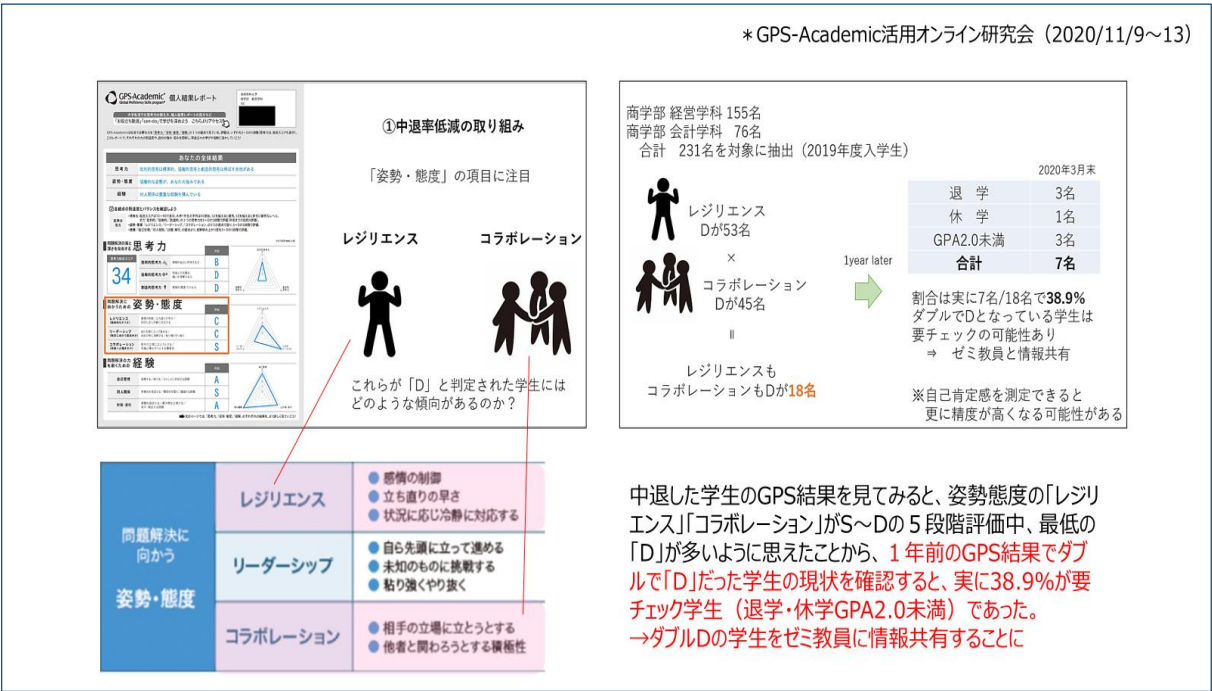
入試区分によってばらつきがでていた思考力スコア。
出身高校の評定を調整し、年内入試と年明け入試の差を
小さくする施策に利用。



■ 関東A大学：中退低減

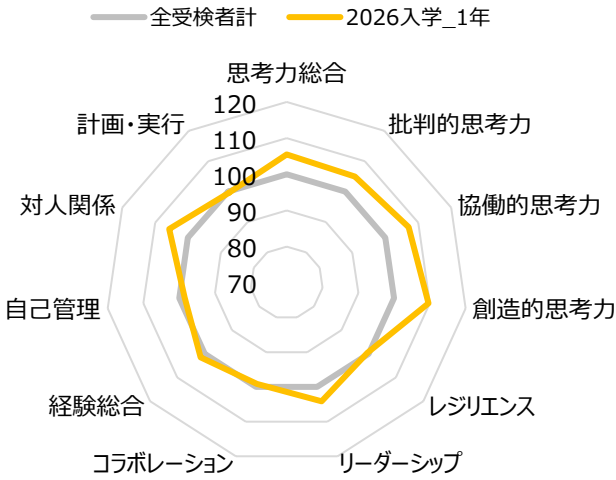
過去の中退学生のデータ×GPS-Academic・姿勢態度スコア
＝顕在的な不安因子だけではなく、潜在的な因子分析にも活用

中退者のGPS結果から、「レジリエンス」と「コラボレーション」がともに低評価 (D) の学生に課題傾向が見られた。過去の結果では、そのうち約4割が要チェック学生であったため、該当学生情報をゼミ教員へ共有する取り組みを開始。

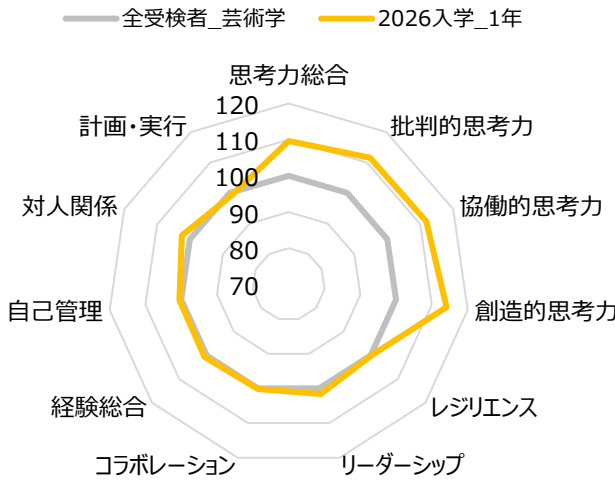


			客観評価（スコア：0～100）							主観評価（達成度：0～100%）			
			問題解決の質を左右する 思考力				問題解決に向かう 姿勢・態度			問題解決の力を磨くための 経験			
			思考力				姿勢・態度			経験			
受検対象	受検年度	受検人数	思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
学部全体	2023入学_1年	692	45.5	44.3	48.2	44.5	48.0	49.6	50.6	59.3	55.4	65.0	57.4
学部全体	2024入学_1年	590	43.6	42.2	42.2	43.5	46.9	49.5	49.6	57.5	52.9	63.4	56.2
学部全体	2025入学_1年	563	49.5	47.1	51.5	52.4	46.2	48.6	49.5	57.3	53.0	63.3	55.6
学部全体	2026入学_1年	709	47.5	45.3	47.5	50.2	47.7	50.0	49.9	57.6	53.2	64.0	55.8
全受検者計	2026入学_1年	-	45.0	43.2	44.4	45.8	47.9	48.0	50.3	56.8	54.0	60.5	56.0
全受検者_芸術学	2026入学_1年	-	43.3	40.6	42.5	44.0	47.6	49.2	49.8	57.2	52.9	62.4	56.2

全受検者計を100としたレーダーチャート



全受検者_芸術学を100としたレーダーチャート

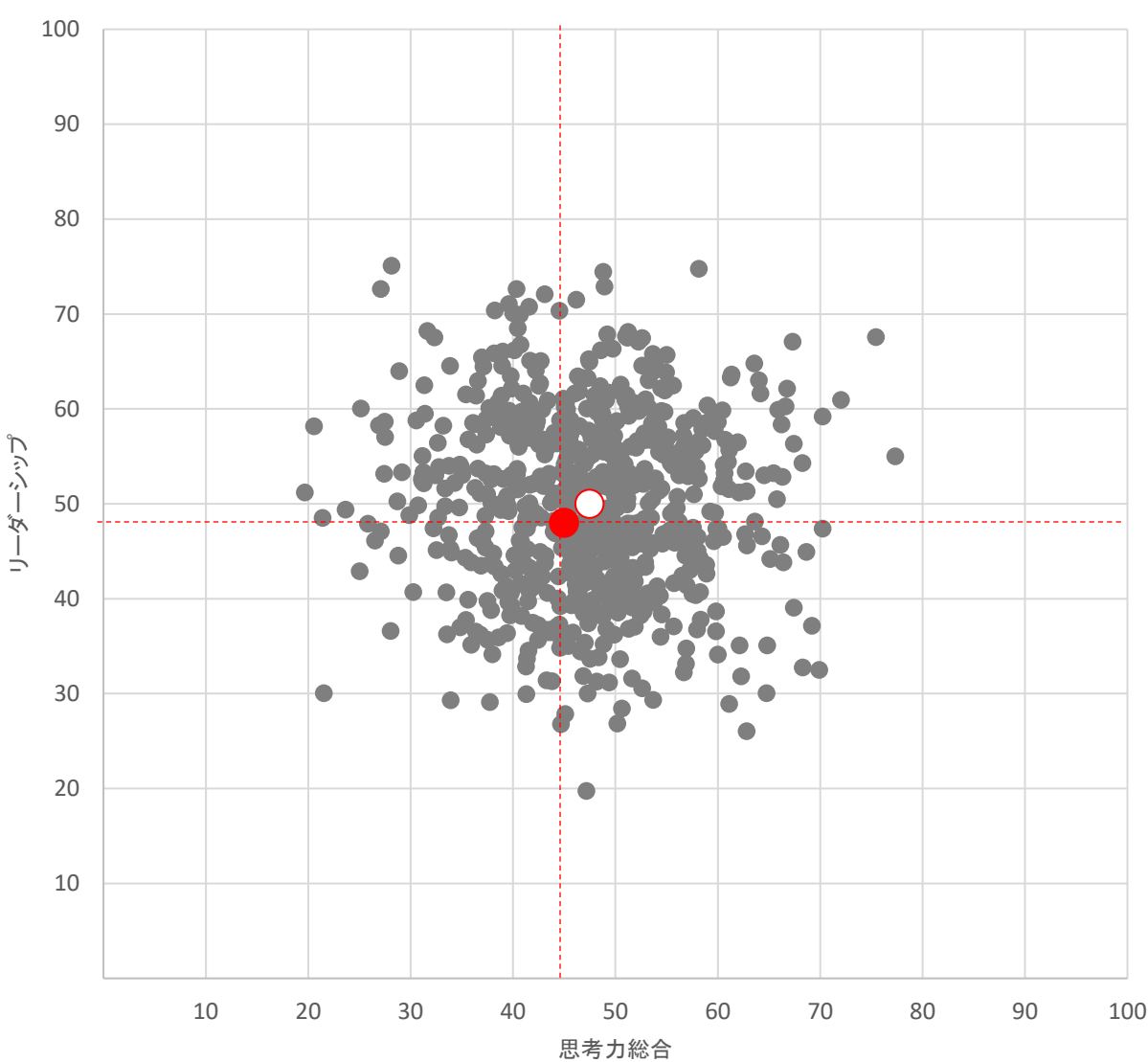


思考力：低 × リーダーシップ：高

第2象限	人数	割合
2026	153	21.6%

思考力：低 × リーダーシップ：低

第3象限	人数	割合
2026	98	13.8%



思考力：高 × リーダーシップ：高

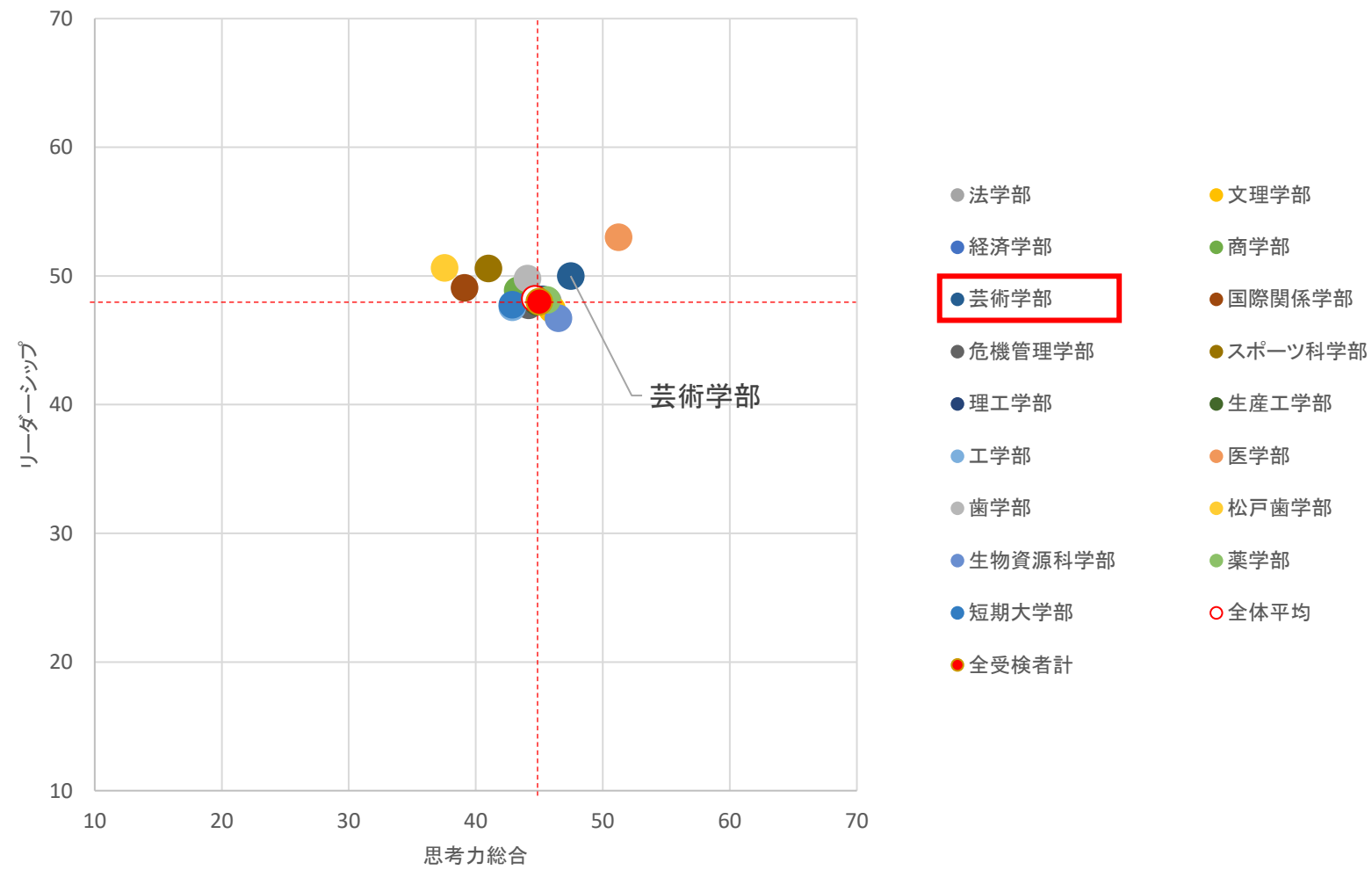
第1象限	人数	割合
2026	253	35.7%

思考力：高 × リーダーシップ：低

第4象限	人数	割合
2026	205	28.9%

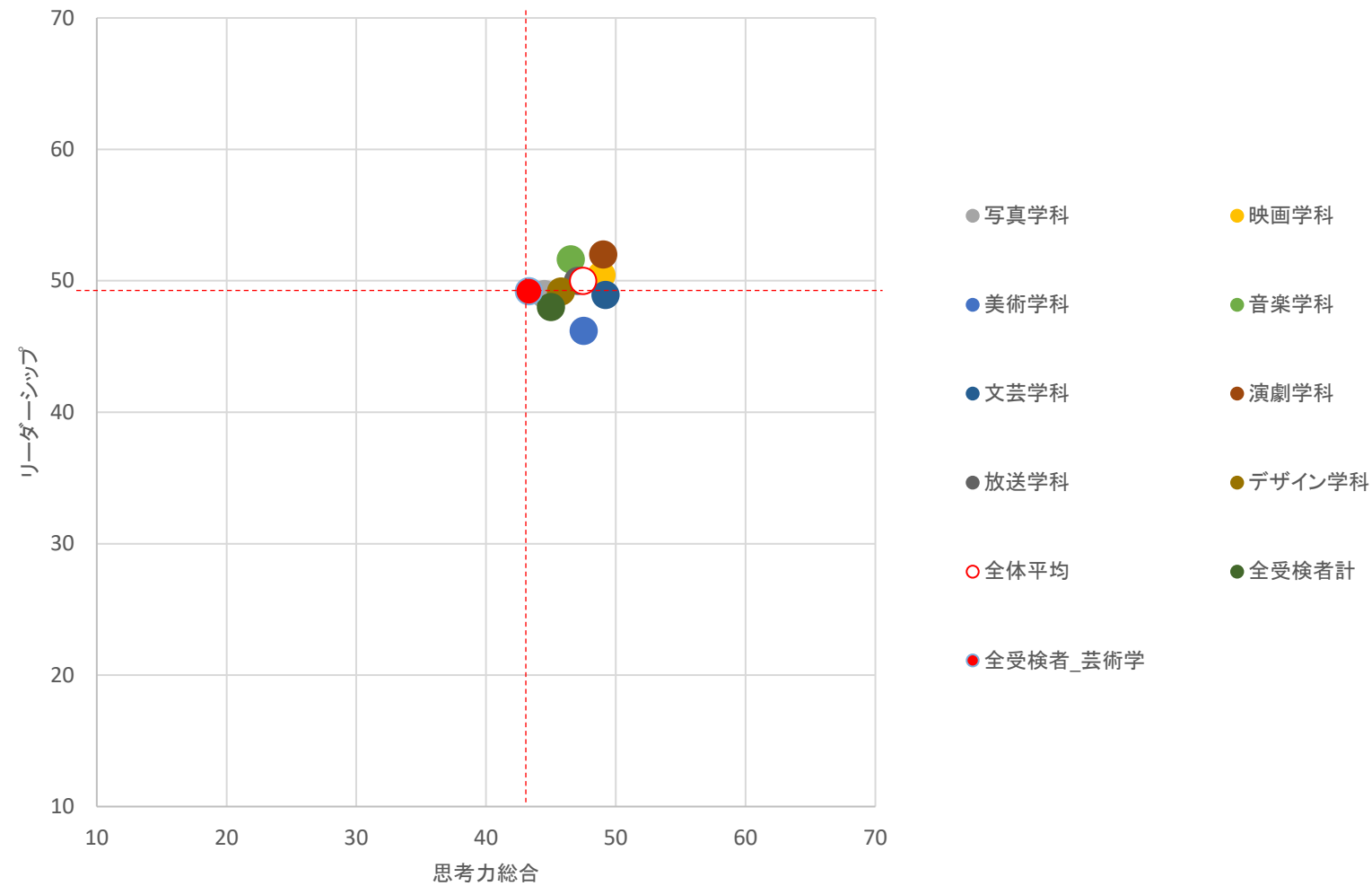
基準・・・赤丸：全受検者計の平均 / 白丸：学部全体平均

			客観評価（スコア：0～100）							主観評価（達成度：0～100%）			
			問題解決の質を左右する 思考力				問題解決に向かう 姿勢・態度			問題解決の力を磨くための 経験			
			思考力				姿勢・態度			経験			
受検対象	受検年度	受検人数	思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
法学部	2026入学_1年	1,096	45.7	43.7	44.6	47.4	48.1	48.0	49.3	57.6	54.5	60.7	57.8
文理学部	2026入学_1年	1,296	46.0	44.2	45.1	47.2	47.2	47.4	49.4	55.9	52.5	59.9	55.3
経済学部	2026入学_1年	1,216	44.1	42.3	43.3	44.2	49.3	48.7	50.5	57.7	55.4	60.7	57.0
商学部	2026入学_1年	948	43.3	40.8	42.3	44.1	48.8	48.9	50.4	57.6	55.7	60.3	56.8
芸術学部	2026入学_1年	709	47.5	45.3	47.5	50.2	47.7	50.0	49.9	57.6	53.2	64.0	55.8
国際関係学部	2026入学_1年	788	39.1	36.3	35.8	38.6	49.3	49.1	50.9	59.1	56.1	63.0	58.1
危機管理学部	2026入学_1年	343	44.2	41.0	43.9	46.2	49.4	47.7	50.7	55.7	52.5	59.9	54.7
スポーツ科学部	2026入学_1年	310	41.0	37.6	39.9	41.4	49.2	50.6	50.2	55.4	53.8	59.0	53.6
理工学部	2026入学_1年	1,918	45.2	44.6	43.2	45.2	49.2	48.2	49.4	57.3	54.1	60.6	57.3
生産工学部	2026入学_1年	1,464	44.8	43.4	43.8	45.6	49.8	48.0	50.9	57.0	53.0	61.3	56.7
工学部	2026入学_1年	812	42.9	42.2	40.4	42.3	48.7	47.6	49.8	58.1	54.4	61.3	58.6
医学部	2026入学_1年	127	51.2	52.9	48.9	51.2	52.2	53.0	53.2	66.2	66.7	68.9	62.9
歯学部	2026入学_1年	136	44.1	42.9	42.4	44.3	50.9	49.8	51.3	61.8	59.5	64.1	61.7
松戸歯学部	2026入学_1年	130	37.5	34.6	31.6	36.2	50.7	50.6	50.5	65.7	62.8	67.8	66.5
生物資源科学部	2026入学_1年	1,560	46.5	45.0	46.4	47.6	48.3	46.7	50.4	55.0	51.7	59.1	54.3
全体	2026入学_1年	13,310	44.6	43.0	43.4	45.3	48.8	48.2	50.1	57.3	54.1	60.9	56.7
全受検者計	2026入学_1年	-	45.0	43.2	44.4	45.8	47.9	48.0	50.3	56.8	54.0	60.5	56.0



受検対象	受検人数	思考力総合	リーダーシップ
法学部	1,096	45.7	48.0
文理学部	1,296	46.0	47.4
経済学部	1,216	44.1	48.7
商学部	948	43.3	48.9
芸術学部	709	47.5	50.0
国際関係学部	788	39.1	49.1
危機管理学部	343	44.2	47.7
スポーツ科学部	310	41.0	50.6
理工学部	1,918	45.2	48.2
生産工学部	1,464	44.8	48.0
工学部	812	42.9	47.6
医学部	127	51.2	53.0
歯学部	136	44.1	49.8
松戸歯学部	130	37.5	50.6
生物資源科学部	1,560	46.5	46.7
薬学部	255	45.6	48.1
短期大学部	201	42.9	47.8
全体	13,310	44.6	48.2
全受検者計	-	45.0	48.0

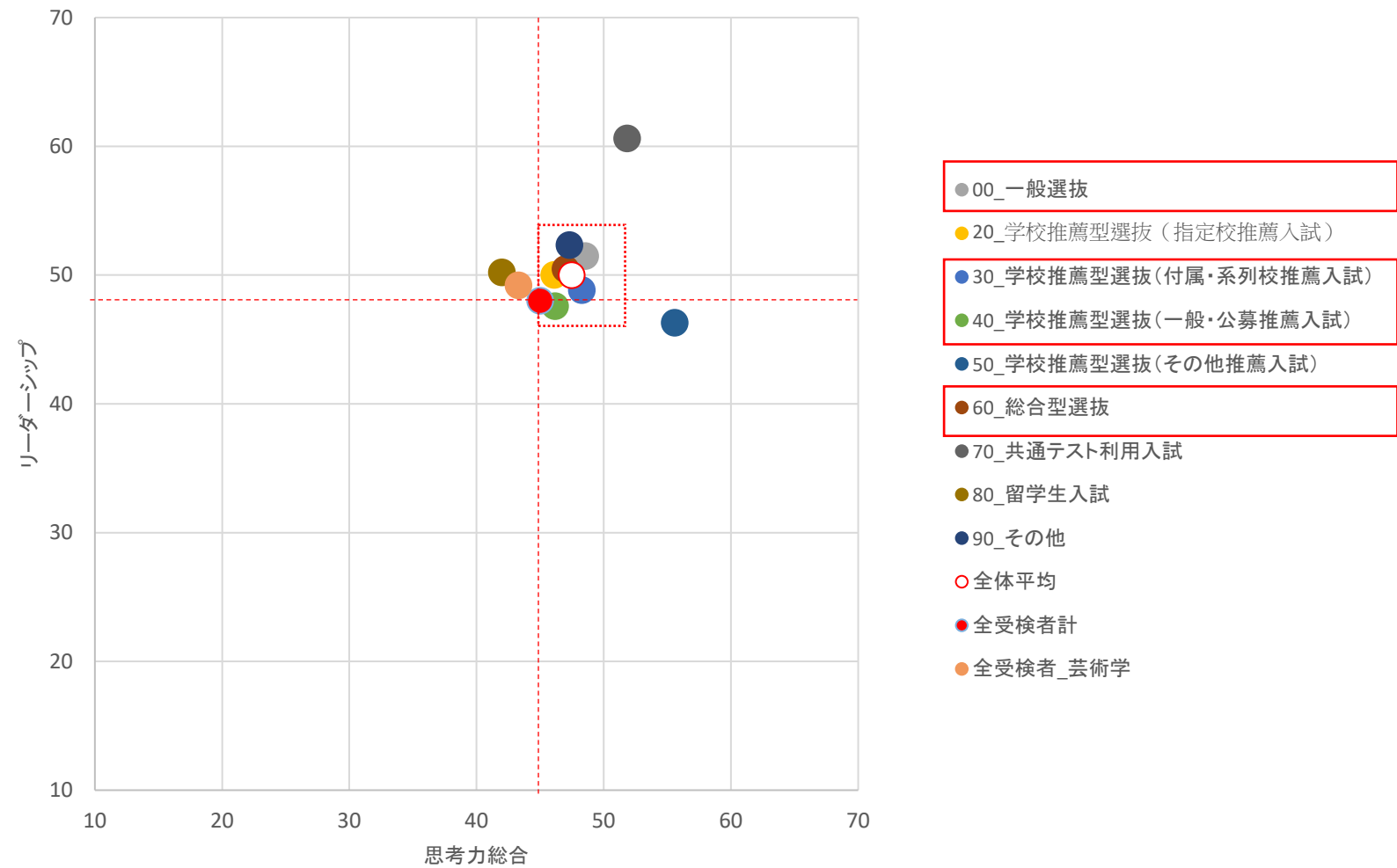
			客観評価（スコア：0～100）							主観評価（達成度：0～100％）			
			問題解決の質を左右する 思考力				問題解決に向かう 姿勢・態度			問題解決の力を磨くための 経験			
			思考力				姿勢・態度			経験			
受検対象	受検年度	受検人数	思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
写真学科	2026入学_1年	104	44.5	42.3	41.7	46.7	48.4	49.0	49.0	58.0	53.7	62.5	57.7
映画学科	2026入学_1年	120	48.9	46.2	49.9	52.0	48.3	50.4	50.5	57.3	53.6	64.2	54.0
美術学科	2026入学_1年	27	47.5	45.5	45.7	49.9	46.4	46.2	48.4	56.4	50.7	63.9	54.5
音楽学科	2026入学_1年	56	46.5	42.8	48.4	47.6	47.7	51.6	50.4	58.1	56.4	63.0	54.9
文芸学科	2026入学_1年	102	49.2	48.0	50.9	51.7	45.9	48.9	48.3	56.4	50.0	62.6	56.7
演劇学科	2026入学_1年	115	49.0	47.0	48.4	53.0	48.4	52.0	51.4	59.2	53.3	68.9	55.4
放送学科	2026入学_1年	117	47.1	45.7	46.5	50.5	47.7	50.0	50.4	55.9	53.2	61.2	53.4
デザイン学科	2026入学_1年	68	45.8	42.7	47.5	47.1	47.2	49.2	49.1	60.0	54.6	65.1	60.4
学部全体	2026入学_1年	709	47.5	45.3	47.5	50.2	47.7	50.0	49.9	57.6	53.2	64.0	55.8
全受検者計	2026入学_1年	-	45.0	43.2	44.4	45.8	47.9	48.0	50.3	56.8	54.0	60.5	56.0
全受検者_芸術学	2026入学_1年	-	43.3	40.6	42.5	44.0	47.6	49.2	49.8	57.2	52.9	62.4	56.2



受検対象	受検人数	思考力総合	リーダーシップ
写真学科	104	44.5	49.0
映画学科	120	48.9	50.4
美術学科	27	47.5	46.2
音楽学科	56	46.5	51.6
文芸学科	102	49.2	48.9
演劇学科	115	49.0	52.0
放送学科	117	47.1	50.0
デザイン学科	68	45.8	49.2
学部全体	709	47.5	50.0
全受検者計	-	45.0	48.0
全受検者_芸術学	-	43.3	49.2

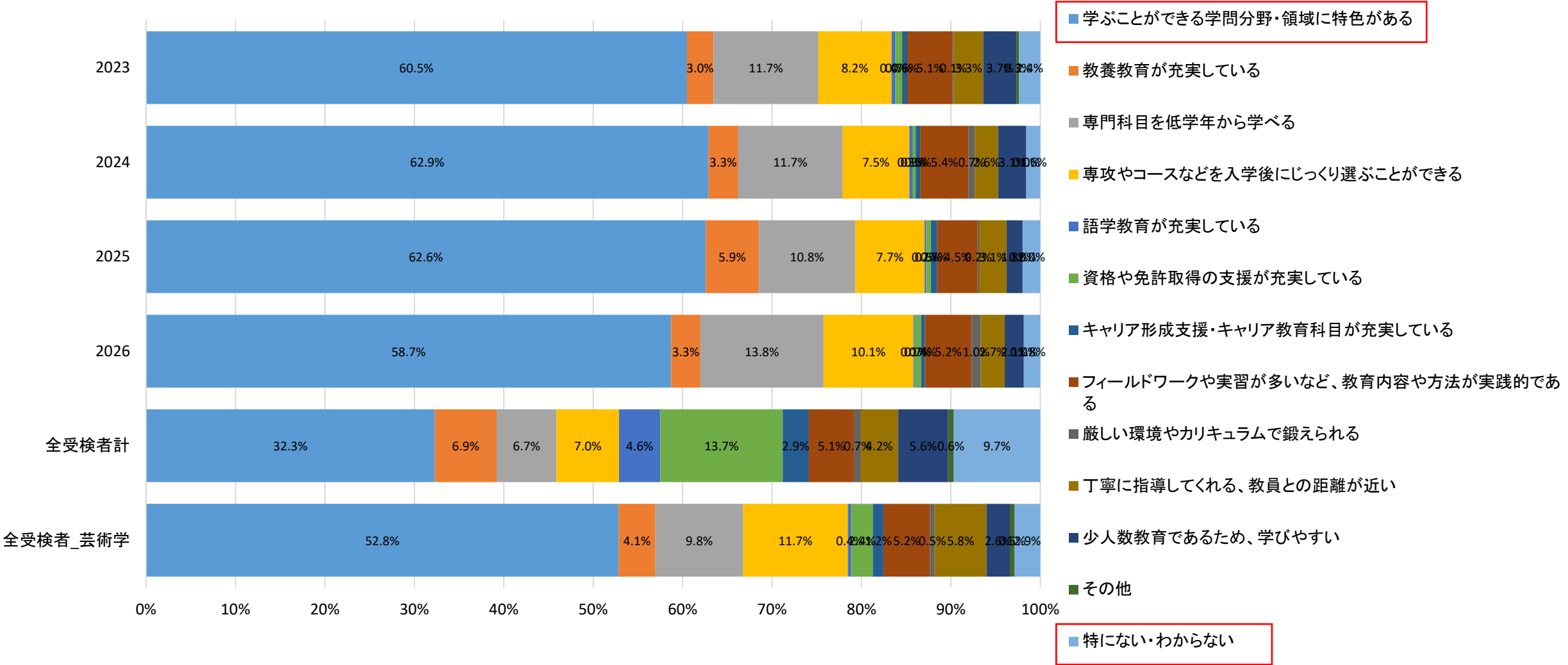
			客観評価（スコア：0～100）							主観評価（達成度：0～100%）			
			問題解決の質を左右する 思考力				問題解決に向かう 姿勢・態度			問題解決の力を磨くための 経験			
			思考力				姿勢・態度			経験			
受検対象	受検年度	受検人数	思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
00_一般選抜	2026入学_1年	199	48.5	47.0	48.6	50.7	48.8	51.5	50.1	59.8	55.9	65.5	57.9
20_学校推薦型選抜（指定校推薦入試）	2026入学_1年	11	46.1	45.6	44.6	48.4	48.3	50.0	50.9	61.8	58.2	66.1	61.1
30_学校推薦型選抜（付属・系列校推薦入試）	2026入学_1年	125	48.3	45.9	49.0	52.1	47.9	48.8	50.3	58.6	55.9	63.5	56.5
40_学校推薦型選抜（一般・公募推薦入試）	2026入学_1年	113	46.2	43.8	46.0	48.8	45.4	47.6	47.6	54.2	47.8	61.3	53.5
50_学校推薦型選抜（その他推薦入試）	2026入学_1年	4	55.6	53.0	53.4	61.7	51.4	46.3	53.6	55.4	52.5	61.3	52.5
60_総合型選抜	2026入学_1年	237	47.0	44.3	46.8	49.8	47.6	50.5	50.4	56.7	51.6	64.1	54.4
70_共通テスト利用入試	2026入学_1年	1	51.8	45.9	57.2	53.0	49.7	60.6	67.0	68.3	60.0	91.7	53.3
80_留学生入試	2026入学_1年	13	42.0	40.2	44.4	38.6	49.6	50.2	48.7	59.7	58.1	63.2	57.7
90_その他	2026入学_1年	6	47.3	48.4	44.4	53.8	44.0	52.3	49.4	54.5	50.3	61.1	52.2
学部全体	2026入学_1年	709	47.5	45.3	47.5	50.2	47.7	50.0	49.9	57.6	53.2	64.0	55.8
全受検者計	2026入学_1年	-	45.0	43.2	44.4	45.8	47.9	48.0	50.3	56.8	54.0	60.5	56.0
全受検者_芸術学	2026入学_1年	-	43.3	40.6	42.5	44.0	47.6	49.2	49.8	57.2	52.9	62.4	56.2

※視覚的わかりやすさのために、項目ごとにスコアの高低で色をつけています。（全体より5ポイント以上高いと青、低いと橙）
※区分情報は学生選択によって分類されています。

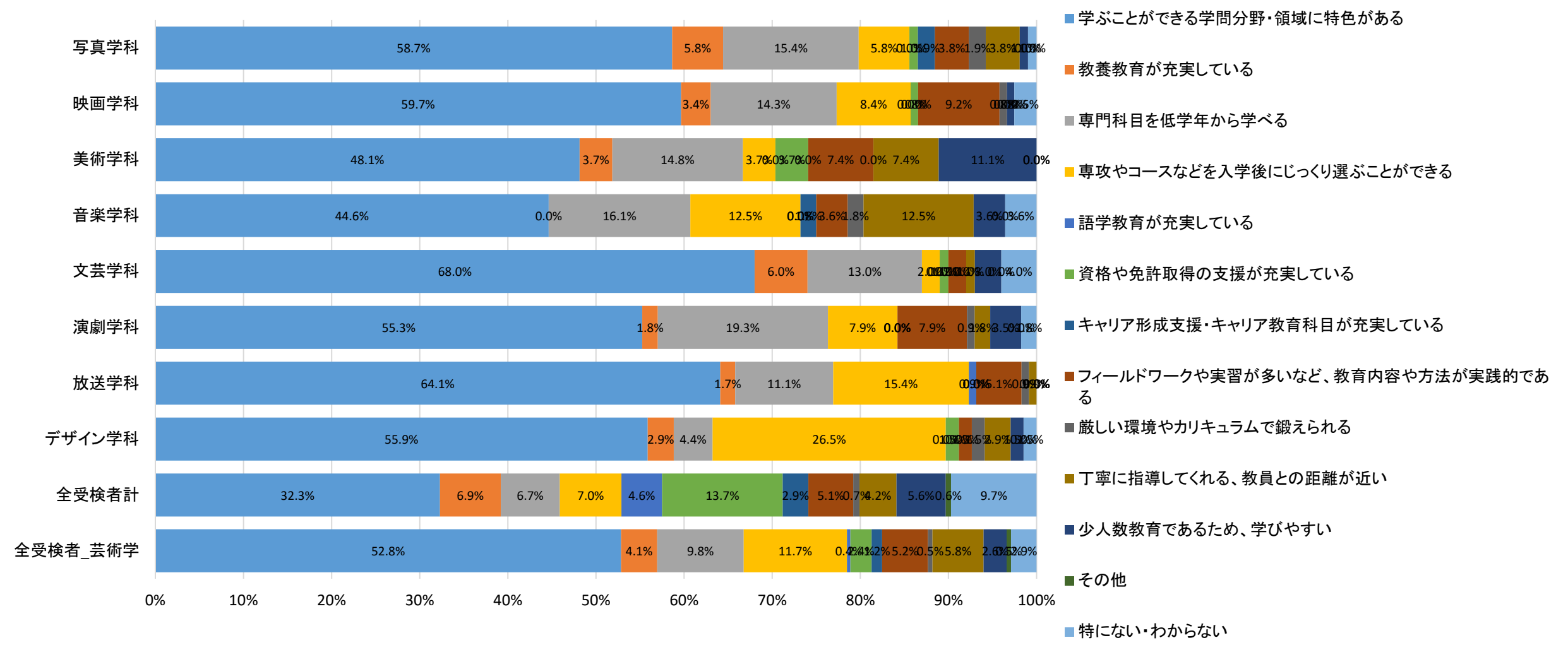


受検対象	受検人数	思考力総合	リーダーシップ
00_一般選抜	199	48.5	51.5
20_学校推薦型選抜（指定校推薦入試）	11	46.1	50.0
30_学校推薦型選抜（付属・系列校推薦入試）	125	48.3	48.8
40_学校推薦型選抜（一般・公募推薦入試）	113	46.2	47.6
50_学校推薦型選抜（その他推薦入試）	4	55.6	46.3
60_総合型選抜	237	47.0	50.5
70_共通テスト利用入試	1	51.8	60.6
80_留学生入試	13	42.0	50.2
90_その他	6	47.3	52.3
学部全体	709	47.5	50.0
全受検者計	-	45.0	48.0
全受検者_芸術学	-	43.3	49.2

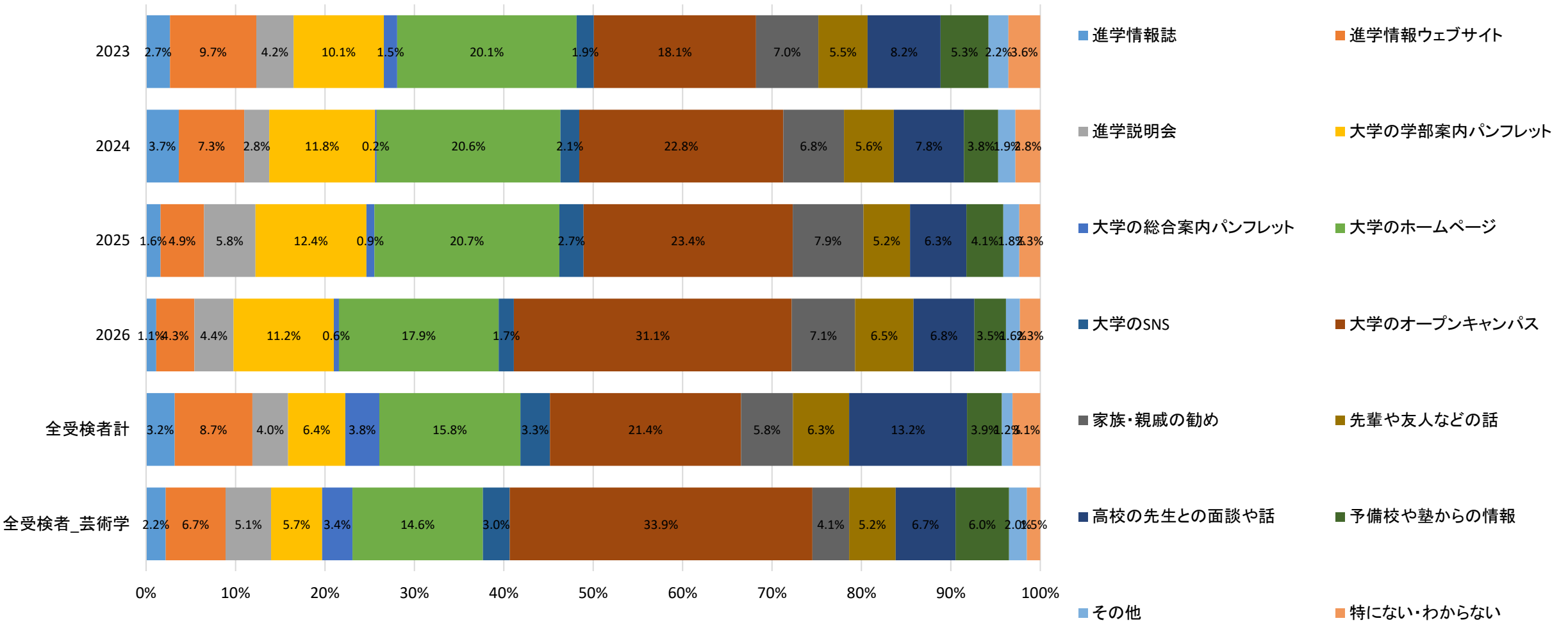
学問内容や学び方 1位



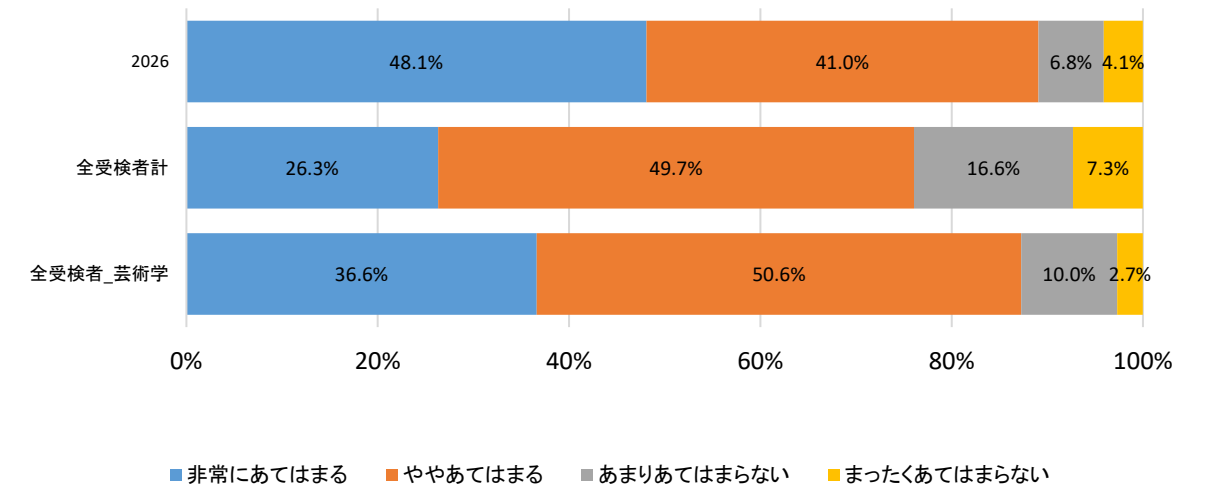
学問内容や学び方 1位



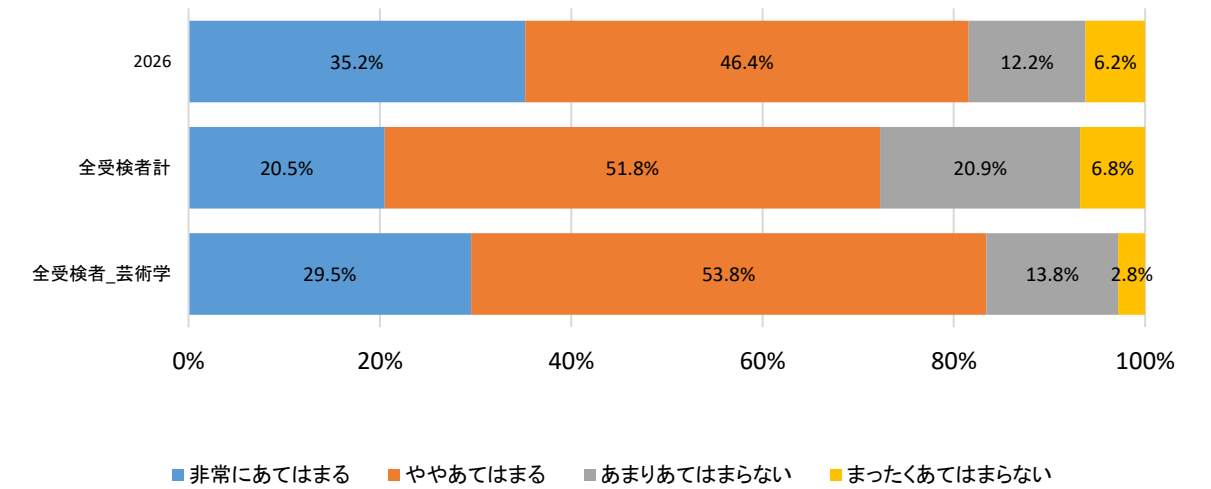
大学選択に役立った情報源 1位



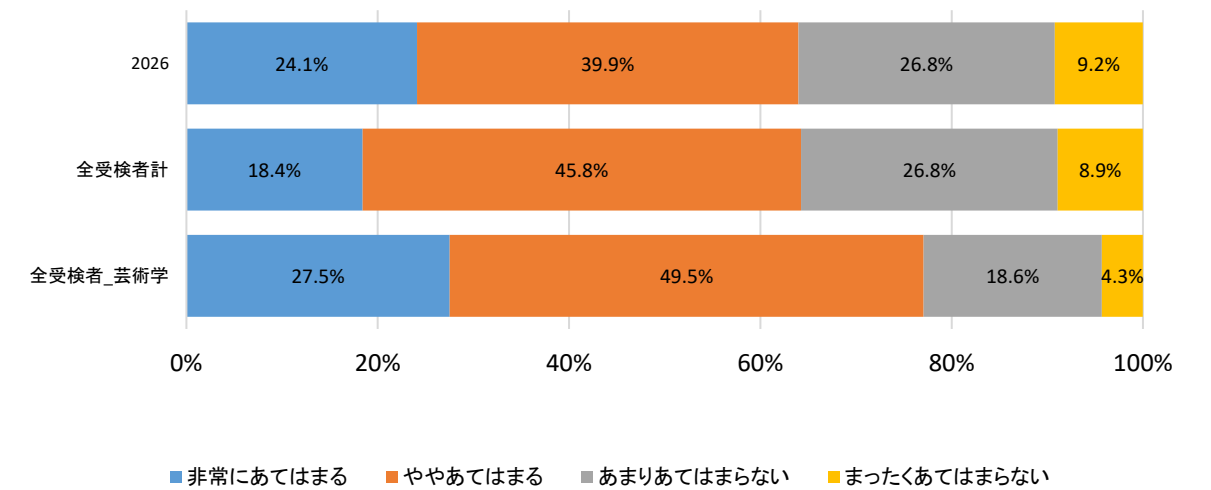
アドミッション・ポリシー（どういう学生に入学してもらいたいのかの方針）を知っている



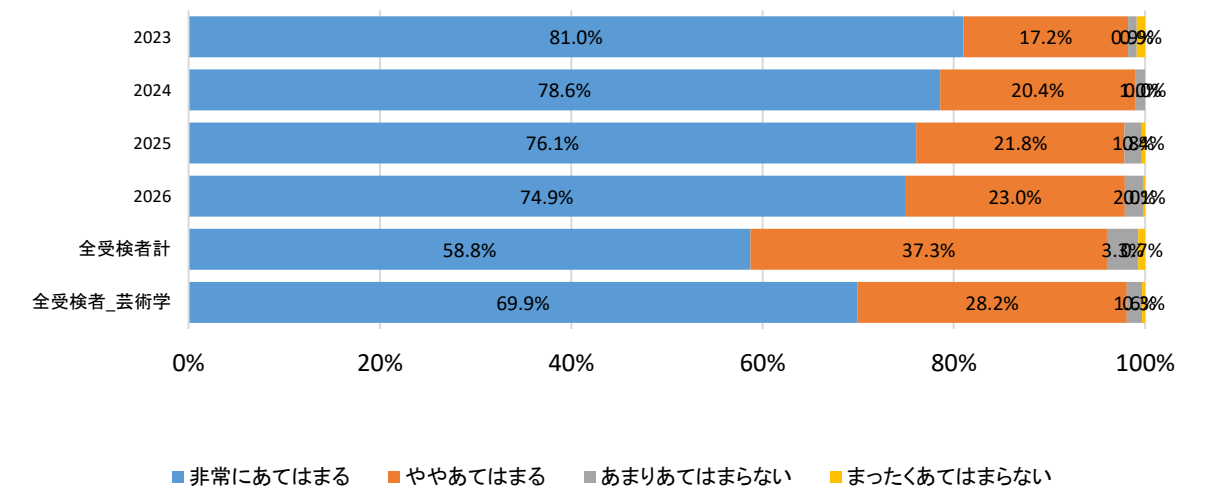
カリキュラム・ポリシー（どのような教育内容・方法を実施するかの方針）を知っている



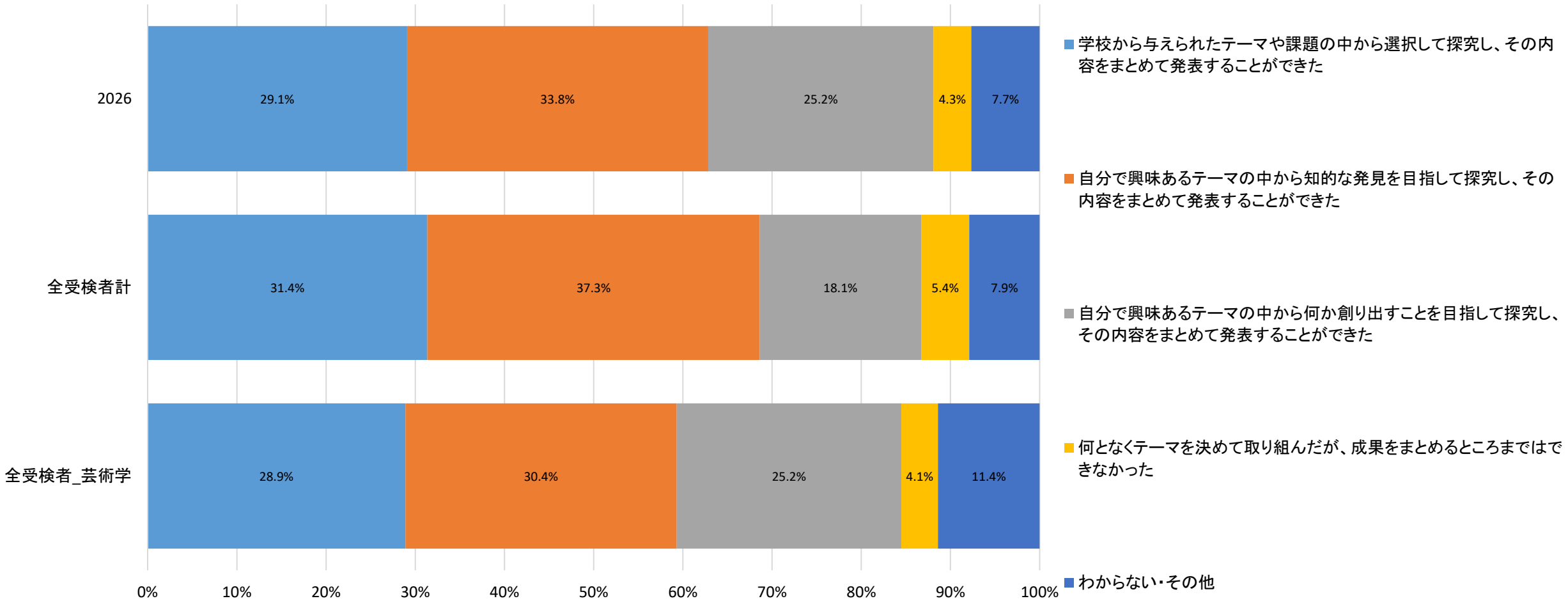
ディプロマ・ポリシー（卒業に必要な身に付けるべき力の方針）を知っている



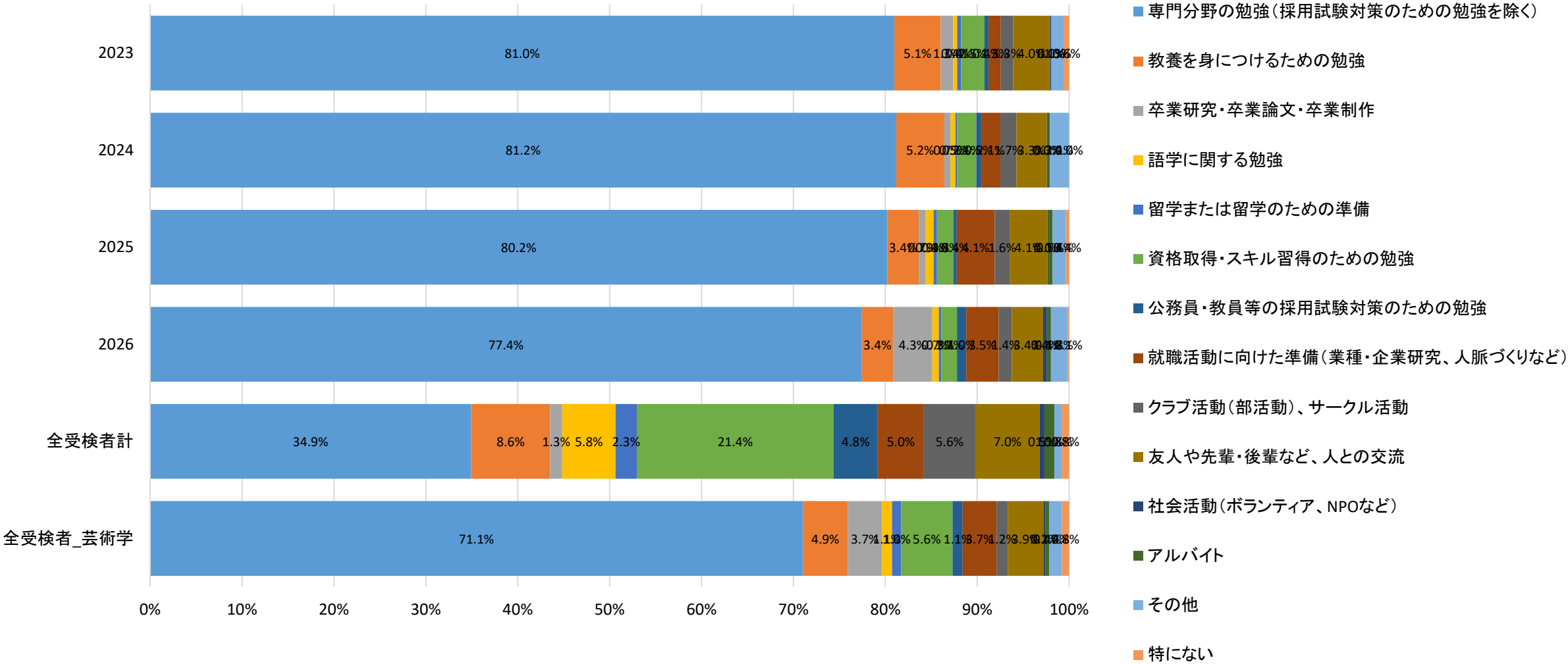
あなたが通う大学で、自分の将来に必要な学びを得ることができると思う



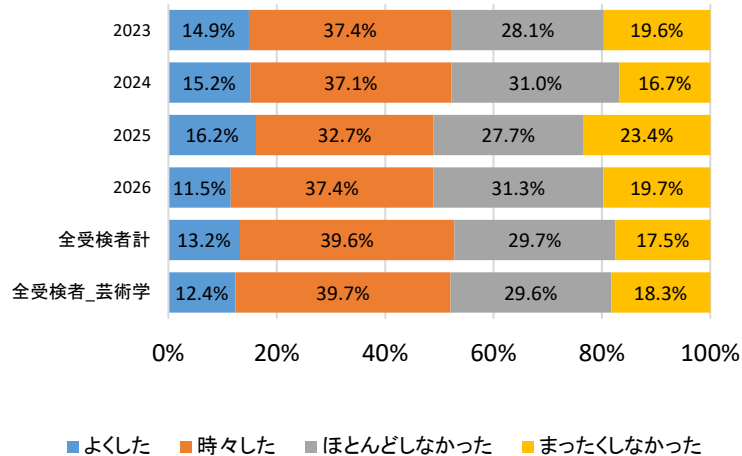
高校時代の探究の取り組み方



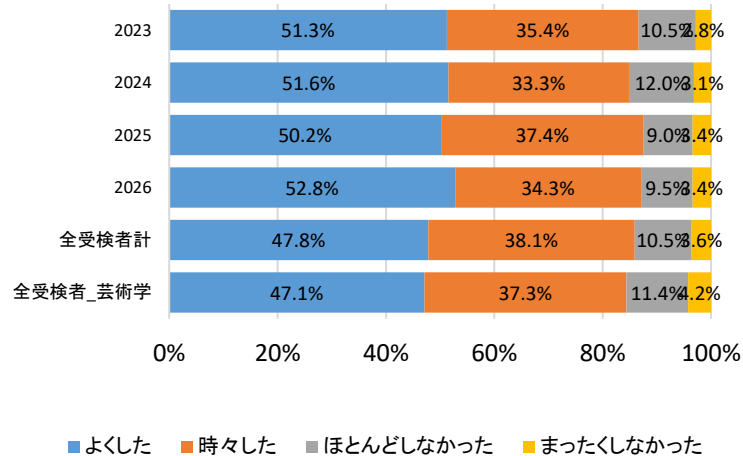
力を入れたいこと1位



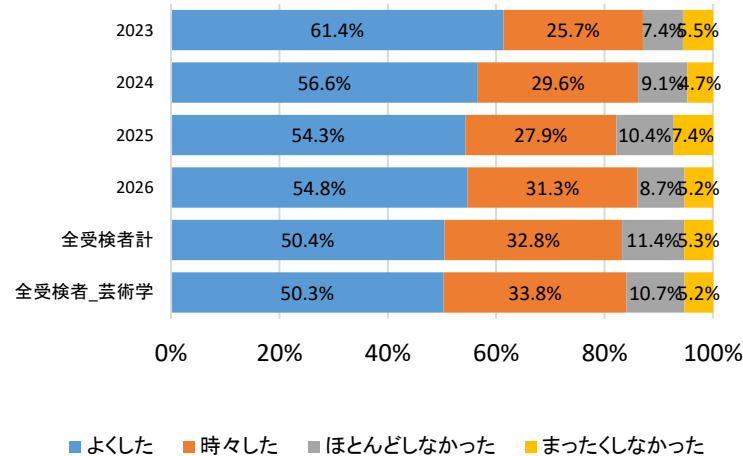
必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む



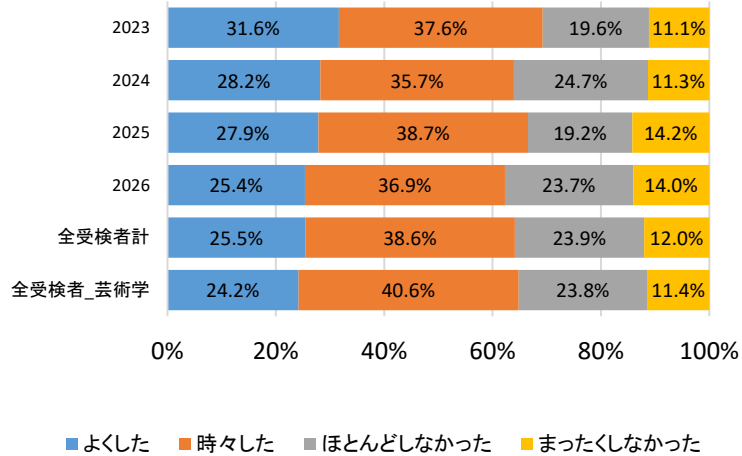
授業中、グループワークやディスカッションに積極的に参加する



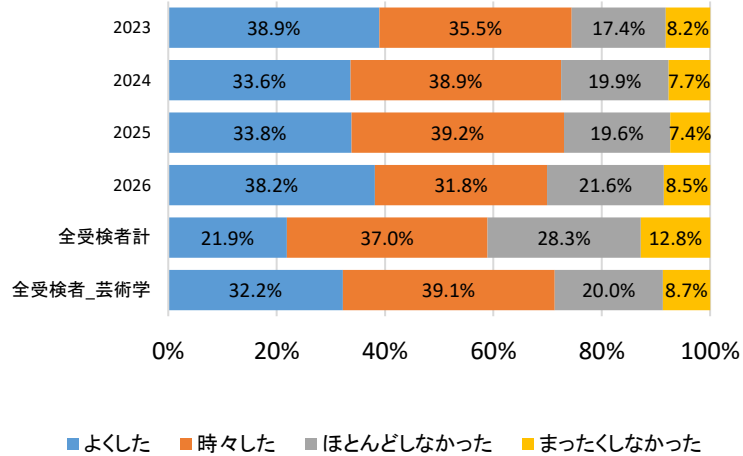
板書や投影資料以外でも大事なことはノートにとる



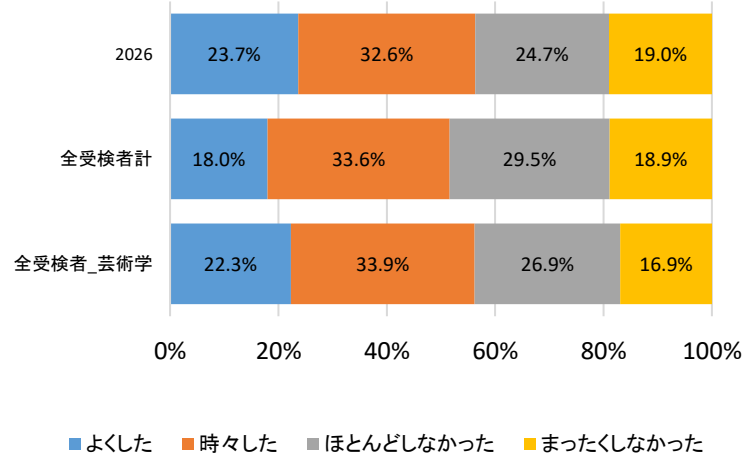
授業の内容でわからないことは教員に質問や相談に行く



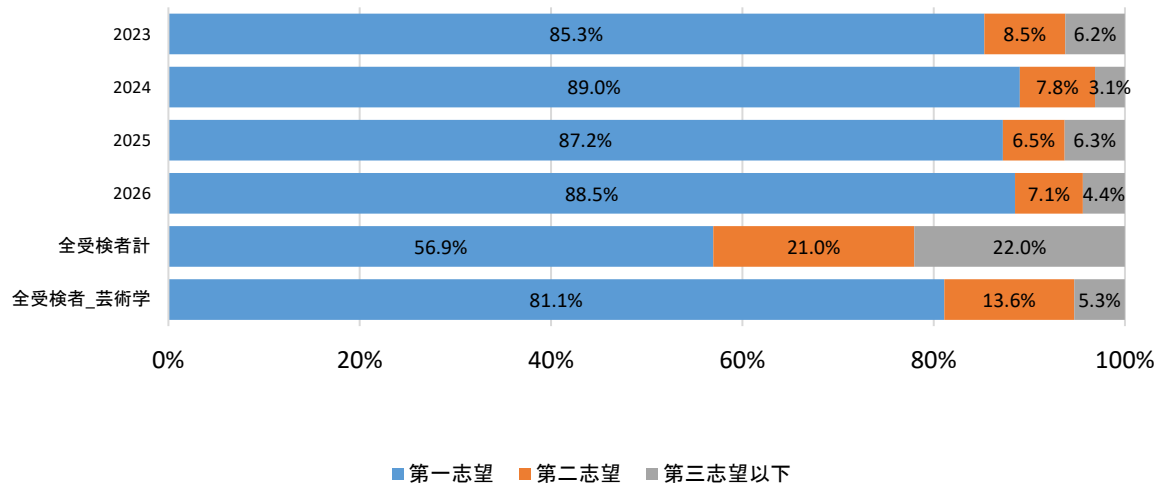
授業と関わりのないことでも、興味を持ったことについて自主的に学習する



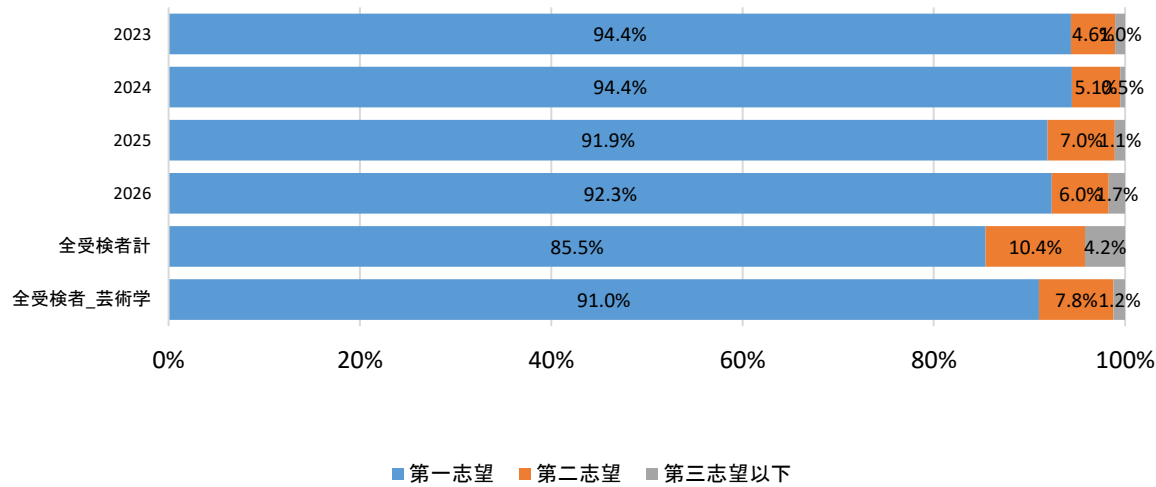
自分でテーマを決めて、そのテーマについて主体的に研究し、発表する



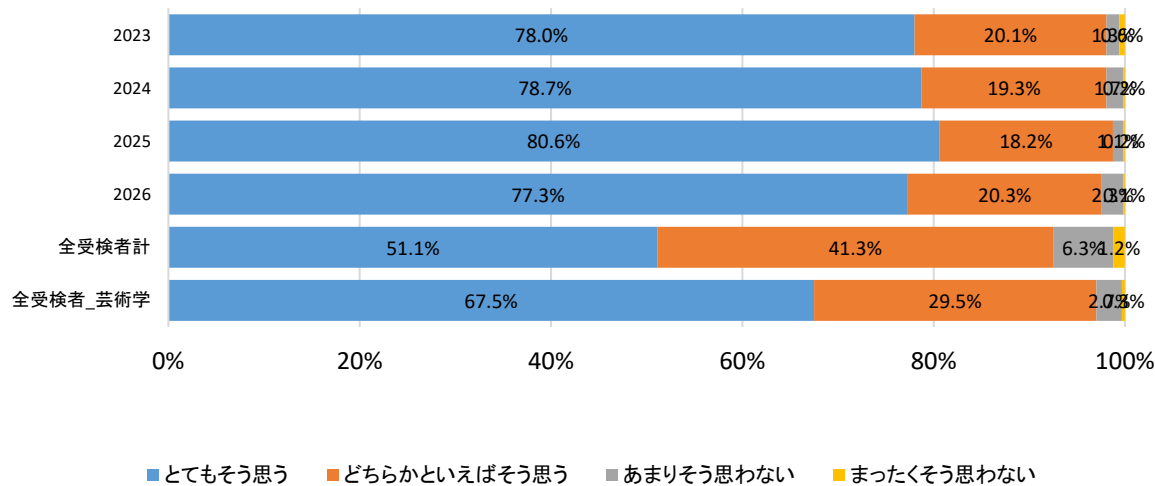
大学志望度



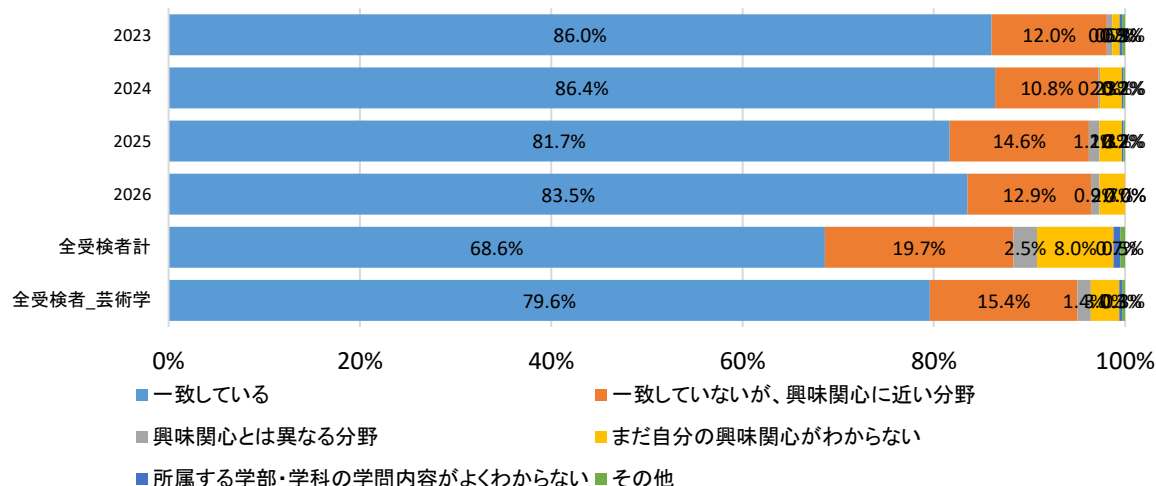
学部・学科志望度



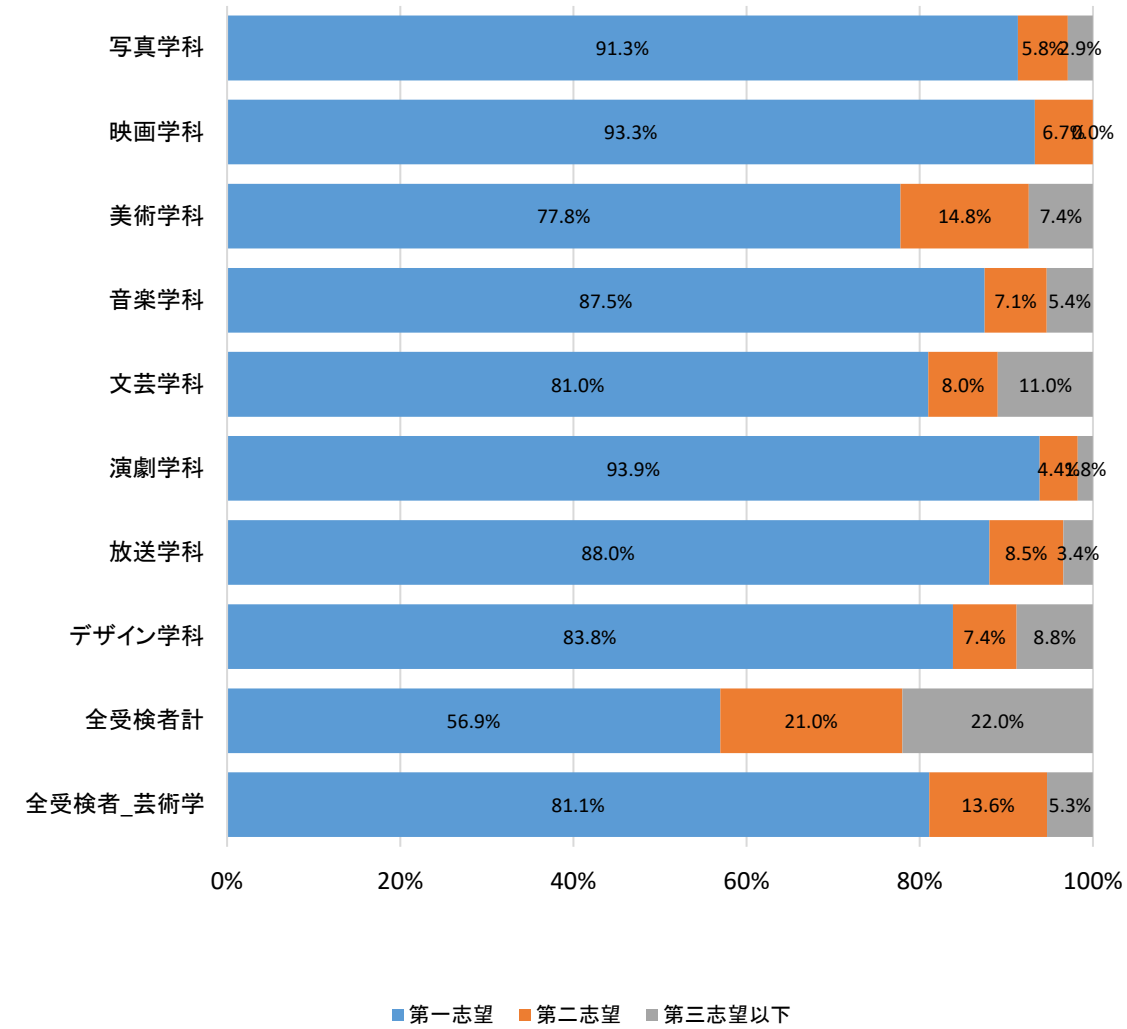
大学納得度



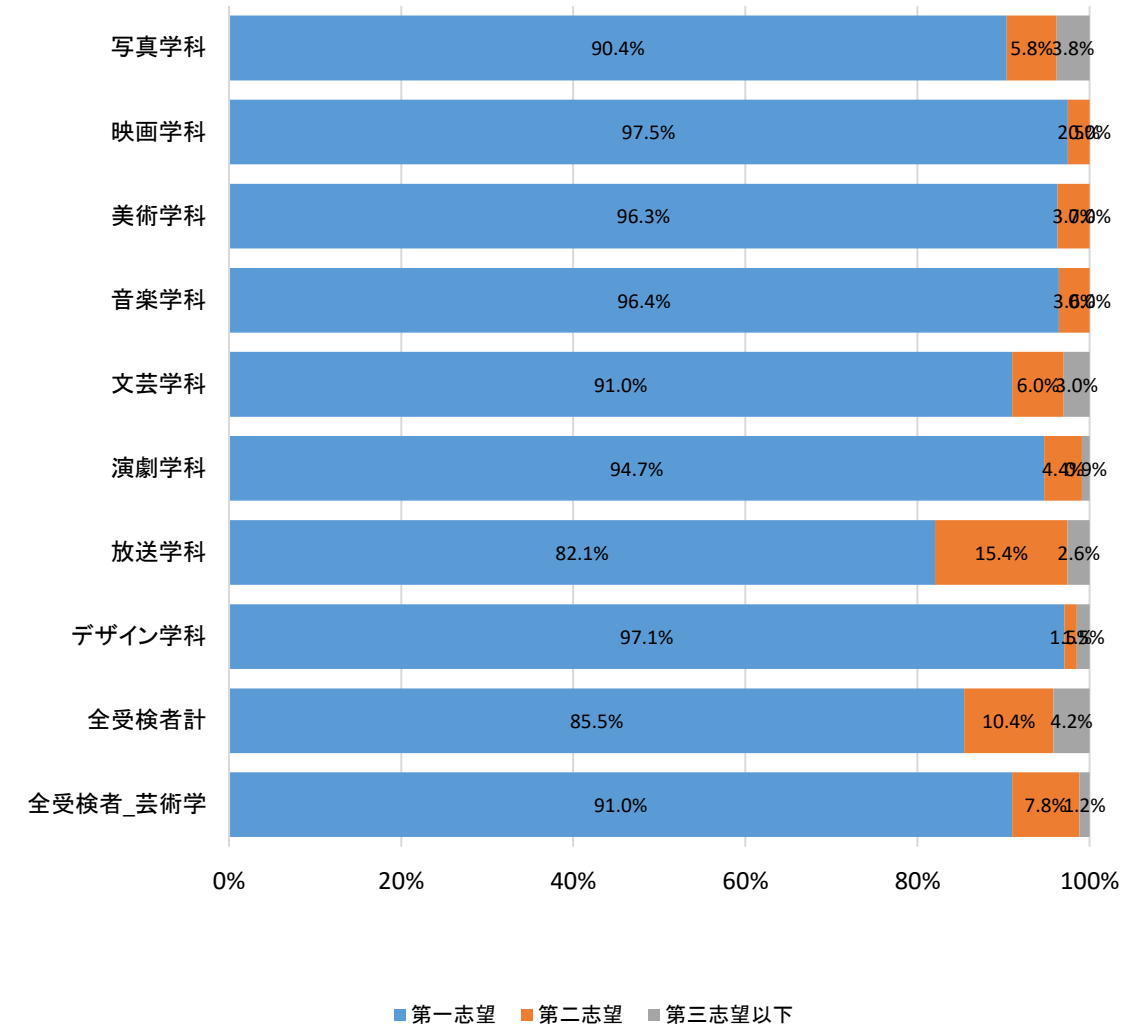
興味関心の一致度



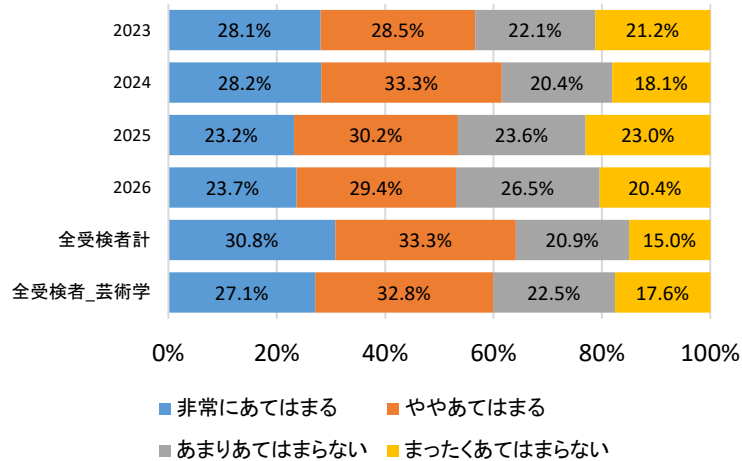
大学志望度



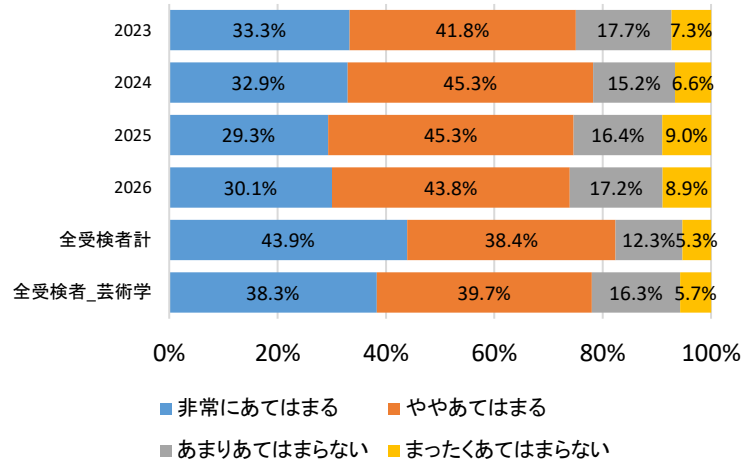
学部・学科志望度



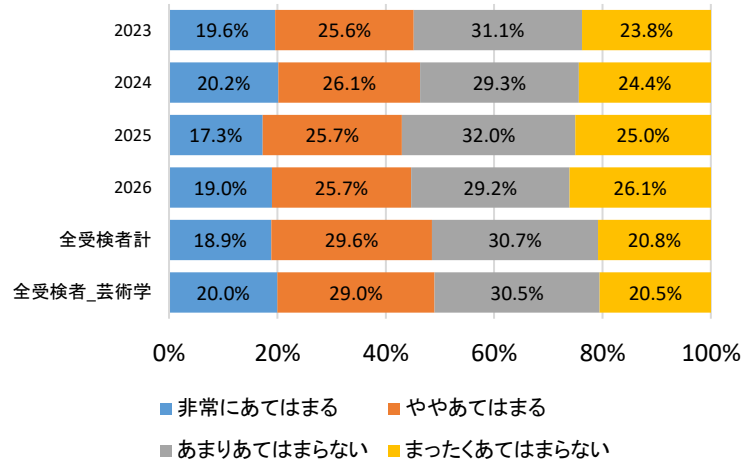
友人ができるか不安がある



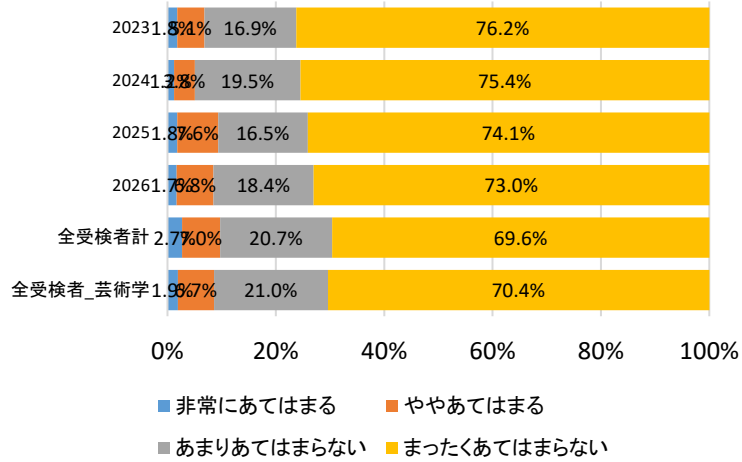
授業についていけるか不安がある



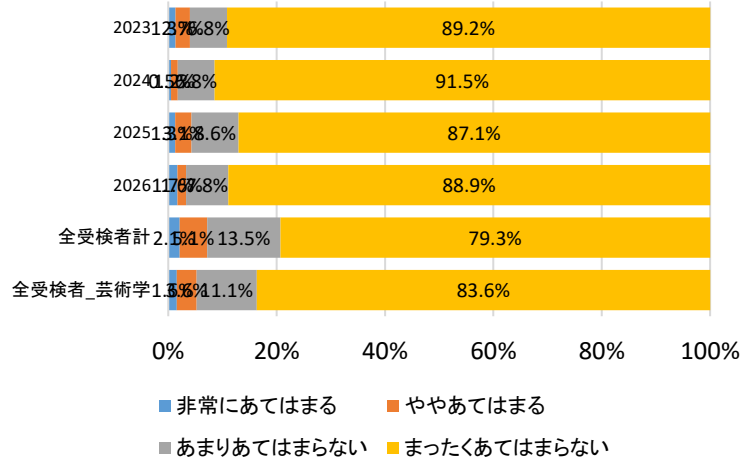
授業料の納付などに不安がある



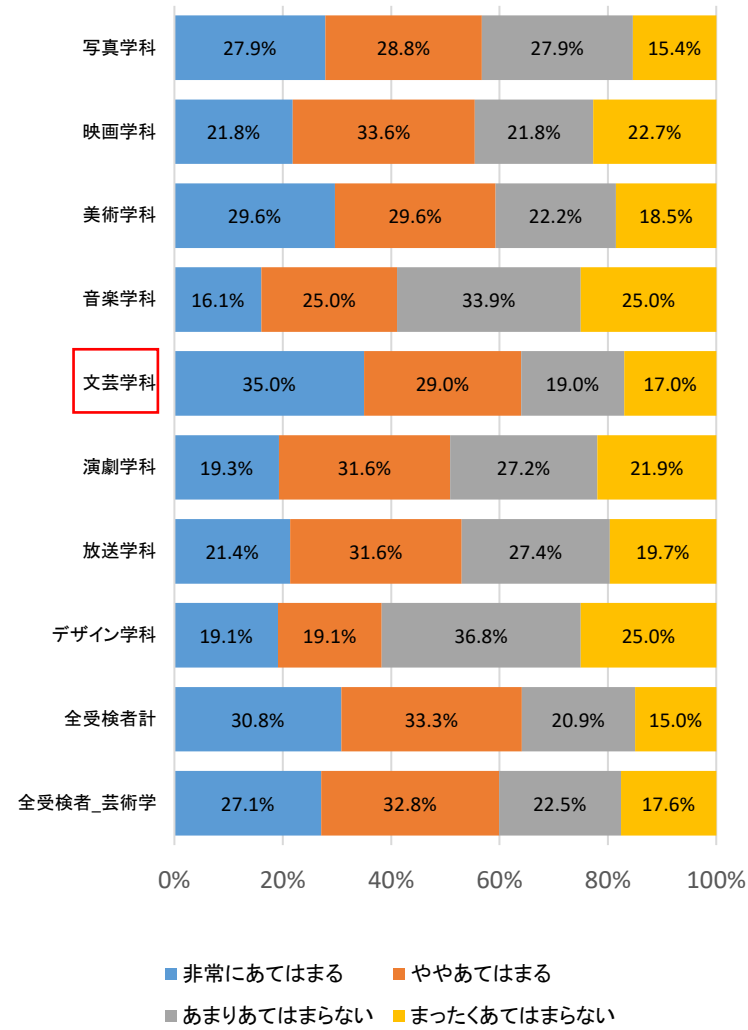
他の学部・学科に編入したい



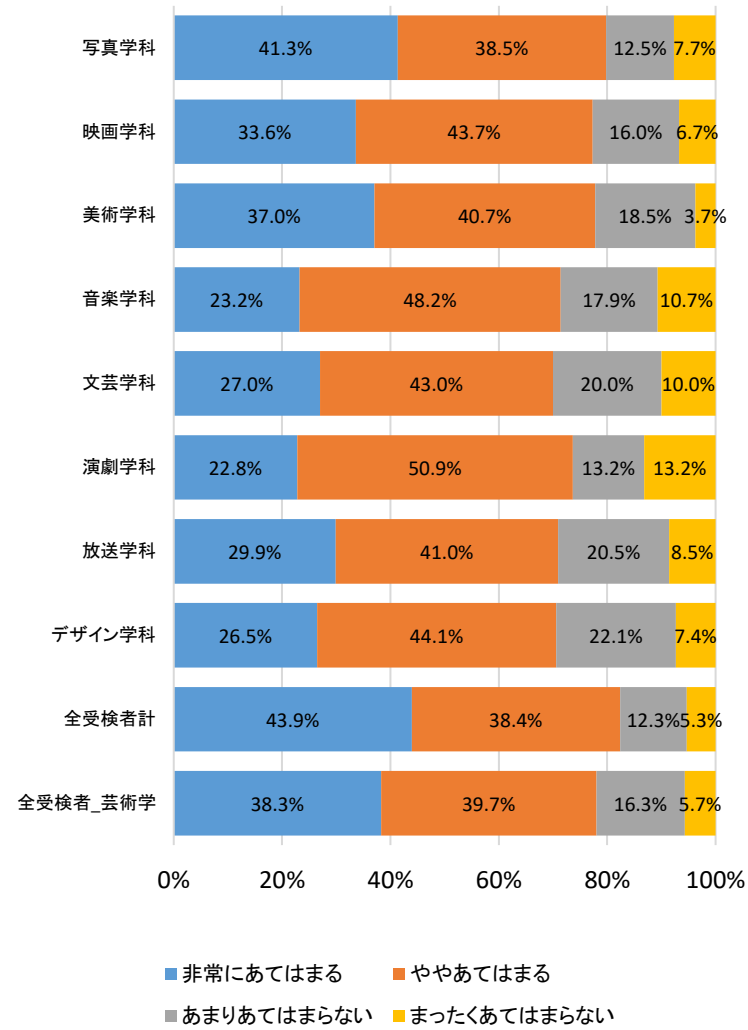
他大学の再受検や退学を検討している



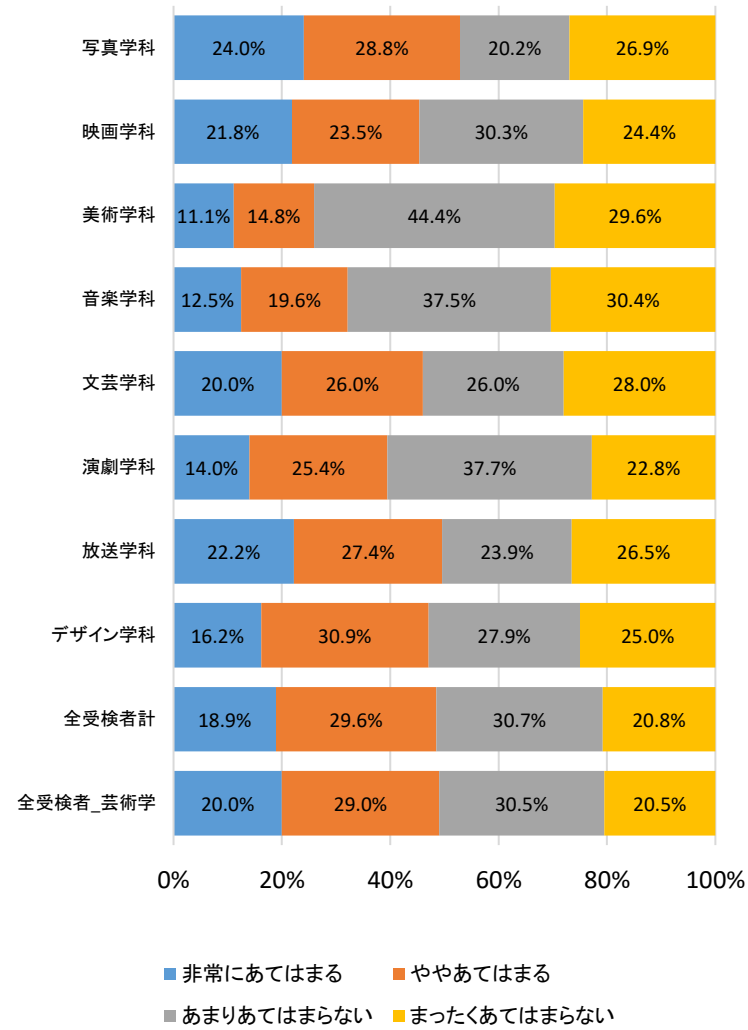
友人ができるか不安がある



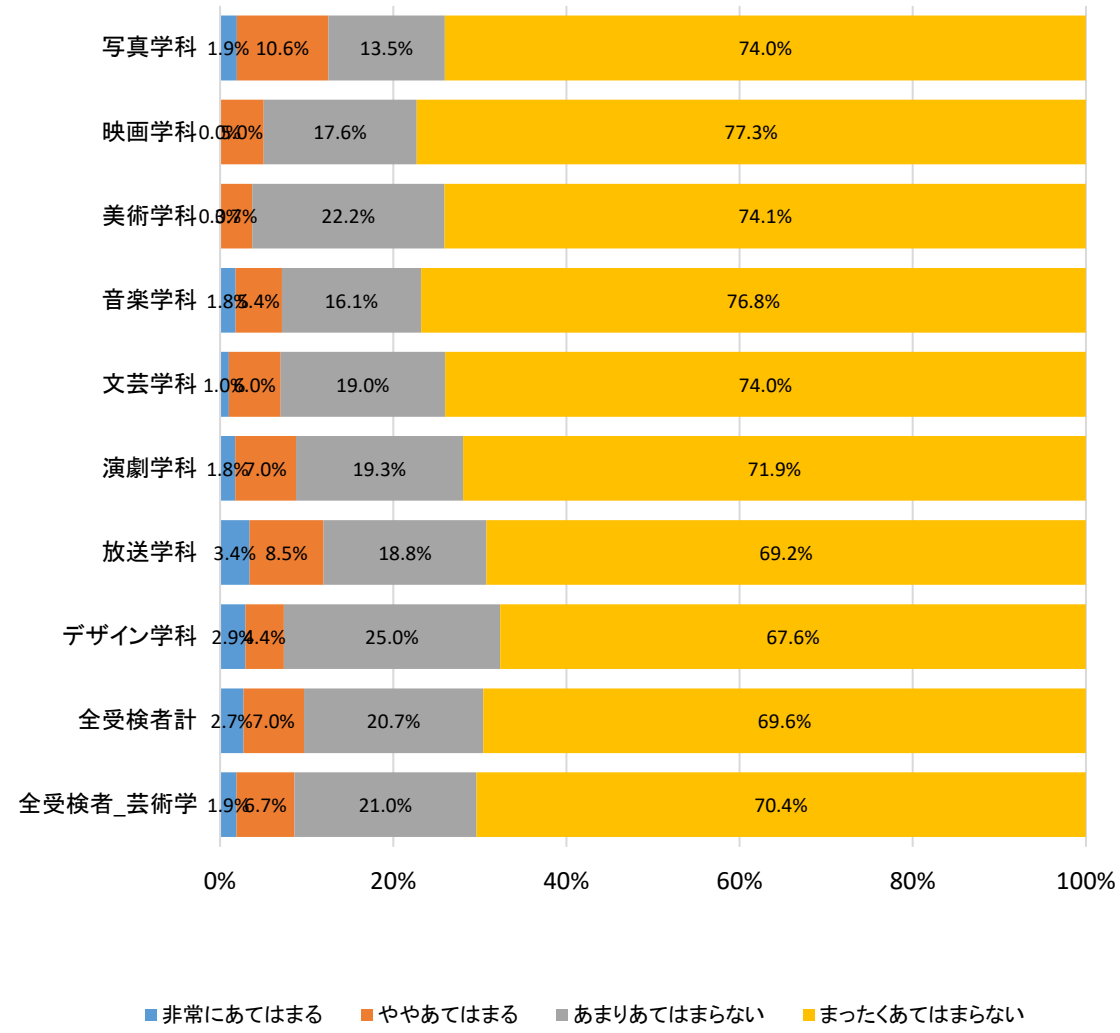
授業についていけるか不安がある



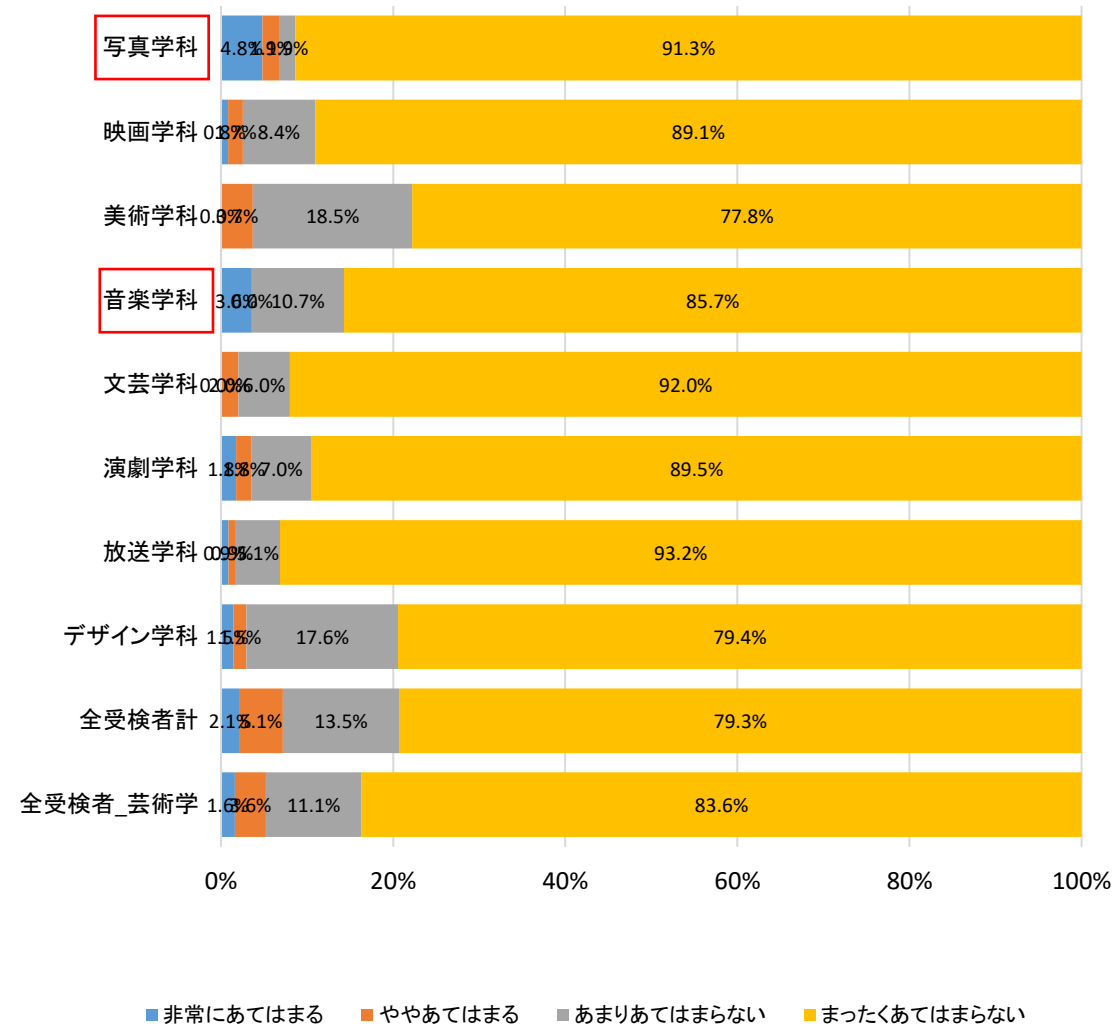
授業料の納付などに不安がある



他の学部・学科に編入したい



他大学の再受検や退学を検討している



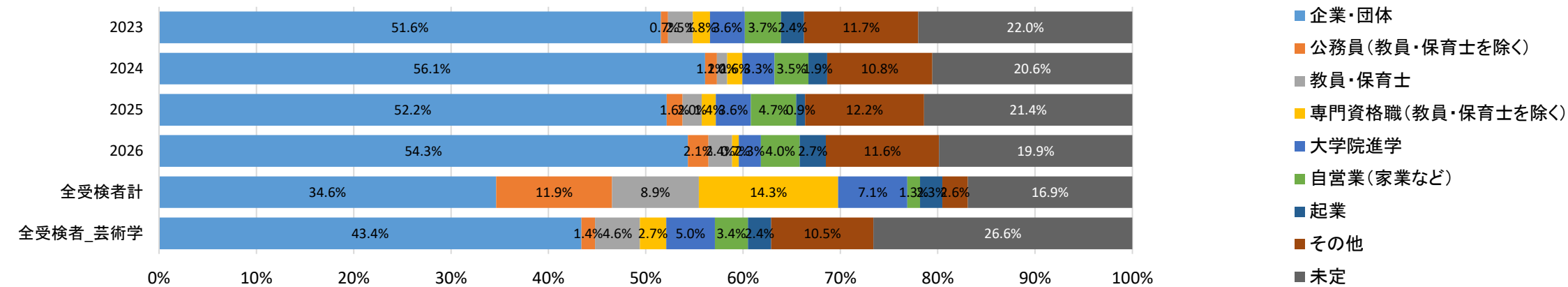
2025年度入学生 (2026年度2年生)		集計対象者数	(1)勉強面/進路面で相談できる友人が学内にいる			
			1 非常にあてはまる	2 ややあてはまる	3 あまりあてはまらない	4 まったくあてはまらない
芸術学部	2025入学_2年	408	41.9	41.7	9.3	7.1
芸術学部_写真学科	2025入学_2年	80	38.8	50.0	6.3	5.0
芸術学部_映画学科	2025入学_2年	47	40.4	36.2	10.6	12.8
芸術学部_美術学科	2025入学_2年	15	46.7	33.3	13.3	6.7
芸術学部_音楽学科	2025入学_2年	36	36.1	47.2	8.3	8.3
芸術学部_文芸学科	2025入学_2年	71	35.2	33.8	15.5	15.5
芸術学部_演劇学科	2025入学_2年	28	35.7	39.3	21.4	3.6
芸術学部_放送学科	2025入学_2年	83	47.0	42.2	7.2	3.6
芸術学部_デザイン学科	2025入学_2年	48	56.3	43.8	0.0	0.0

2024年度入学生 (2026年度3年生)		集計対象者数	(1)勉強面/進路面で相談できる友人が学内にいる			
			1 非常にあてはまる	2 ややあてはまる	3 あまりあてはまらない	4 まったくあてはまらない
芸術学部	2024入学_3年	285	44.9	41.4	8.8	4.9
芸術学部_写真学科	2024入学_3年	62	51.6	41.9	4.8	1.6
芸術学部_映画学科	2024入学_3年	32	34.4	56.3	3.1	6.3
芸術学部_美術学科	2024入学_3年	18	38.9	27.8	27.8	5.6
芸術学部_音楽学科	2024入学_3年	13	38.5	46.2	15.4	0.0
芸術学部_文芸学科	2024入学_3年	46	32.6	39.1	15.2	13.0
芸術学部_演劇学科	2024入学_3年	30	53.3	40.0	6.7	0.0
芸術学部_放送学科	2024入学_3年	55	43.6	43.6	9.1	3.6
芸術学部_デザイン学科	2024入学_3年	29	62.1	31.0	0.0	6.9

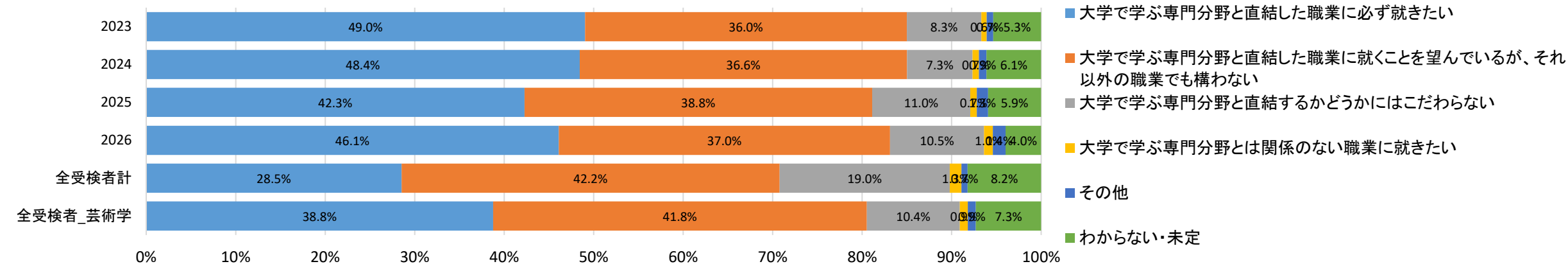
2025年度入学生 (2026年度2年生)		集計対象者数	Q15 他大学の再受験や退学の検討(選択率％)		
			1 検討したことはない	2 以前検討していたが、今は考えていない	3 現在、検討している
芸術学部	2025入学_2年	408	82.6	14.2	3.2
芸術学部_写真学科	2025入学_2年	80	72.5	18.8	8.8
芸術学部_映画学科	2025入学_2年	47	78.7	19.1	2.1
芸術学部_美術学科	2025入学_2年	15	73.3	26.7	0.0
芸術学部_音楽学科	2025入学_2年	36	77.8	19.4	2.8
芸術学部_文芸学科	2025入学_2年	71	91.5	8.5	0.0
芸術学部_演劇学科	2025入学_2年	28	92.9	3.6	3.6
芸術学部_放送学科	2025入学_2年	83	85.5	13.3	1.2
芸術学部_デザイン学科	2025入学_2年	48	85.4	10.4	4.2

2024年度入学生 (2026年度3年生)		集計対象者数	Q15 他大学の再受験や退学の検討(選択率％)		
			1 検討したことはない	2 以前検討していたが、今は考えていない	3 現在、検討している
芸術学部	2024入学_3年	285	83.5	14.4	2.1
芸術学部_写真学科	2024入学_3年	62	83.9	12.9	3.2
芸術学部_映画学科	2024入学_3年	32	84.4	9.4	6.3
芸術学部_美術学科	2024入学_3年	18	61.1	38.9	0.0
芸術学部_音楽学科	2024入学_3年	13	92.3	7.7	0.0
芸術学部_文芸学科	2024入学_3年	46	87.0	13.0	0.0
芸術学部_演劇学科	2024入学_3年	30	76.7	20.0	3.3
芸術学部_放送学科	2024入学_3年	55	87.3	10.9	1.8
芸術学部_デザイン学科	2024入学_3年	29	86.2	13.8	0.0

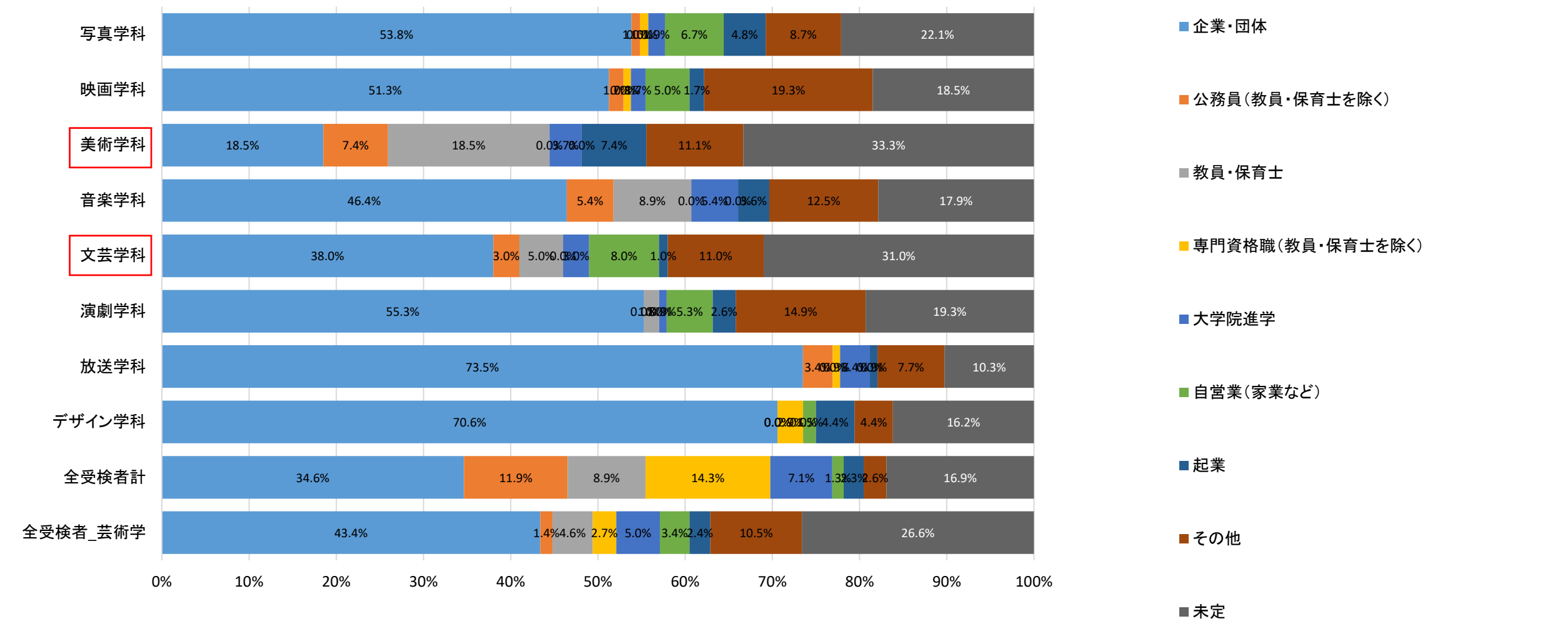
卒業後の希望進路



専門領域と希望進路との関係



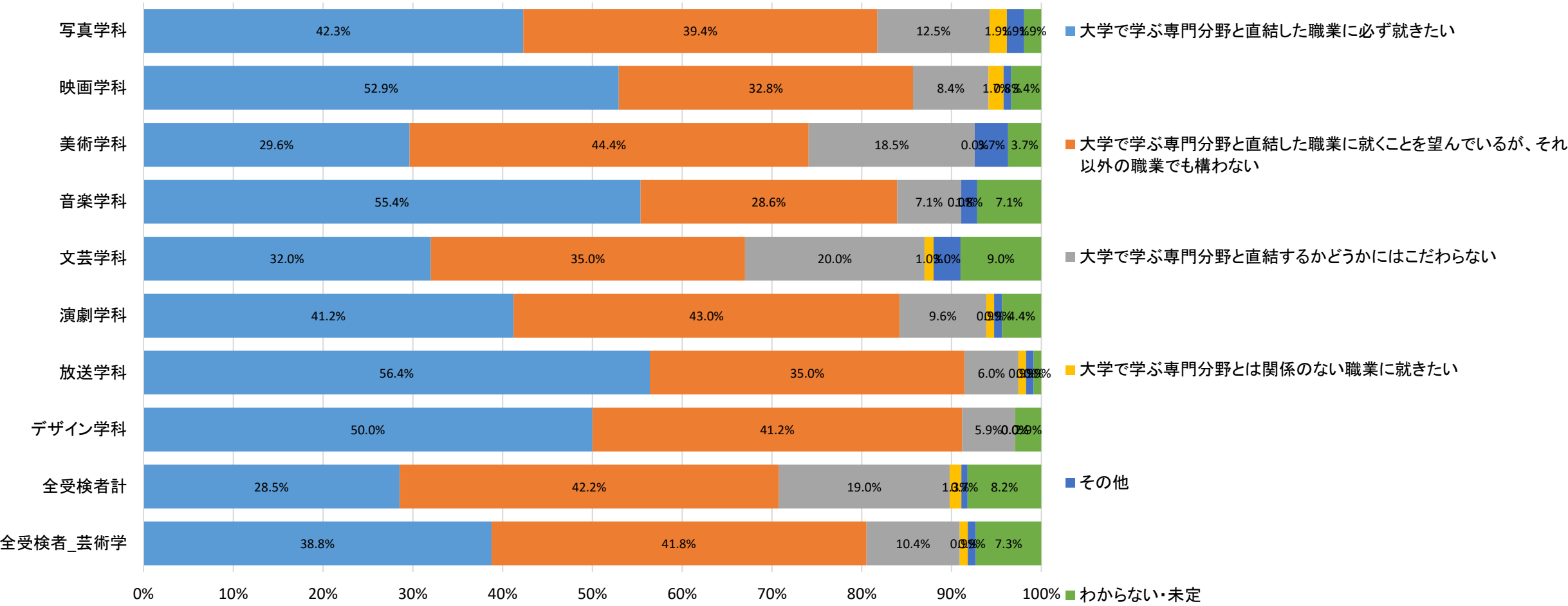
卒業後の希望進路



2025年度入学生 (2026年度2年生)		集計対象者数	Q18 卒業後の進路（選択率％）								
			1 企業・団体	2 公務員(教員・保育士を除く)	3 教員・保育士	4 専門資格職(教員・保育士を除く)	5 大学院進学	6 自営業(家業など)	7 起業	8 その他	9 未定
芸術学部	2025入学_2年	408	54.2	2.2	3.4	1.5	3.2	4.7	1.0	9.6	20.3
芸術学部_写真学科	2025入学_2年	80	36.3	5.0	0.0	2.5	3.8	12.5	2.5	11.3	26.3
芸術学部_映画学科	2025入学_2年	47	48.9	2.1	0.0	2.1	2.1	4.3	0.0	12.8	27.7
芸術学部_美術学科	2025入学_2年	15	20.0	0.0	20.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	26.7
芸術学部_音楽学科	2025入学_2年	36	38.9	0.0	16.7	0.0	5.6	2.8	0.0	11.1	25.0
芸術学部_文芸学科	2025入学_2年	71	47.9	2.8	5.6	4.2	2.8	2.8	2.8	7.0	23.9
芸術学部_演劇学科	2025入学_2年	28	53.6	3.6	0.0	0.0	0.0	10.7	0.0	10.7	21.4
芸術学部_放送学科	2025入学_2年	83	77.1	1.2	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	12.0	8.4
芸術学部_デザイン学科	2025入学_2年	48	81.3	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	12.5

2024年度入学生 (2026年度3年生)		集計対象者 数	Q18 卒業後の進路（選択率％）									
			1 企業・団体	2 公務員(教員・保育士を除く)	3 教員・保育士	4 専門資格職(教員・保育士を除く)	5 大学院進学	6 自営業(家業など)	7 起業	8 その他	9 未定	
芸術学部	2024入学_3年	285	67.0	1.8	1.1	2.5	2.5	3.5	0.0	4.6	17.2	
芸術学部_写真学科	2024入学_3年	62	61.3	3.2	0.0	4.8	0.0	1.6	0.0	1.6	27.4	
芸術学部_映画学科	2024入学_3年	32	46.9	3.1	0.0	3.1	6.3	3.1	0.0	9.4	28.1	
芸術学部_美術学科	2024入学_3年	18	38.9	5.6	11.1	0.0	5.6	0.0	0.0	5.6	33.3	
芸術学部_音楽学科	2024入学_3年	13	61.5	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7	0.0	15.4	7.7	
芸術学部_文芸学科	2024入学_3年	46	65.2	0.0	2.2	0.0	4.3	6.5	0.0	6.5	15.2	
芸術学部_演劇学科	2024入学_3年	30	63.3	0.0	0.0	0.0	0.0	13.3	0.0	3.3	20.0	
芸術学部_放送学科	2024入学_3年	55	87.3	1.8	0.0	5.5	0.0	0.0	0.0	1.8	3.6	
芸術学部_デザイン学科	2024入学_3年	29	89.7	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	3.4	3.4	

専門領域と希望進路との関係



受検者データ（ローデータ）から学生カルテを作成できるツールをご提供しています。（無償）

スコアで評価が出るので、細かい成長が把握できる

GPS-Academic[®] Global Proficiency Skills program[®] 学生面談カルテ

受検者ID C200005 姓名 ヤマダ タロウ5 実施年度 2020
 学部名 経済学部 学科名 経済学科 入試区分 00_一般入試

思考力総合 グループ内順位 128 位

【スコア・評価】

思考力	スコア	評価
思考力総合	43.72	C
批判的思考力	25.73	D
協働的思考力	40.09	C
創造的思考力	62.69	S

【自信の有無】

項目	スコア	評価
情報を抽出し吟味する力	2	やや自信がある
論理的に組み立てて表現する力	1	非常に自信がある
他者との共通点・違いを理解する力	1	非常に自信がある
社会に参画し人と関わりあう力	2	やや自信がある
情報を関連づける力・整理する力	4	あまり自信がない
問題を見だし解決策を生み出す力	3	どちらともいえない

【スコア・評価】

姿勢・態度	スコア	評価
レジリエンス	57.23	A
リーダーシップ	46.20	C
アサーション	60.22	S

【スコア詳細】

項目	スコア	評価
感情の制御（ストレス耐性）	62.23	S
立ち直りの早さ（回復力）	49.46	B
状況に応じ冷静に対応する力（自己統制力・柔軟性）	56.84	A
自ら先頭に立ち進める力（自主性・率先性）	42.84	D
未知のものに挑戦する力（チャレンジ精神・開放性）	39.98	D
粘り強くやり抜く力（持続力・誠実性・勤勉性）	56.79	A
相手の立場に立とうとする姿勢（共感性）	63.25	S
他者と関わろうとする積極性（外向性・親和性）	54.72	A

【達成率・評価】

経験	達成率	評価
経験総合	67.78	A
自己管理	70.00	A
対人関係	75.00	A
計画実行	58.33	B

【代表的な項目への回答】

項目	回答
難しいと思えることでも挑戦した	3.時々やっていた
自分の目標は達成するまであきらめずやり遂げた	2.よくやっていた
ストレスを感じたとき、その問題と向き合い克服した	3.時々やっていた
自分の価値観で良し悪しを決めつけず、相手の立場や体験を尊重し付き合った	2.よくやっていた
チーム内でトラブルが起こったとき、自ら働きかけて問題を解決した	2.よくやっていた
議論（話し合い）の場では何が課題で何を解決すべきかを明らかにするようにした	2.よくやっていた
良い評価（成績）が得られなかったとき、なぜその評価になったのかを考えた	1.とてもよくやっていた
チーム活動などで計画を考える際、どのくらい効果的か予測しながら進めた	2.よくやっていた
試験の結果が出たとき、結果の良し悪しだけでなく、どうすればさらに良くなるかを考えた	4.少しやっていた

【学びへの態度】

項目	回答
必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む	2.時々した
授業中、グループワークやディスカッションに積極的に参加する	2.時々した
板書や投影資料以外でも大事なことはノートにとる	1.よくした
授業の内容でわからないところは教員に質問や相談に行く	2.時々した
授業と関わりがないことでも、興味を持ったことについて自主的に学習する	2.時々した

【学びへの意欲】

項目	回答
「正解」のない課題であっても、前向きに取り組もうとする	2.ややあてはまる
普段から自分なりの意見や視点を持つようとしている	2.ややあてはまる
失敗しそうであっても、いろいろなことに挑戦したい	3.あまりあてはまらない
考え方や立場の異なるさまざまな人と交流したい	2.ややあてはまる
高い目標を持って学ぼうと思っている	3.あまりあてはまらない

【大学生活】

項目	回答
力を入れたこと 1位	08.就職活動に向けた準備（業種・企業研究、人脈づくりなど）
力を入れたこと 2位	07.公務員・教員等の採用試験対策のための勉強
力を入れたこと 3位	12.アルバイト

【生活習慣】

項目	回答
居住形態	1.家族と同居
片道の通学時間	2.30分～1時間未満
読書量	2.月に2～3冊くらい
自習時間	4.4～5時間未満

【留学】

項目	回答
留学経験	1.留学経験はない
留学意向	1.留学はしたくない

【不安】

項目	回答
友人ができるか不安がある	2.ややあてはまる
授業についていけるか不安がある	1.非常にあてはまる
授業料の納付などに不安がある	3.あまりあてはまらない

【志望興味関心】

項目	回答
大学志望度	1.第一志望だった
学部・学科志望度	1.第一志望だった
興味関心の一致度	1.一致している
他大学の再受験や退学を検討	4.まったくあてはまらない

【大学への期待】

項目	回答
大学の魅力(1) 大学全体 1位	01.自分が学びたい学問分野が学べる
大学の魅力(1) 大学全体 2位	10.キャンパス・学生の雰囲気が良い
大学の魅力(1) 学問内容や学び方 1位	10.丁寧に指導してくれる、教員との距離が近い
大学の魅力(2) 学問内容や学び方 2位	01.学ぶことができる学問分野・領域に特色がある
大学選択に役立った情報源 1位	10.先輩や友人などの話
大学選択に役立った情報源 2位	04.大学の学部案内パンフレット
学部・学科の教育目標を知っている	2.ややあてはまる
どんな学生に入学してほしいかを知っている	2.ややあてはまる
将来に必要な学びを得ることができると思う	1.非常にあてはまる

【卒業後の希望進路】

項目	回答
就きたい職業や仕事は明確か	2.公務員（教員・保育士を除く）
	2.ややあてはまる

例
大学生活で
力入れたいことは？
寝めどころ

学生の考え方、
行動、不安を
アンケートで可
視化しているの
で指導しやすい

例
退学意向があるか？
大学生活の不安感
はあるのか？

報告②

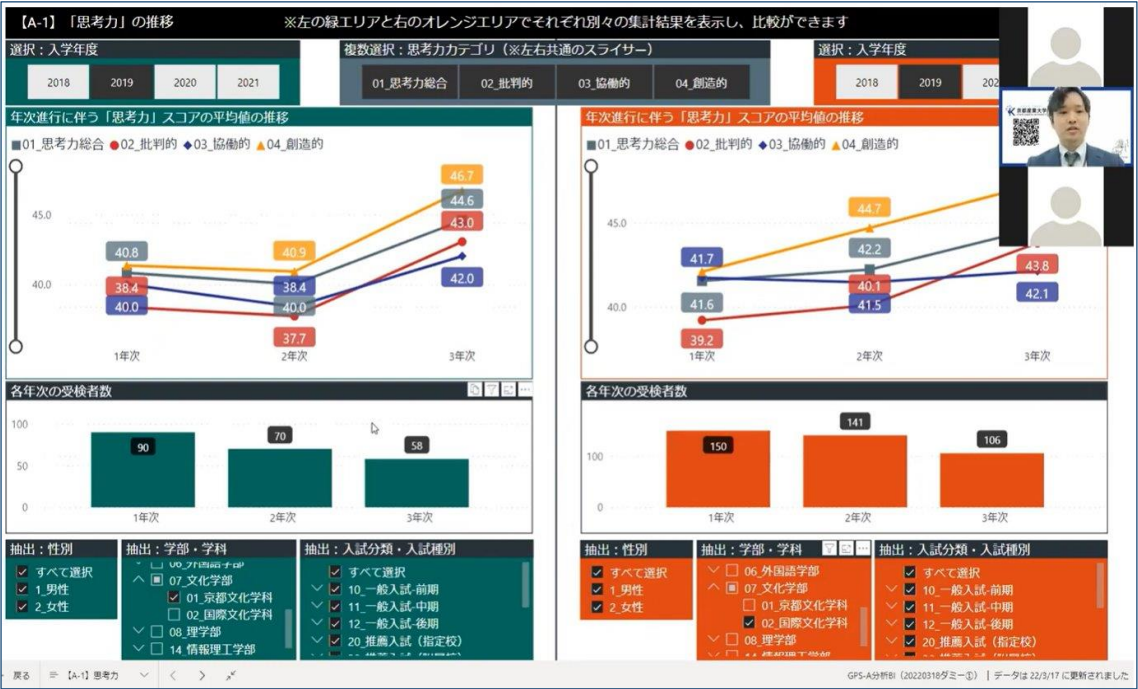
出口の質保証調査
(23年度入学生4か年過回比較)

■分析対象テスト一覧

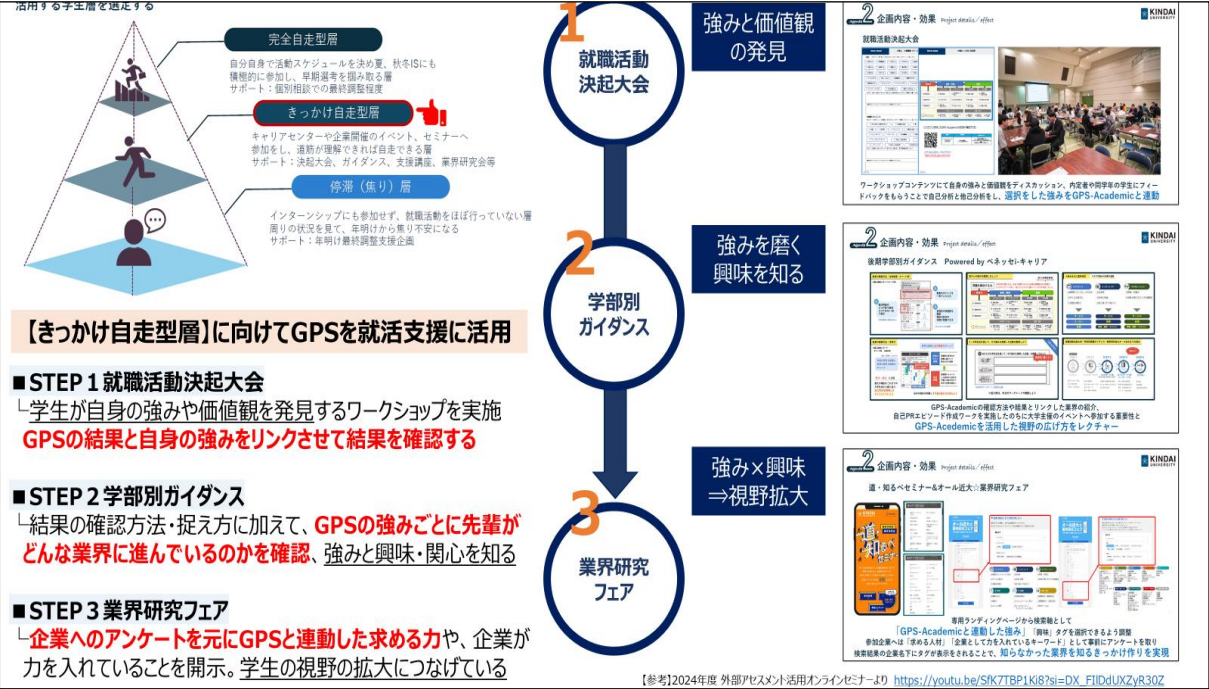
テストコード	テスト名	受検開始日	受検終了日	受検人数
TYA02754	令和5年度芸術学部1年生テスト	2023年4月1日	2023年5月31日	108
TYA03626	令和6年度芸術学部2年生テスト	2024年3月1日	2024年6月5日	108
TYA04801	05530_芸術学部3年生	2025年4月1日	2025年6月5日	108
TYA05878	05540_芸術学部4年生	2026年4月1日	2026年6月5日	108

※2026年度版テストより学生意識調査の設問を一部改訂しております。
改訂に伴い新設・変更した設問はデータがある年度のみの集計表示となります。

■ 京都産業大学様：カリキュラム検証



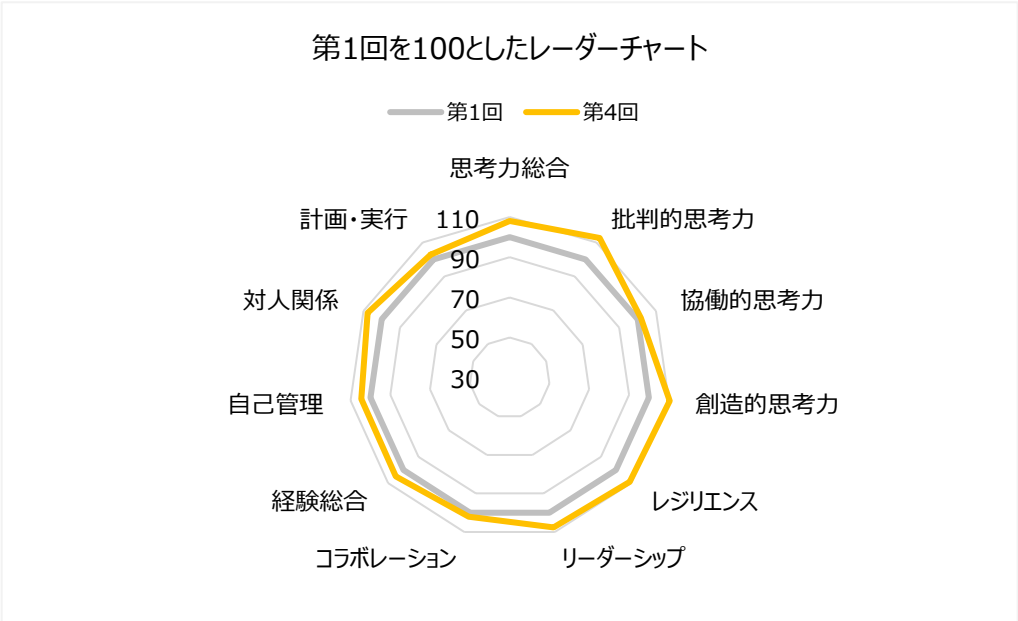
■ 近畿大学様：GPSの就職活動支援の取り組み



学科×GPS-Academic・思考力スコア
＝ 学科ごとのスコアの伸び方からカリキュラムの特長を可視化
学部・学科でそれぞれの特長を比較するための共通指標として利用。
左図の学科が、2→3年次に思考力スコアが大きく上昇するのに対して、
右図の学科が、1→2年次に上昇する様子から、配置科目やその強み違い
が明らかに。

GPS-Academicのスコア×キャリア支援系のガイダンス
＝ 学生自身のGPSの受検結果を強みの発見や業界研究につなげる
GPS結果を基に、自己理解から業界研究までを段階的に支援。自分の強みを
知り、先輩の進路や企業の求める力と照らし合わせることで、学生の視野拡大と
主体的なキャリア形成を促進。

			客観評価（スコア：0～100）							主観評価（達成度：0～100%）			
			問題解決の質を左右する 思考力				問題解決に向かう 姿勢・態度			問題解決の力を磨くための 経験			
			思考力				姿勢・態度			経験			
受検対象	受検回・年度	受検人数	思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
学部全体	第1回	108	46.3	44.2	49.8	46.2	45.4	49.4	49.8	61.4	59.1	63.3	61.7
学部全体	第2回	108	44.8	44.7	43.6	43.9	45.4	49.1	48.0	59.1	56.6	61.5	59.1
学部全体	第3回	108	51.6	48.8	54.2	53.6	46.7	50.7	48.3	60.9	58.9	63.2	60.5
学部全体	第4回	108	50.0	49.9	50.7	51.0	49.5	53.1	50.9	64.5	61.9	68.1	63.4



標準偏差表			客観評価（スコア：0～100）							主観評価（達成度：0～100%）			
			問題解決の質を左右する 思考力				問題解決に向かう 姿勢・態度			問題解決の力を磨くための 経験			
			思考力				姿勢・態度			経験			
受検対象	受検回・年度	受検人数	思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
学部全体	第1回	108	9.3	10.6	13.3	15.1	8.6	9.0	7.7	14.6	17.3	16.9	16.2
学部全体	第2回	108	9.0	12.9	14.5	11.7	9.8	9.3	8.1	16.2	19.1	17.0	18.3
学部全体	第3回	108	9.7	9.1	13.5	15.8	9.5	8.6	8.0	16.4	19.3	17.0	18.0
学部全体	第4回	108	11.0	14.5	17.4	16.5	9.5	8.9	8.1	13.3	16.5	13.9	14.9

※標準偏差は「学生間の個人差」を示す指標です。
※領域によって測定構造が異なるため、思考力、姿勢・態度、経験では標準偏差の意味は同一ではありません。

有意差表

			思考力				姿勢・態度			経験			
受検対象	受検回・年度	受検人数	思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
p値	第1回と第4回	-	0.000	0.000	0.627	0.010	0.000	0.000	0.152	0.006	0.044	0.000	0.213
有意差	-	-	**	**		*	**	**		**	*	**	

※「統計的な差の有無」を示すものとして、参考情報として掲載しています。
※有意差として*は、p≤0.01: ** p≤0.05: *を示しています。

思考力

第1回			第4回		
100			100		
90			90		
80			80	1.9%	2
70	0.9%	1	70	0.9%	1
60	6.5%	7	60	13.0%	14
50	25.0%	27	50	34.3%	37
40	40.7%	44	40	34.3%	37
30	24.1%	26	30	13.0%	14
20	2.8%	3	20	0.9%	1
10			10	1.9%	2
0			0		
合計	100.0%	108	合計	100.0%	108

経験

第1回			第4回		
100			100	0.9%	1
90	2.8%	3	90	2.8%	3
80	5.6%	6	80	9.3%	10
70	23.1%	25	70	18.5%	20
60	20.4%	22	60	27.8%	30
50	26.9%	29	50	25.9%	28
40	13.9%	15	40	12.0%	13
30	5.6%	6	30	2.8%	3
20	0.9%	1	20		
10	0.9%	1	10		
0			0		
合計	100.0%	108	合計	100.0%	108

姿勢・態度

レジリエンス

第1回			第4回		
100			100		
90			90		
80			80		
70			70	2.8%	3
60	3.7%	4	60	11.1%	12
50	27.8%	30	50	34.3%	37
40	43.5%	47	40	36.1%	39
30	18.5%	20	30	13.0%	14
20	6.5%	7	20	2.8%	3
10			10		
0			0		
合計	100.0%	108	合計	100.0%	108

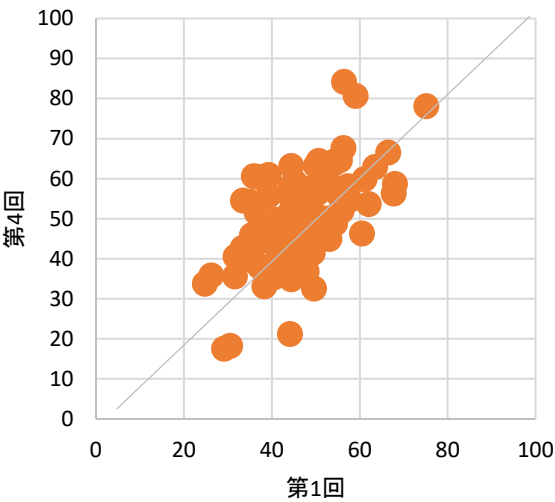
リーダーシップ

第1回			第4回		
100			100		
90			90		
80			80		
70	2.8%	3	70	2.8%	3
60	10.2%	11	60	20.4%	22
50	32.4%	35	50	45.4%	49
40	40.7%	44	40	22.2%	24
30	10.2%	11	30	8.3%	9
20	3.7%	4	20	0.9%	1
10			10		
0			0		
合計	100.0%	108	合計	100.0%	108

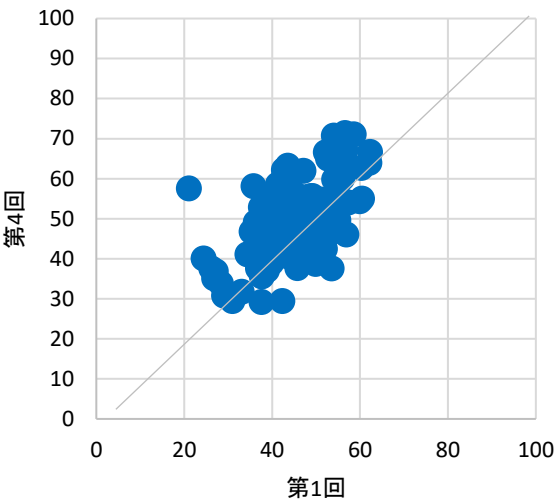
コラボレーション

第1回			第4回		
100			100		
90			90		
80			80		
70			70	2.8%	3
60	7.4%	8	60	10.2%	11
50	45.4%	49	50	41.7%	45
40	39.8%	43	40	36.1%	39
30	6.5%	7	30	9.3%	10
20	0.9%	1	20		
10			10		
0			0		
合計	100.0%	108	合計	100.0%	108

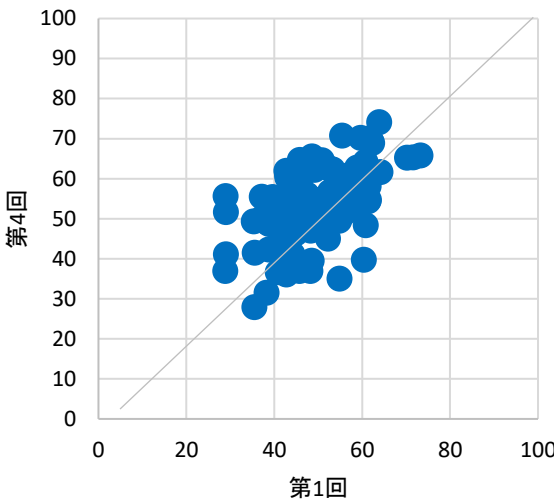
思考力総合



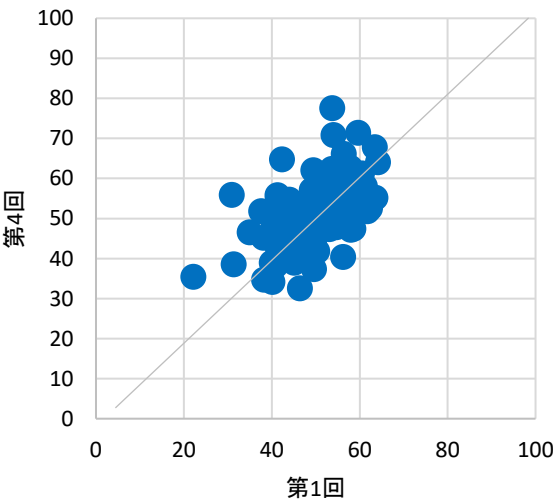
レジリエンス



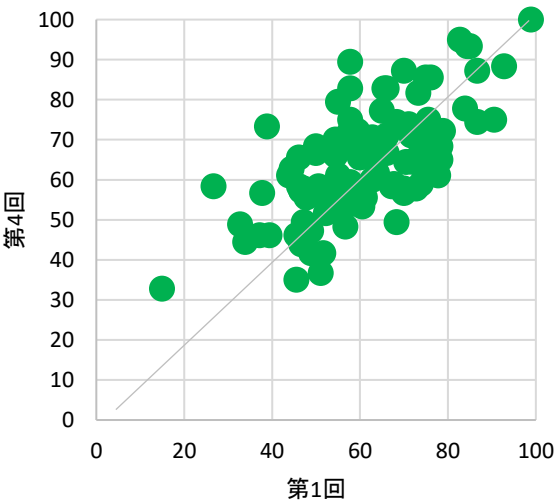
リーダーシップ



コラボレーション



経験総合



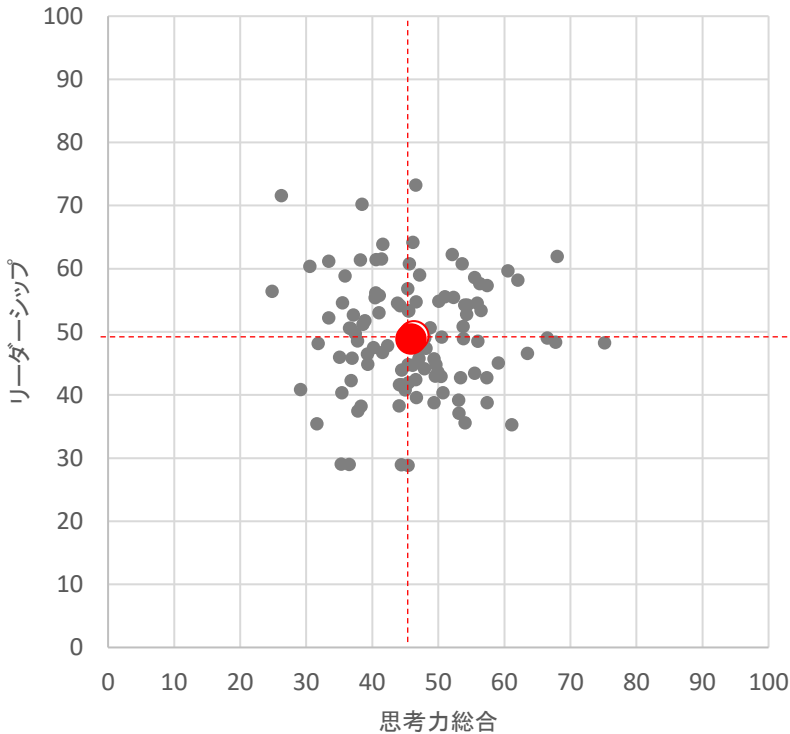
	スコアUP	スコアSTAY	スコアDOWN
思考力総合	52人 / 48.1%	39人 / 36.1%	17人 / 15.7%
レジリエンス	45人 / 41.7%	47人 / 43.5%	16人 / 14.8%
リーダーシップ	47人 / 43.5%	45人 / 41.7%	16人 / 14.8%
コラボレーション	23人 / 21.3%	60人 / 55.6%	25人 / 23.1%
経験総合	48人 / 44.4%	30人 / 27.8%	30人 / 27.8%

※第1回との比較において、5ポイント以上スコアが上回った場合をUP、下回った場合をDOWN、5ポイント以内の場合はSTAYとし、人数と割合を表示しています。

第1回

思考力：低 x リーダーシップ：高

第2象限	人数	割合
第1回	29	26.9%



思考力：低 x リーダーシップ：低

第3象限	人数	割合
第1回	28	25.9%

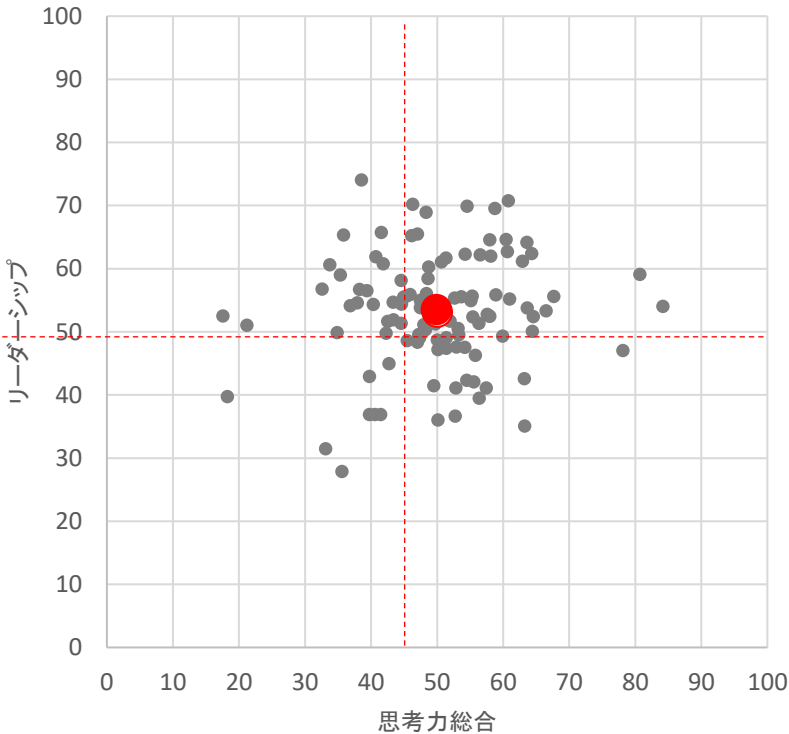
思考力：高 x リーダーシップ：高

第1象限	人数	割合
第1回	21	19.4%

第4回

思考力：低 x リーダーシップ：高

第2象限	人数	割合
第4回	30	27.8%



思考力：低 x リーダーシップ：低

第3象限	人数	割合
第4回	25	23.1%

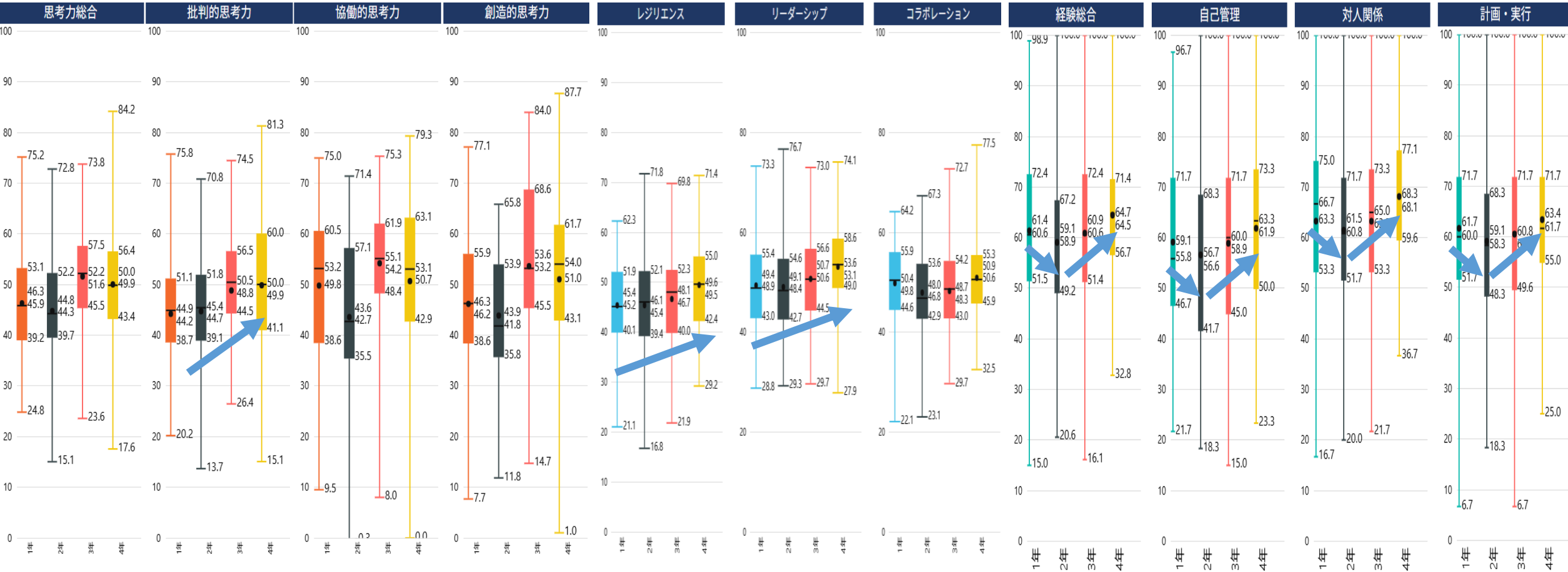
思考力：高 x リーダーシップ：高

第1象限	人数	割合
第4回	25	23.1%

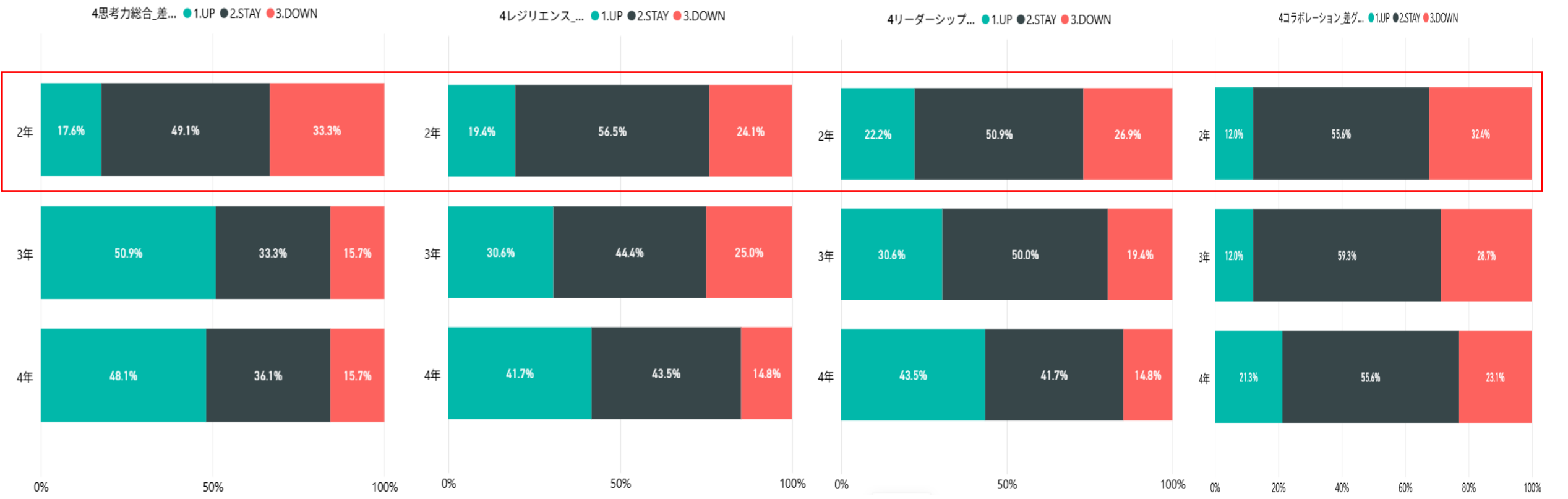
思考力：高 x リーダーシップ：低

第4象限	人数	割合
第4回	28	25.9%

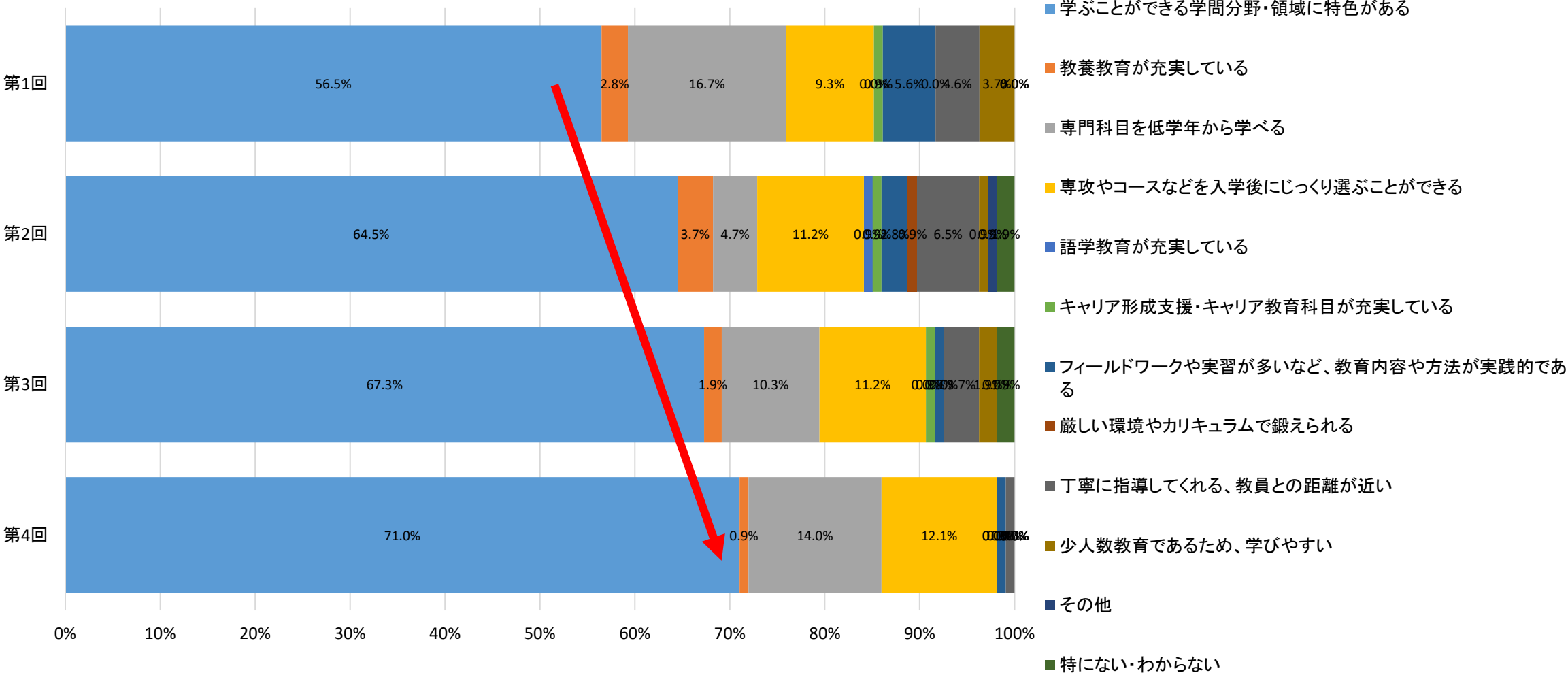
白丸: 全体の平均値 赤丸: 中央値



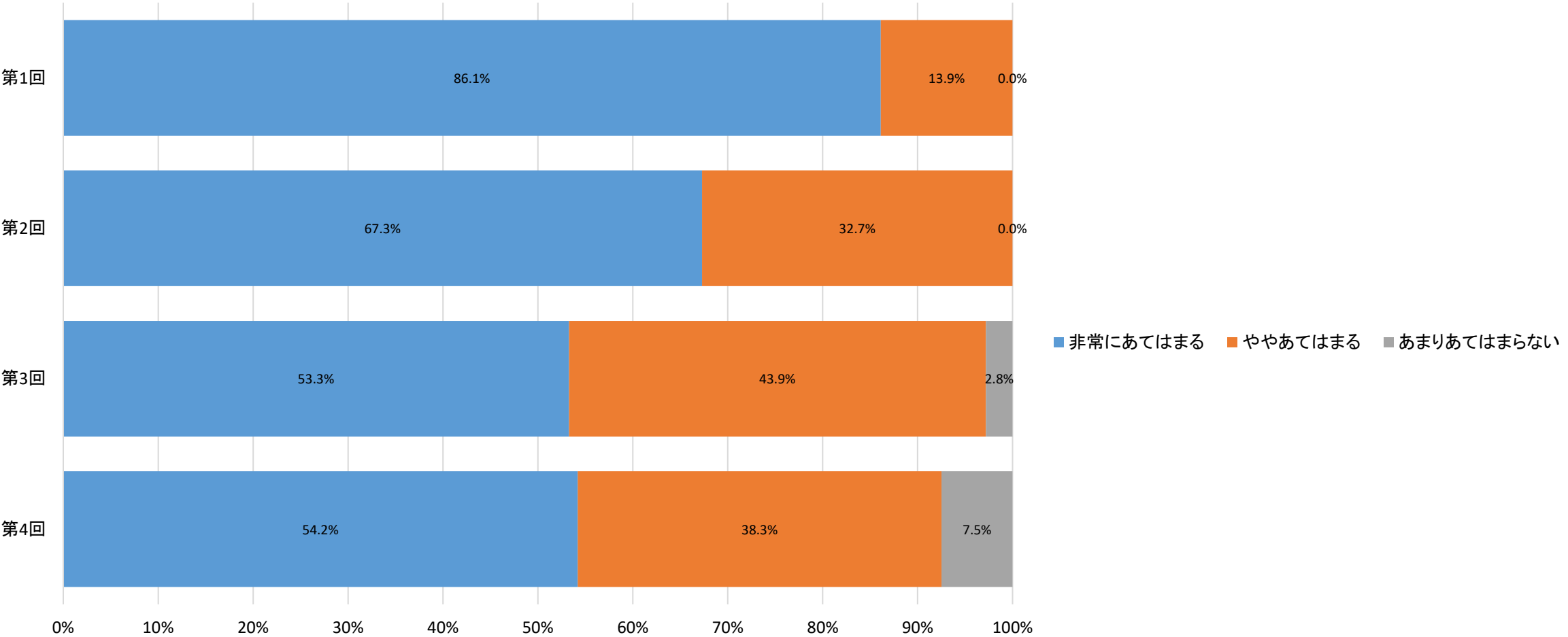
差分が+5pt以上をUP、-5pt以下をDOWN、±5ptをSTAYとしています。
段階値が約5pt幅で設定されており、CAN-DOも段階値ごとに設定されているためです。



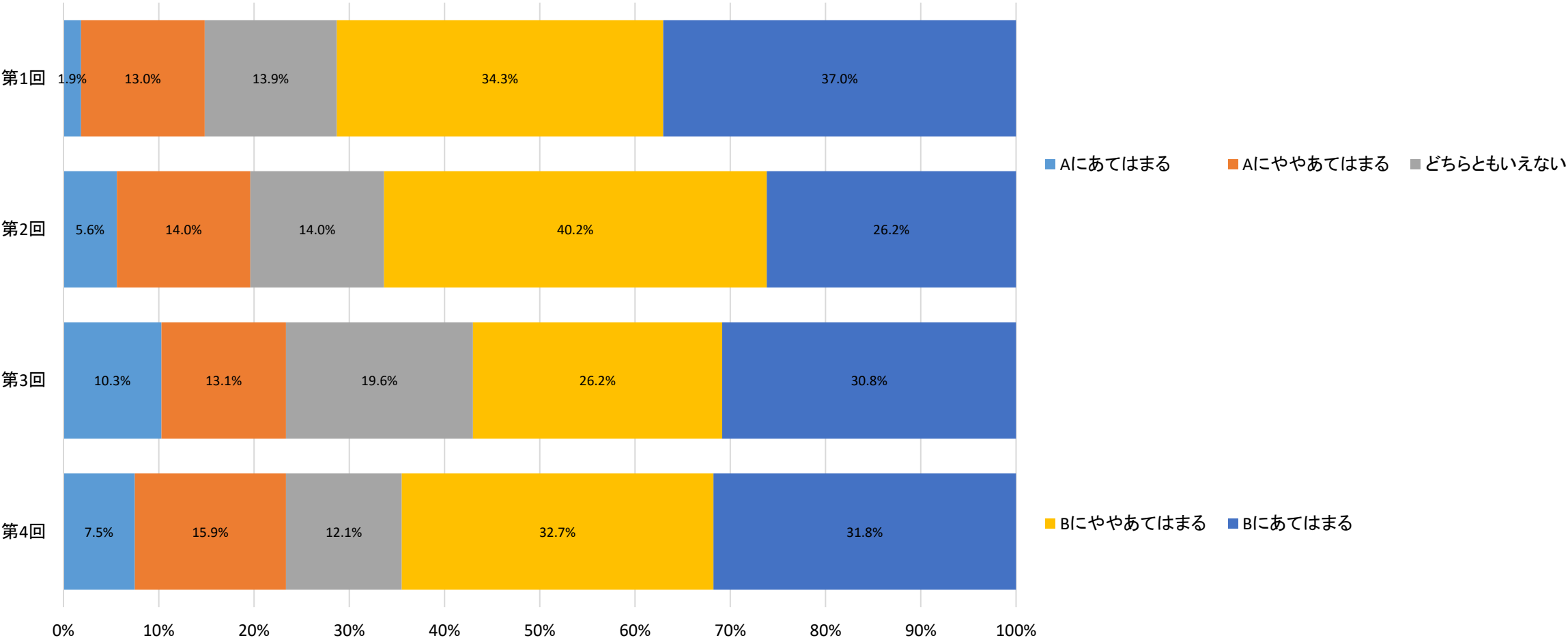
学問内容や学び方 1位



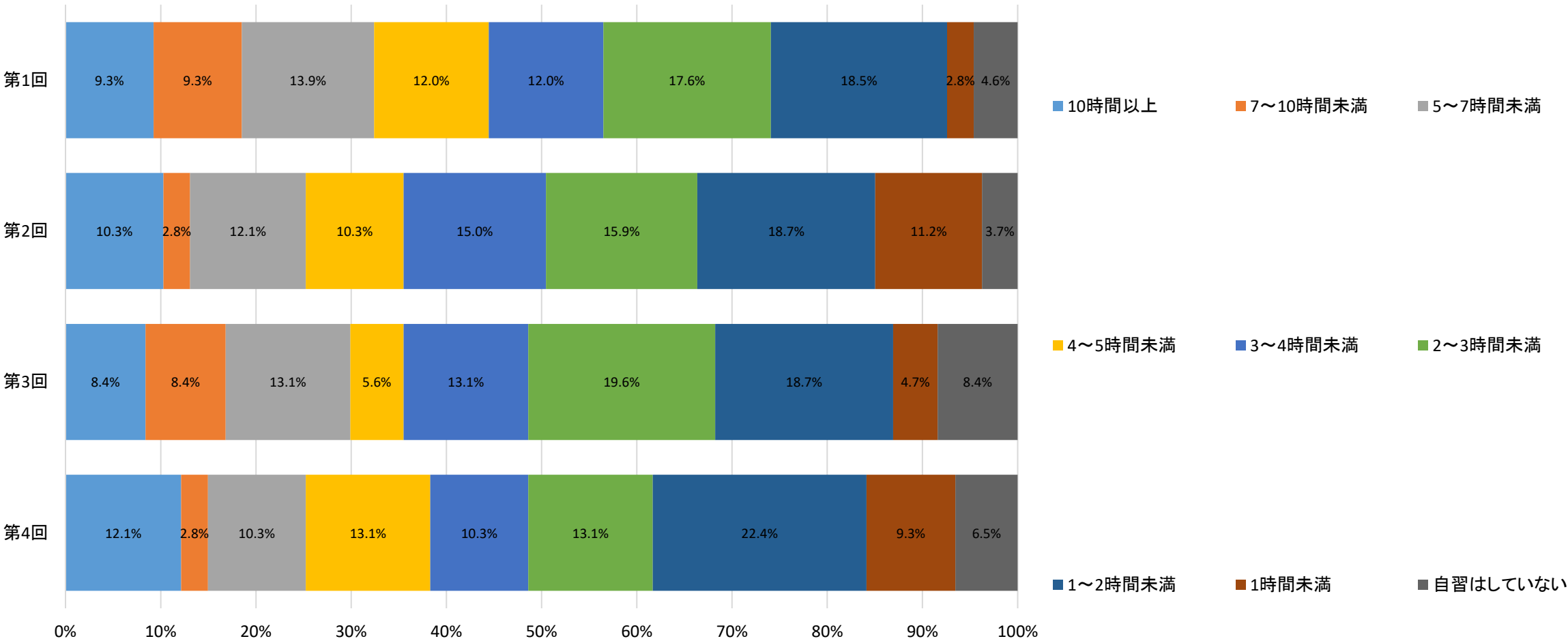
あなたが通う大学で、自分の将来に必要な学びを得ることができると思う



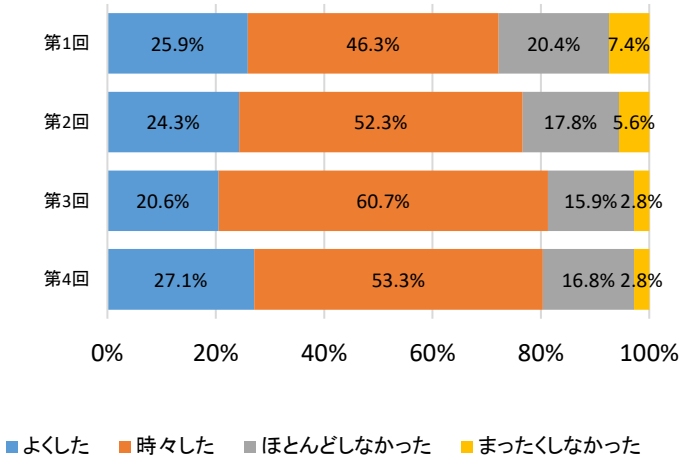
A. あまり興味がなくても、単位を楽に取れる授業がよい
B. 単位を取るのが難しくても、自分の興味のある授業がよい



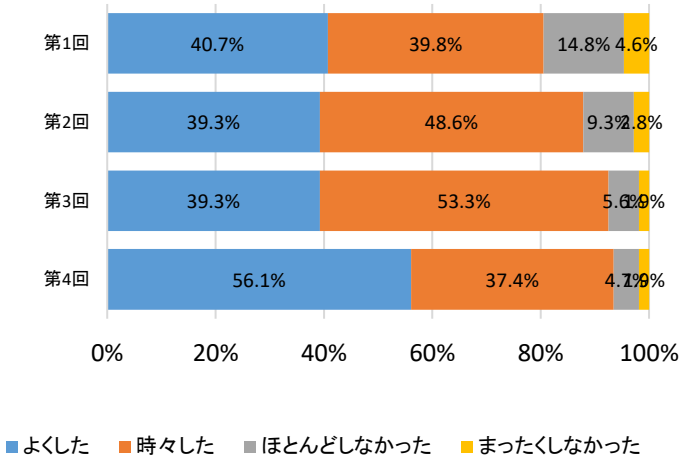
自習時間（週あたり）



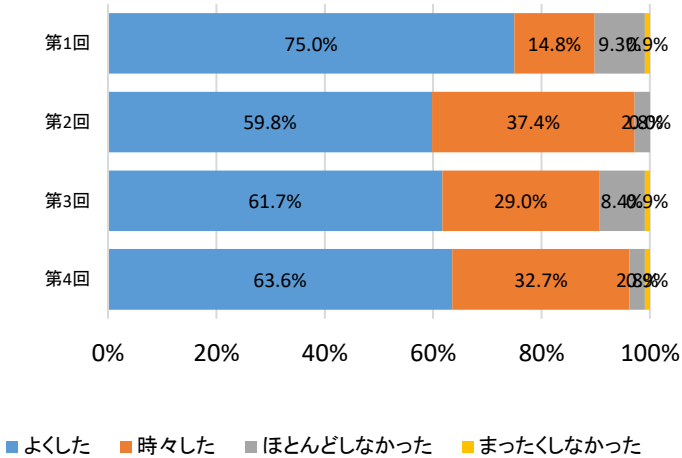
必要な予習や復習はしたうえで授業に臨む



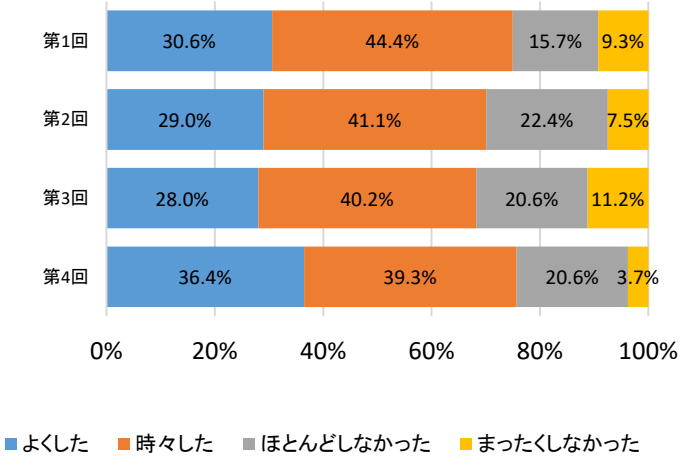
授業中、グループワークやディスカッションに積極的に参加する



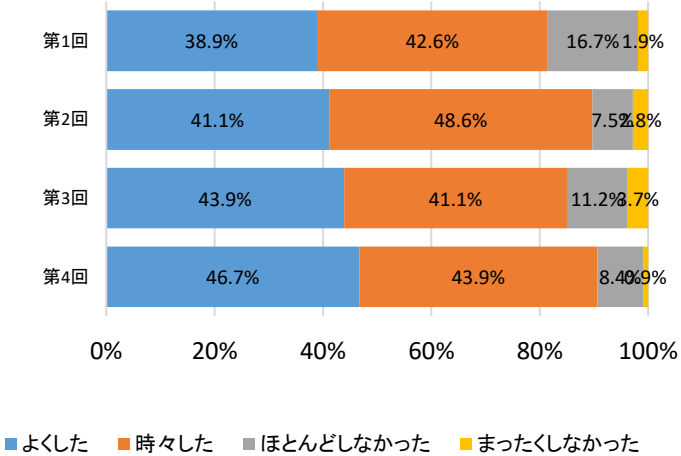
板書や投影資料以外でも大事なことはノートにとる



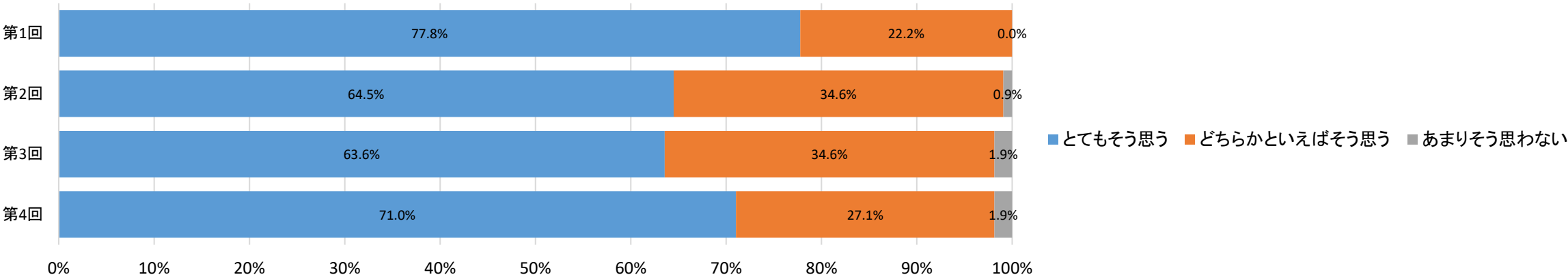
授業の内容でわからないことは教員に質問や相談に行く



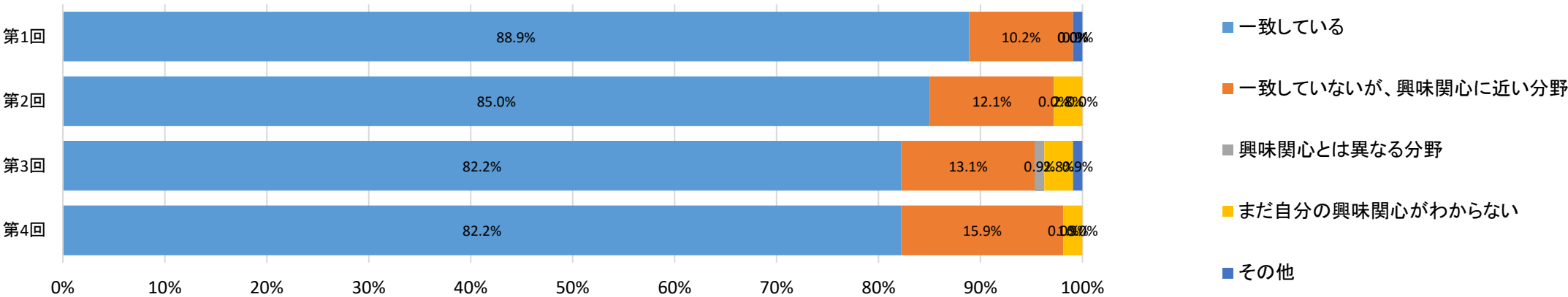
授業と関わりのないことでも、興味を持ったことについて自主的に学習する



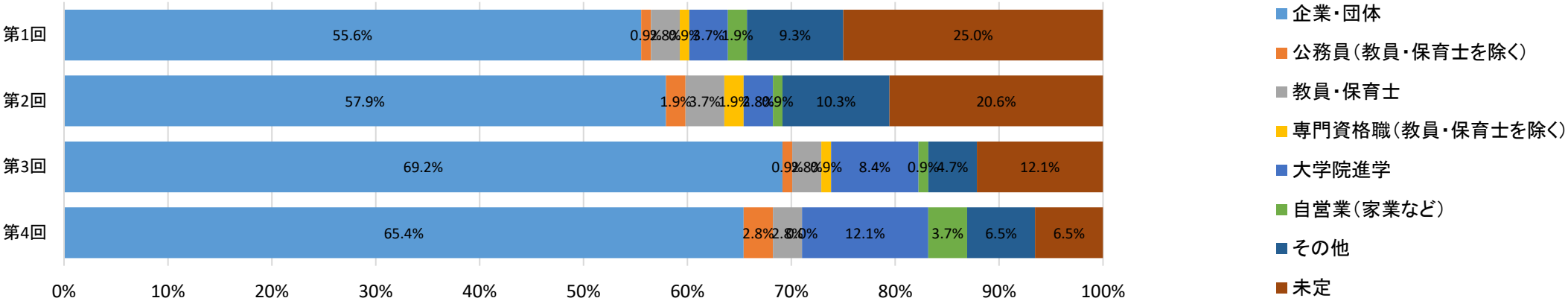
大学納得度



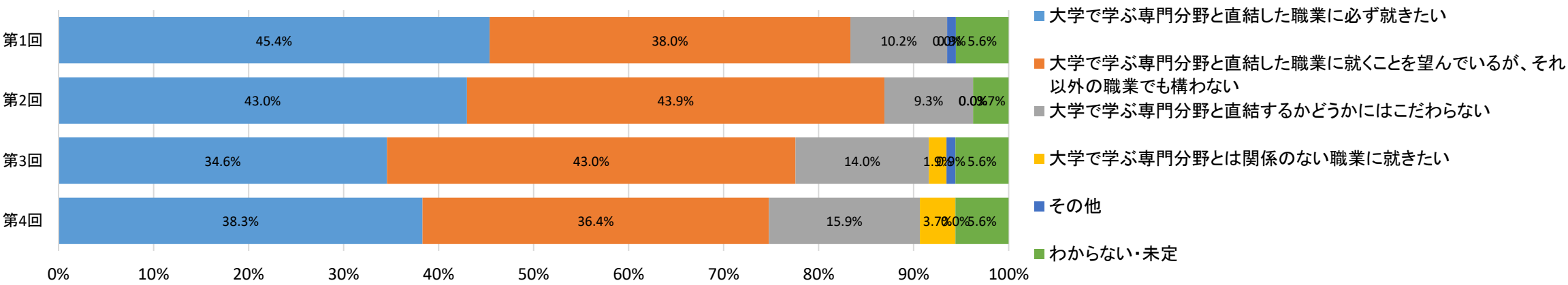
興味関心の一致度



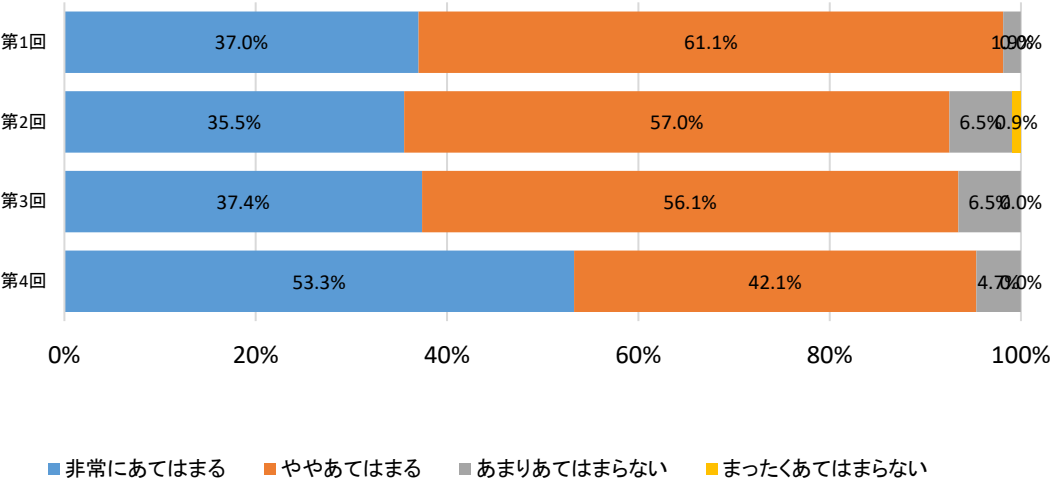
卒業後の希望進路



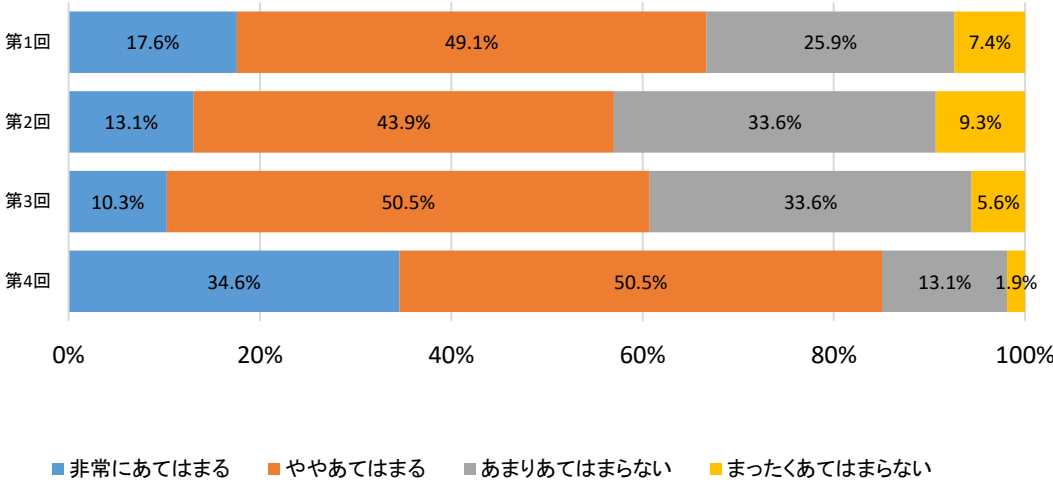
専門領域と希望進路との関係



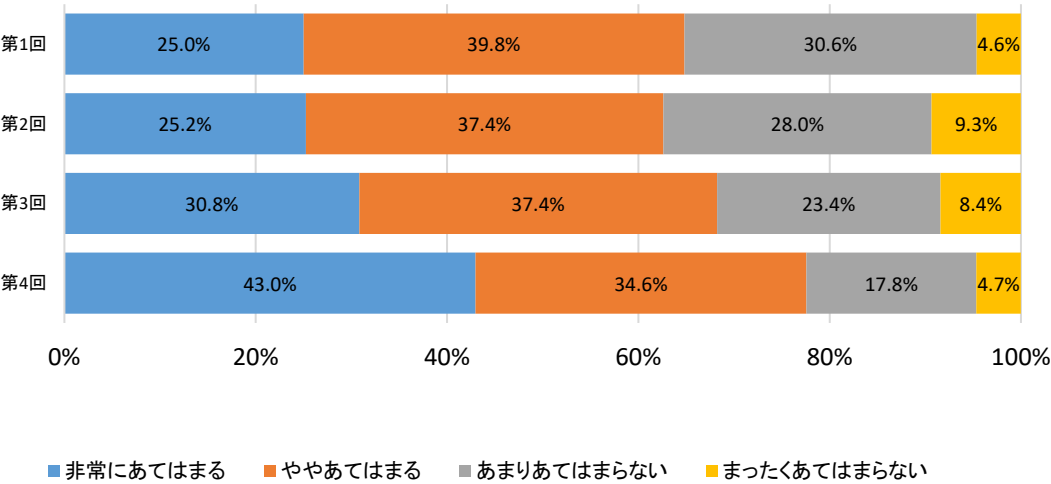
自分の性格や行動パターン、得意分野などを理解している



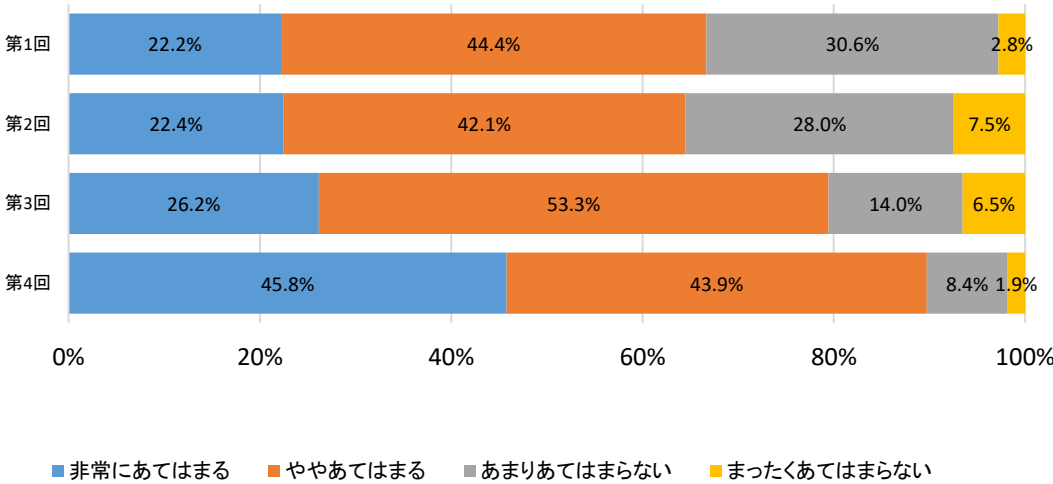
社会や職業のことを知るために、ニュースやインターネットなどで情報を収集している_進路への準備状況



自分が就きたい職業や仕事が明確になっている



自分の将来就きたい仕事、やりたいことに向けて準備をしている



おわりに
今後に向けて

「出口の質保証」に向けた日本大学の取組

エンrollment・マネジメント
における
GPS-Academicデータの活用

教学DX戦略委員会委員長
中村 文紀

- ・【定量データ】D-CAS（Data Collection & Analysis System）内でのGPSデータ拡充
→入口から出口までのデータを基にした「個別最適化」支援への活用を想定
→全学DPとの対照案の修正・改善を行いより精度の高い「学修成果の可視化」へ生かす
- ・【定性データ】学生インタビューの継続
→学生数を増やし定性データ拡充を目指す

3. GPS-Academic™ データの活用

◆ データの活用例③

■ 偏差値化による要素のバランス検討[同一年度 or パネル]
例：学問系統による3要素の差異(学内偏差値ベース) ※データはダミーです※

人文系

性別

入学年度

学年: 1

入試大区分

出身高校

実施年度: 2024

テスト名

対象人数: 891

思考力総合: 51.1

姿勢・態度: 49.5

経験総合: 50.3

人文系の方が高い

理学系

性別

入学年度

学年: 1

入試大区分

出身高校

実施年度: 2024

テスト名

対象人数: 270

思考力総合: 52.3

姿勢・態度: 49.8

経験総合: 50.1

⇒同様のテーマ(実データ)について、[日本工学教育協会 第73回年次大会]1A05で発表いたします

3. GPS-Academic™ データの活用

◆ データの活用例④

■ ヒアリングによる意識や達成状況の把握

▷ 令和6年度は8名の学生にヒアリングを実施

・GPS-Academicを2年連続で受験した学生のうち、GPA及び思考力, 姿勢・態度, 経験のいずれかで高スコア

・「日本大学教育憲章」に沿ってインタビュー(外部に委託)

—美辞麗句では終わらせない—
策定から10年が経過していることから、見直しを視野に入れつつ検証を実施中

長期的なスキル

思考力

コミュニケーション力

リーダーシップ・協働力

自律性

自己学習力

自己管理能力

自己表現力

自己責任感

自己成長力

自己実現力

自己肯定感

自己尊重感

自己責任感

自己成長力

自己実現力

自己肯定感

自己尊重感

→学生自身が身に着けた力や成長を確認し、次の目標設定に生かす仕組みづくりの方法を模索したい（学習者本位の教育）。

※商品価格に含む

④個人結果レポート

[illegible]

- ・基礎集計表と近い形式で、2回分の継続受検者を集計対象とした統計データ。
- ・受検者の変化を、学部や学科ごと、入試区分ごとに確認可能。

- ・学生に返却している帳票と同じものが確認可能（PDF版）
- ・受検終了した学生分より順次アップロード。

※無償サービス/GPS管理画面よりダウンロード可能

⑦クロス分析シート（試行版）

[illegible]

- ・受検結果を単年でわかりやすく可視化するExcelレポート。
- ・全学・学部・学科の特徴やベンチマーク比較を簡単に出力可能。
- ・同時出力される観点別シートにて、入試(広報)、学生指導、キャリアの切り口でシートを出力可能。

- ・GPS-Aで測定している主観項目と、思考力/姿勢・態度/経験のスコアの関係をクロス分析できるシートを出力可能。
- ・スコアの増減の背景の探索が可能。

一目で自大学の特徴がつかめる“大学向け標準レポート”を3つの切り口で出力

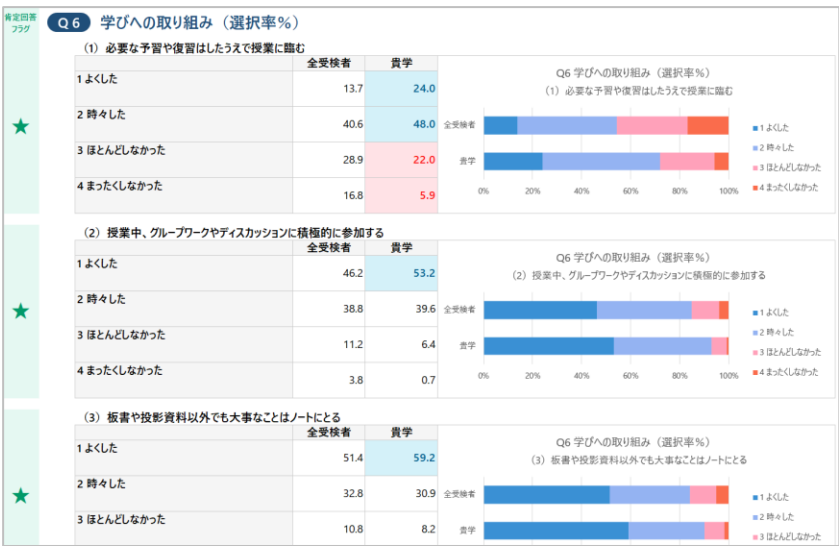
※デザイン、内容などは一部変更になることがあります。

- ①大学結果レポート(問題解決力)
- ②大学結果レポート(意識調査)
- ③観点別レポート(入試・学生指導・キャリア)



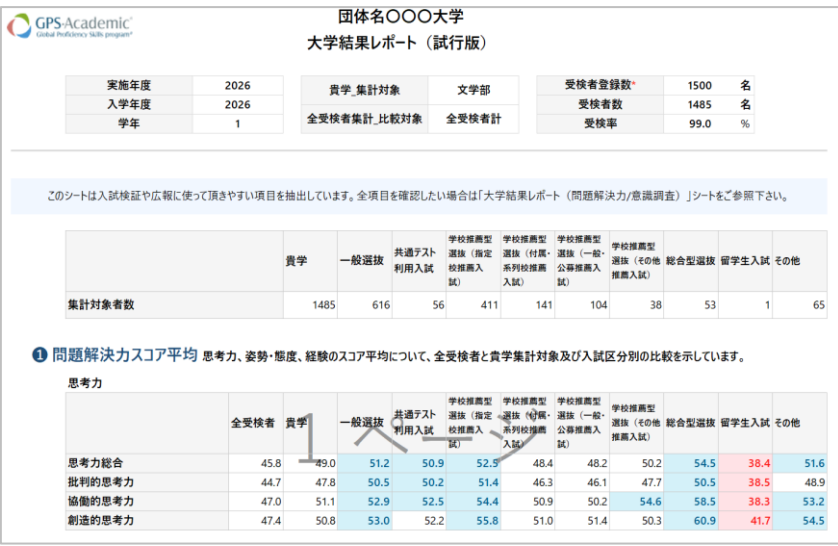
自大学の特徴把握のための標準レポート

- 【仕様のポイント】
- ・ 全受検者平均値との単年比較が可能
 - ・ 全学・学部学科の分析単位の選択が可能。
 - ・ 問題解決力の全項目を一覧で表示
 - ・ ±5ポイント差を自動色分けして特徴を可視化



学生意識から魅力や課題に気付ける可視化レポート

- 【仕様のポイント】
- ・ 意識調査の全項目を網羅的に表示
 - ・ 全設問に帯グラフを付与してビジュアル化
 - ・ ±5pt差を自動色分けして特徴を可視化
 - ・ 順序尺度では肯定回答に特徴フラグを付与



3観点でのデータ共有と活用を支える要点レポート

- 【仕様のポイント】
- ・ 入試、学生指導、キャリアで結果を表示する観点別シート
 - ・ 問題解決力だけではなく意識調査の関連項目まで表示
 - ・ 新入生版・在校生版でそれぞれ対応が可能

自身の伸びしろや強みを言語化することで、自己を肯定的に受け入れるきっかけに。
アセスメントで出力された強みが実社会でどのように生きるのか、どうPRできるのか生成AIを駆使した支援も充実。

個人結果レポート（WEB版）



思考力、姿勢・態度、経験の観点で
現状をわかりやすく把握できます

マイキャラ診断



「経験」のスコアをもとに自分を肯定的に捉える
「マイキャラ」をご提示します
入学時の会話のきっかけになっています

自己PRサポートAI

GPS academicの受検結果から、あなたの強みは「粘り強くやり抜く」と「創造的思考力」です。

<これまでに強みが発揮されたエピソードについて>
あなたはこれらの強みがあることに実感がないかもしれません。そこで、「これまでに強みが発揮された具体的なエピソード」を予想して提示します。

「創造的思考力」が発揮された具体的なエピソードを予想します。
例えば、テニスサークルで会計係を担当した経験があります。会計係としての業務は単純な数字の管理だけではなく、予算の立案や効率的な資金の使い方を考える必要があります。
その際、創造的な思考力を活かして、新しいアイデアや改善策を提案しました。
例えば、イベントの収益を最大化するために、創意工夫を凝らしたプロモーション活動を行ったり、予算の使い方を最適化するために効果的な費用削減策を考えたりしました。

<金融業界での活かし方>
金融業界での活かし方について、以下のような職種や業務が考えられます。

「粘り強くやり抜く」が活かせる職種や業務として、例えば営業職が挙げられます。
営業職では、長期的な取引や顧客との関係構築が重要です。粘り強さを持って、顧客のニーズを理解し、信頼関係を築くことが求められます。また、金融商品の提案や交渉においても、継続的な努力と忍耐力が必要です。

AIと一緒に自己PRを作ってみよう！

入力は簡単！ 2つの質問に答えるだけ。
あなたのGPS-Academicの結果をもとに、
AIが自己PR作成のヒントを提案します。
さっそく使ってみましょう！



受検結果をもとに自己PR文書を書くための
ヒントをご提案します

何でも答えが出てしまう潮流に、
敢えて「**答えを出さずに問いを出す**」チューニング
授業用/学生伴走型支援ツールとしてリリース

サービスに含まれるもの

1 学生用Webアプリ
キャリア教育用にチューニングされた独自の生成AIシステム。

キャリアカウンセリングAI

強み言語化AI

自己PR改善AI

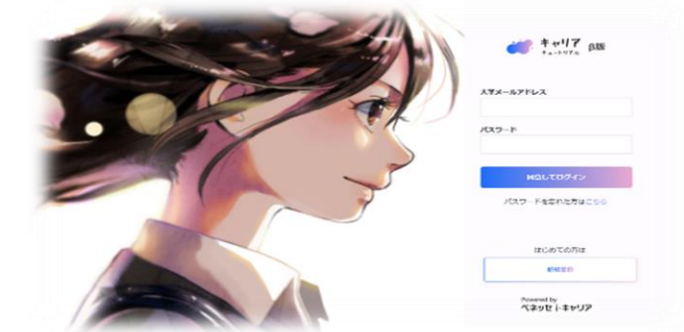
2 キャリア教育授業2コマ
授業は大学に所属する教職員様にて実施。
有料で講師派遣も可能。

自己理解・業界理解

自己分析・業界研究講座

強み・自己PR

自己PRを通じて行う
自己分析深掘り講座



3 大学用管理システム
学生に提案された業界や強みの傾向などの集計
結果の把握が可能。個別保存記録などを面談な
どに活用することも想定。

大学用管理システム

業界	強み	自己PR	自己分析	自己PR改善	自己PR深掘り
IT	プログラミング	自己PR改善	自己分析	自己PR改善	自己PR深掘り
IT	プログラミング	自己PR改善	自己分析	自己PR改善	自己PR深掘り
IT	プログラミング	自己PR改善	自己分析	自己PR改善	自己PR深掘り

優秀賞 日本大学「生産実習」

学生のキャリア形成支援活動の概要

目的: 本科目の目的である「実践と統合」に基づき、ディプロマ・ポリシーに対応した学習到達目標①「経験を学びに変える力」、②「生涯学び続ける力」を定め、ジェネリックスキルとテクニカルスキルの両面からその達成を支える7つのアウトカムズをねらいとしている。

対象: 生産工学部3年生

概要: 3年次学部共通の「必修・通年科目」とし、1年間を通じた幅広い知識と能力を関連付け、目指すべき技術者像を養う。個別最適化の実習を促すため官公庁から大企業・中小企業まで含め、海外や国内主要都市、地方などでの様々な職種で多岐にわたる就業体験ができるように約1,000機関の実習先を準備、産学連携によりオンラインプラットフォームを整備している。また、学部の全教員が担当教員として学生一人ひとりへの支援を行い、個別最適化を実現している。

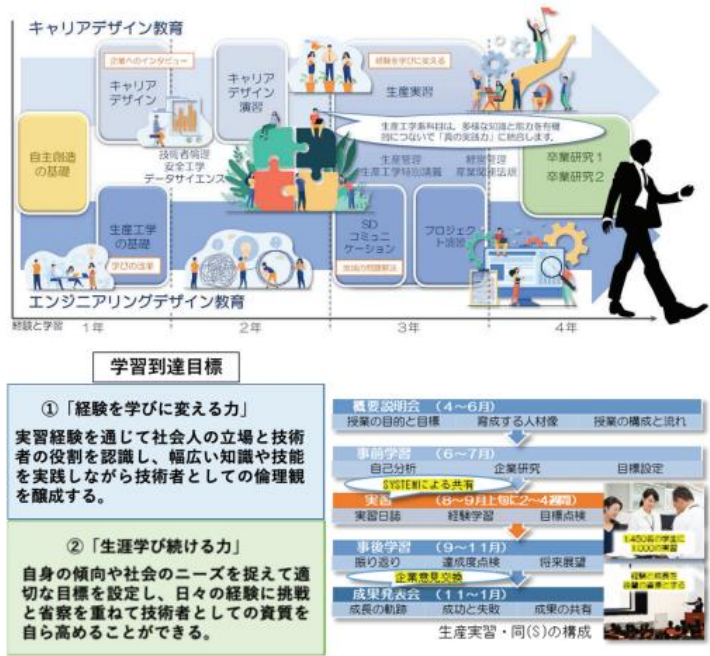
評価のポイント

- 約1,600名の学生に対し1,000を超える提携機関を確保し、学生が自らの志向に応じて実習先を主体的に選択できる環境を整備している。
- 学部全体で教員・事務職員・受入機関が協働する運営体制を構築し、プログラムの目的・体系化を明確化している。企業向け概要説明書の配布や企業が習得可能な基礎力の開示を必須化することで、実習テーマと学修目標の整合を図るとともに、学生が実務内容を理解したうえで参加できる情報基盤を整えている。
- 独自のマッチングシステム(NOTES/SYSTEM)を活用することで学生・企業・大学の三者が、共通でキャリア開発状況を可視化し、個別最適化が実現されている。外部測定を取り入れた効果検証に加え、中間的な振り返りを促すことで後半の学修動機を高めている。また、インターンシップ体験を後輩に共有し、動機付けさせる仕組みを整備している。

【取組の実施年度: 令和6年度
申請分類: タイプ3(汎用的能力・専門活用型インターンシップ)】

問合せ先

日本大学 学務部学務課
Tel: 03-5275-8115 E-mail: adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp



(参考) 日本大学生産工学部3年生用フォローアップガイダンス

参考: https://www.mext.go.jp/content/20260401_mxt_gakushi01-100003720-1.pdf

参考

<学科別>

**出口の質保証調査
(23年度入学生4か年過回比較)**

			客観評価（スコア：0～100）							主観評価（達成度：0～100%）			
			問題解決の質を左右する 思考力				問題解決に向かう 姿勢・態度			問題解決の力を磨くための 経験			
			思考力				姿勢・態度			経験			
受検対象	受検回・年度	受検人数	思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
学部全体	第1回	108	46.3	44.2	49.8	46.2	45.4	49.4	49.8	61.4	59.1	63.3	61.7
学部全体	第2回	108	44.8	44.7	43.6	43.9	45.4	49.1	48.0	59.1	56.6	61.5	59.1
学部全体	第3回	108	51.6	48.8	54.2	53.6	46.7	50.7	48.3	60.9	58.9	63.2	60.5
学部全体	第4回	108	50.0	49.9	50.7	51.0	49.5	53.1	50.9	64.5	61.9	68.1	63.4
写真学科	第1回	14	43.4	38.3	48.0	45.7	41.9	45.7	47.8	58.6	58.1	57.6	60.1
写真学科	第2回	14	40.8	42.7	39.1	38.0	45.3	47.4	46.8	58.4	57.1	57.4	60.6
写真学科	第3回	14	46.3	46.2	47.9	43.9	44.3	46.9	46.4	59.9	57.9	59.5	62.4
写真学科	第4回	14	41.3	45.2	40.4	35.2	47.6	50.7	50.5	63.3	61.2	66.3	62.3
映画学科	第1回	5	46.4	44.9	40.1	43.2	51.3	53.1	50.5	76.3	78.3	72.7	78.0
映画学科	第2回	5	40.7	45.4	37.0	35.8	47.3	52.0	53.1	72.3	72.3	70.7	74.0
映画学科	第3回	5	46.5	45.7	39.0	56.3	51.2	53.6	51.6	74.6	77.3	71.7	74.7
映画学科	第4回	5	44.4	46.6	44.6	43.1	52.8	56.5	56.0	77.1	78.3	77.7	75.3
美術学科	第1回	10	39.3	37.5	39.4	33.9	44.7	48.2	45.2	60.1	53.5	65.2	61.5
美術学科	第2回	10	37.6	32.1	31.2	40.6	42.6	45.6	42.9	56.8	52.7	58.8	59.0
美術学科	第3回	10	44.9	46.3	45.0	43.2	43.3	48.3	44.4	57.4	54.0	60.8	57.5
美術学科	第4回	10	40.9	37.1	42.4	38.5	44.7	51.1	47.1	62.1	56.7	65.8	63.8

			客観評価（スコア：0～100）							主観評価（達成度：0～100%）			
			問題解決の質を左右する 思考力				問題解決に向かう 姿勢・態度			問題解決の力を磨くための 経験			
			思考力				姿勢・態度			経験			
受検対象	受検回・年度	受検人数	思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
学部全体	第1回	108	46.3	44.2	49.8	46.2	45.4	49.4	49.8	61.4	59.1	63.3	61.7
学部全体	第2回	108	44.8	44.7	43.6	43.9	45.4	49.1	48.0	59.1	56.6	61.5	59.1
学部全体	第3回	108	51.6	48.8	54.2	53.6	46.7	50.7	48.3	60.9	58.9	63.2	60.5
学部全体	第4回	108	50.0	49.9	50.7	51.0	49.5	53.1	50.9	64.5	61.9	68.1	63.4
音楽学科	第1回	5	40.0	40.0	47.4	38.6	48.6	47.9	54.1	57.0	61.0	58.7	51.3
音楽学科	第2回	5	42.1	42.9	39.9	38.2	44.5	45.7	48.1	57.3	55.7	60.0	56.3
音楽学科	第3回	5	51.4	49.3	56.5	54.8	47.8	48.3	50.8	52.8	56.0	53.7	48.7
音楽学科	第4回	5	49.8	49.2	52.9	50.9	52.9	52.8	55.9	56.1	53.3	58.0	57.0
文芸学科	第1回	24	49.4	45.4	54.7	52.1	45.3	48.8	48.0	57.3	53.7	60.3	57.8
文芸学科	第2回	24	48.2	47.8	49.9	45.3	44.9	47.5	46.2	55.0	51.2	59.4	54.5
文芸学科	第3回	24	57.3	53.2	59.1	60.6	46.4	50.7	46.5	60.2	58.5	61.9	60.3
文芸学科	第4回	24	57.3	57.9	57.5	58.9	50.1	53.4	47.9	65.1	61.8	67.6	66.0
演劇学科	第1回	9	53.0	52.4	55.6	54.0	47.9	55.8	53.3	64.0	58.1	69.4	64.3
演劇学科	第2回	9	51.1	51.8	52.3	51.8	48.8	54.8	53.6	69.4	65.7	73.7	68.9
演劇学科	第3回	9	58.1	49.8	64.1	66.0	52.0	58.8	53.1	72.5	70.4	76.7	70.4
演劇学科	第4回	9	58.7	59.6	55.4	63.2	51.0	56.5	54.3	70.7	66.3	78.0	68.0

			客観評価（スコア：0～100）							主観評価（達成度：0～100%）			
			問題解決の質を左右する 思考力				問題解決に向かう 姿勢・態度			問題解決の力を磨くための 経験			
			思考力				姿勢・態度			経験			
受検対象	受検回・年度	受検人数	思考力総合	批判的思考力	協働的思考力	創造的思考力	レジリエンス	リーダーシップ	コラボレーション	経験総合	自己管理	対人関係	計画・実行
学部全体	第1回	108	46.3	44.2	49.8	46.2	45.4	49.4	49.8	61.4	59.1	63.3	61.7
学部全体	第2回	108	44.8	44.7	43.6	43.9	45.4	49.1	48.0	59.1	56.6	61.5	59.1
学部全体	第3回	108	51.6	48.8	54.2	53.6	46.7	50.7	48.3	60.9	58.9	63.2	60.5
学部全体	第4回	108	50.0	49.9	50.7	51.0	49.5	53.1	50.9	64.5	61.9	68.1	63.4
放送学科	第1回	25	45.3	45.6	47.1	44.1	44.3	51.3	51.5	64.2	61.3	65.9	65.5
放送学科	第2回	25	43.2	43.7	39.6	44.0	44.6	50.0	48.8	57.2	54.4	60.1	57.0
放送学科	第3回	25	49.6	46.9	53.3	51.7	45.8	50.6	49.1	57.9	54.9	62.2	56.7
放送学科	第4回	25	48.3	46.6	49.7	49.9	48.0	52.1	51.0	62.7	60.1	66.9	61.1
デザイン学科	第1回	16	48.4	46.1	55.4	47.7	46.5	46.9	51.3	61.4	62.3	62.2	59.7
デザイン学科	第2回	16	48.8	47.8	50.3	48.6	47.3	50.4	48.6	60.6	60.3	62.5	58.9
デザイン学科	第3回	16	53.0	49.7	58.1	53.2	48.0	50.9	49.2	61.2	58.4	64.4	60.8
デザイン学科	第4回	16	52.1	50.8	54.8	58.5	52.6	54.9	53.0	63.9	63.5	68.6	59.5

補足資料

『GPS-Academicとは』

大学、学部、学科の学修成果を
可視化し、次の施策につなげることができる。

GPS-Academicでは、

1. 客観評価 2. 主観評価 3. 学生意識調査
の3つの視点から学生を多面的に測定できます。

上記3つの視点を組み合わせて学生を分析することで、
大学、学部、学科の学修成果を可視化し、
次の改善策につなげることができます。

学生を3つの観点から多面的に測定できます



思考力

問題解決の質と深さを左右する「思考力」（約 25 分）

*選択問題のみの時間
記述式を追加する場合は+30分

思考力を、「批判的思考力」「協働的思考力」「創造的思考力」という
3つの観点で測定します。

Input

[選択式問題]

- 情報を抽出し
吟味する
- 他者との共通点・
違いを理解する
- 情報を関連づける・
類推する



批判的思考力

必要な情報をとりだし、いろいろな観点から考え、自分の考えを筋道をたてて説明するための思考力



協働的思考力

他者との共通点・違いを理解し、合意を得たり、気づきを得たりして人と関わりあうための思考力



創造的思考力

情報をつないだり、別の場面に応用したりすることで、問題を見つけ新たな解決策を生み出す思考力

Output

[記述式問題]

- 論理的に組み立てて
表現する
- 社会に参画し
人と関わりあう
- 問題をみだし
解決策を生み出す

※評価：0～100スコア、S・A・B・C・Dの5段階で評価します。

楠見孝, 道田泰司 (2015) 「批判的思考～21世紀を生き抜くテラシーの基盤」, 新曜社

楠見孝 (2018) 「批判的思考への認知科学からのアプローチ」, Cognitive Studies, 25(4), 461-474

「批判的思考力」「協働的思考力」

●選択式問題 約25分

文章による出題のほか、音声や動画を用いた出題もあり、日常生活における情報インプット「聞く」「見る」「読む」に対応しています。実際に思考力を活用する場面に近い形式で、測定できます。

●記述式問題 (オプション) 30分

SDGsに向けた社会課題、それも正解が一つでない問いを通じて、自身の考えを論理的に説明し、異なる意見を踏まえつつ、解決策を導き出す力を測ります。

■選択式問題（動画）サンプル



<https://www.youtube.com/watch?v=-BGXm3hjNJA>

名称	定義	観点	方式	評価項目		
批判的思考	必要な情報をとりだし、いろいろな観点から考え、自分の考えを筋道をたてて説明するための思考	情報を抽出し吟味する	選択式	抽出		吟味
		論理的に組み立てて表現する	記述式	根拠	問いに応じた表現	論理的整合性

◆評価項目における設問類型（の一例）

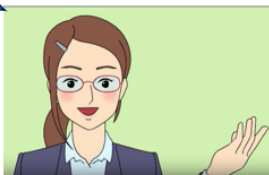
評価項目	内容	項目の説明
吟味	事実と意見の区別	客観的な情報(事実)と、主観的な情報(意見)を区別することができるかを問う
	有効な反論の選択	調査・実験の不備による結論の誤りを、「最も有効な反論」を選ぶことで指摘できるかを問う

こちらは、GPSの設問類型のごく一部の例です。
実際のテストでは、上記以外の設問類型も出題しています。

【出題】アニメーション問題
結論の確からしさを、根拠となる調査の手続きに着目して考える問題

～Z市 移住促進会議～
Z市への移住を促進するために
何をアピールすべきか

右の調査の結果、全項目で8点超でした。これをふまえ、Z市は住みやすい街であることをアピールすべきだと言えます。



Z市の生活満足度調査における満足度(10点満点)

交通の利便性	8.72
生活の利便性	8.50
治安の良さ	8.24
商業施設の利便性	8.40
住民の関係性	8.38
自然災害への安全性	8.35
行政サービスのよさ	8.10

■調査概要

- ・対象者: 30年以上在住のZ市民(無作為抽出) 324名(回収率45.6%)
- ・方法: 郵送法

【問】
下線部の結論に対する反論として最も適当なものはどれか。

出題のポイント

量的調査をもとにした一見正しそうな結論について、その確からしさを根拠に着目して判断する。調査の対象者(サンプリング)は適切か、偏りがあるのではないか、と気づけたかどうかポイントであった。

適切に調査・実験をデザインすることや、調査・実験の手続きが適切かを検討することは、どんな研究分野や職種においても重要となる。量的データだからと鵜呑みにせず、どんな調査実験もサンプリングや条件統制など基本的な観点で考察できるようにしたい。

思考力	評価項目	設問類型（一部抜粋）	能力が活かされるシーン（例）
批判的思考 一歩立ち止まり論理的・合理的に解を求める力	論理構造の把握	論点の明確化	論点を正しくとらえることで、議論を前に進めることができる。
	根拠の信頼性	事実と意見の区別	客観的な事実と主観的な意見を区別し、根拠の妥当性を判断できる。
		調査のデザイン・評価	適切なアンケート調査や市場調査を設計したり、既存調査の確かさを判断したりできる。
	推論	論理性（矛盾のない論展開など）	論理的に飛躍のない結論を導くことができる。
協働的思考 コミュニケーションを客観的に捉え共に解決に向かう力	他者理解	効果的な発言の理解	相手の納得感を高めたり、議論を促進するために効果的な発言が何かを理解できる。
		発言者の特性や傾向	話し合いの中で、各人物がどのような態度・姿勢で話し合いに参加しているか、その特徴は何かを客観的にとらえられる。
	合意形成	価値観や前提のすれ違い	意見が対立したり議論がうまく進まないときに、お互いの価値観や前提として考えていることが違うことが原因だと、気づくことができる。
		言葉の定義の不一致	意見が対立したり議論がうまく進まない時に、ある言葉の意味のとらえ方が違うことが原因だと、気づくことができる。
創造的思考 問題をとらえ解決の道筋を切り拓く力	問題発見・解決プロセスの遂行	課題の発見・設定	問題を解決するために取り組むべき課題は何か、設定することができる。
		解決策の評価	アイデアが妥当なものか、その影響範囲や有用性を評価、または判断することができる。
	転移	具体例の抽象化・一般化	表面的に見えていることにとらわれず、その本質（背景）にある構造や特徴を見出し、一般化することができる。
		アイデアの創出	物事の本質（背景）にある構造や特徴を見出すことで、未知の状況に対しても過去の経験をもとに柔軟にアイデアを出すことができる。

姿勢・態度

問題解決に向かう「姿勢・態度」（約 10 分）

「レジリエンス」「リーダーシップ」「コラボレーション」という

3つの観点で評価します。「自分をよく見せる回答」がしづらい設問形式が特色です。

■ 精神的なタフさ

レジリエンス

感情の制御
立ち直りの早さ
状況に応じ冷静に対応する

■ 物事に向かう前向きさ

リーダーシップ

自ら先頭に立って進める
未知の物に挑戦する
粘り強くやり抜く

■ 他者への働きかけ

コラボレーション

相手の立場に立とうとする
他者と関わろうとする積極性

問題例

「最もよくあてはまるもの」と「最も当てはまらないもの」を選択する強制選択式。

以下のA～Cから、あなたに最もよく当てはまるものと、最も当てはまらないものをそれぞれ1つずつ選んでください。

- A. 自分から先に立って物事を始める。
- B. 目標は常に高いところに置く。
- C. 頭の切り替えが早い。

※評価：0～100スコア、S・A・B・C・Dの5段階で評価します。

監修・協力：大正大学心理社会学部井関龍太先生 神戸大学大学院人間発達環境学系林創先生

◆レジリエンス

下位項目	定義・内容	高い（傾向が強い）場合	低い（傾向が弱い）場合
情緒の安定性（ストレス耐性）	感情の不安感、感情や気分の動揺が大きくないこと。	・精神的にタフ、楽観的 ・穏やか ・気にしすぎない ・（良い意味で）鈍感	・繊細、不安になりやすい ・心配性、悲観的な傾向 ・気配りや敏感に反応できる面も
立ち直りの早さ（回復力）	失敗や嫌なことがあったことによる落ち込み等から早く回復する（切り替えが早い）。性格的な要素とコーピングの要素がある。	・打たれ強い ・落ち込んでも引きずらない ・切り替えが早い	・落ち込んだ気分を引きずる ・弱気になりやすい ・傷つきやすい
状況に応じ冷静に対応する力（自己統制力・対応の柔軟性）	環境の変化に対応しようとする傾向、感情に左右されずに判断や行動をしたり、とっさの状況でも注意深く考えて臨機応変に行動できるなどの傾向。	・困難な状況（逼迫、予期しない、状況変化など）においても冷静で慎重に判断する ・物事に動じず、対応が柔軟	・困難な状況下（逼迫、予期しない、状況変化など）において、思いつきや感情、周囲の刺激で行動しやすい

◆リーダーシップ

下位項目	定義・内容	高い（傾向が強い）場合	低い（傾向が弱い）場合
自ら先頭に立って進める力（自主性・率先性）	自身の考えに基づいて行動したり、率先して物事を始めたり、対人行動に積極的で、他者に影響を及ぼそうとする傾向	・自らの意志や考えを主張する ・他者に対する指導性がある ・自信（過剰）がある	・控えめ ・自分の意見をあまり主張しない ・率先したくない傾向 ・口数が少ない
未知のものに挑戦する力（チャレンジ精神・開放性）	過去のやり方にとらわれず、新しい課題や取り組みに興味を持つ傾向。成長意欲のためには、苦手意識や失敗リスク、結果を見通せなくても高い目標に取り組む意義を感じる傾向	・達成意欲・成長欲求がある ・高い目標を掲げる ・困難にチャレンジする ・自信（過剰）がある	・活動に消極的 ・達成よりもプロセスに興味がある ・リスクに対し、慎重 ・自信が低い ・（良い意味で）あきらめがよい
粘り強くやり抜く力（持続力・誠実性・勤勉性）	好き嫌いに関わらず、自ら取り組むと決めたことに対し、どのようなことでも責任をもって投げ出さず、行動を伴い成果がでるまでやり抜く傾向の強さ	・責任感が強い ・粘り強さがある ・物事にこだわる、頑固	・飽きやすい ・諦めやすい ・こだわりがあまりない

◆コラボレーション

下位項目	定義・内容	高い（傾向が強い）場合	低い（傾向が弱い）場合
相手の立場に立とうとする姿勢（共感性）	利己的ではなく、他者の立場や意見、感情を理解しようとする傾向や、立場に関わらず相手に配慮した行動をとったり、助けたりする傾向の強さ	・他者への信頼感がある ・思いやりや優しさがある ・他者の立場に立って、感情や考えを理解しようとする ・人の意見を素直に聞こうとする	・対人的な冷淡さなど ・人の状況を理解しても、特にサポートしたりなどの行動には反映しない ・攻撃的、反抗など
他者と関わろうとする積極性（外向性・親和性）	他者と積極的に関わろうとする傾向や幅広い他者とのかかわりを好む傾向があるかどうか	・明るく社交的、すぐ打ち解ける ・対人関係が広く、それを楽しむことができる ・対人的な積極性が高い ・フットワークが軽い ・調子がよい	・関心の方向が自分に向きやすい ・口数が少ない ・親しくなるまで時間がかかる ・必要に応じて人と関わるが、相手にすべてを合わせようとなしない ・内向的（外よりも自分と向き合う）

学生自身がどの程度「経験」の積み上がりを実感しているか自己評価した結果を数値化します。

- ストレスを感じたとき、その問題と向き合い克服した（自己管理）
- チーム内でトラブルが起こったとき、自ら働きかけて問題を解決した（対人関係）
- 試験の結果が出たとき、結果の良し悪しだけでなく、
どうすればさらに良くなるかを考えた（計画・実行） 等

学生意識調査
大学独自設問

客観的な結果だけでなく
スコアアップの背景に
どのような学生の意識・習慣が
起因していたのか深掘りします。

全国データと比較が可能な
学生意識調査と
大学独自の取り組みに活用できる
大学独自設問
が追加料金なしで利用可能です。

学生意識調査 アンケート項目例	
新入生版（1年生）	在校生版（在校生）
大学・学問への魅力	入学後のイメージ変化
大学選択の情報源	成長実感
授業内容への理解	学部・学科のお勧め度
履修選択の考え方	大学教育・学生生活への満足度
学習への取り組み	教育施設の利用度
力を入れたいこと	授業の役立ち度
大学、学部・学科への志望度	授業・カリキュラムの評価
学生生活への不安	学びへの取り組み
職業・進路への心構え	大学納得度
	適応状況
	進路への準備状況
大学独自の設問 選択式：50問 記述式：3問	

学部の教育内容・施策
(主観評価・意識調査)



定量データ
(客観評価)



大学独自設問

【設問例】
昨年度1年間を振り返り、学部のどの活動に最も力を入れたと思うか以下の選択肢から選択してください。

- 【選択肢】
- 1. ゼミナール
 - 2. 演習科目
 - 3. 応用科目
 - 4. 留学
 - 5. 教養科目
 - 6. 学外活動

etc...



ゼミナール

演習科目

応用科目

留学

教養科目

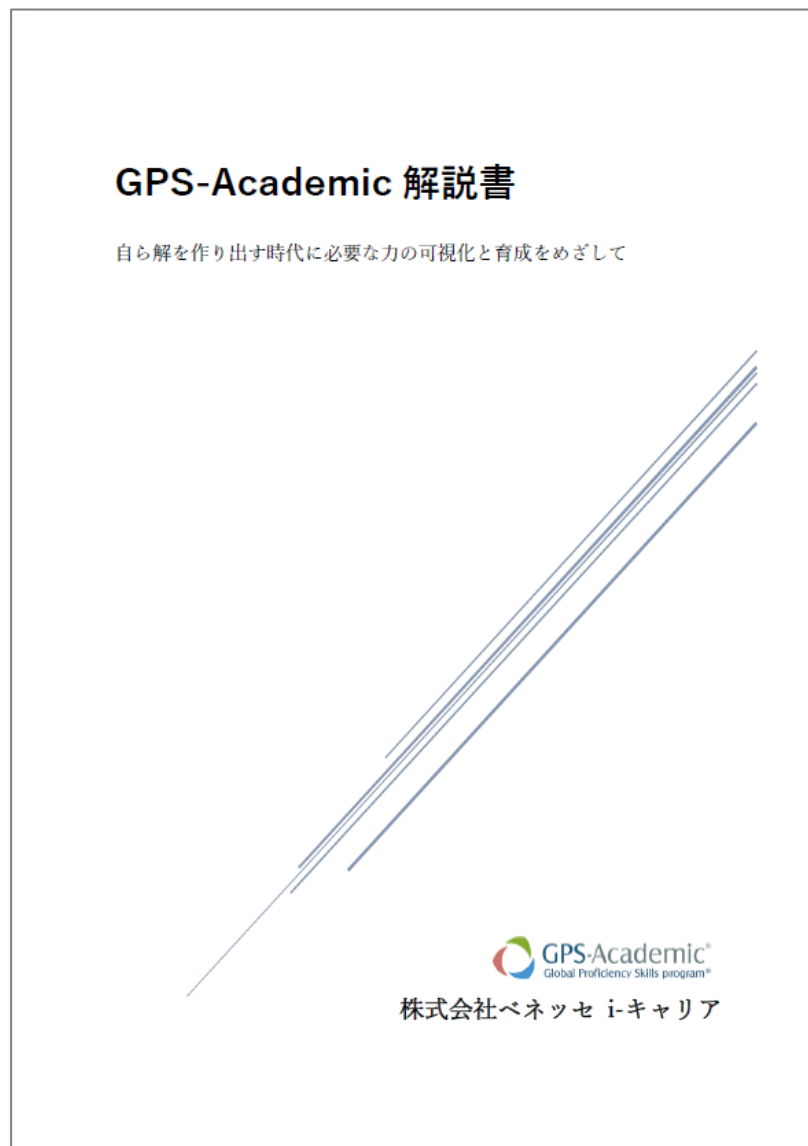
学外活動

思考力
伸び
【UP】

思考力
伸び
【Keep】

思考力
伸び
【Down】

GPS-Academicの開発背景、コンセプト、各設問の定義・算出方法をまとめています。



目次

【1】GPS (Global Proficiency Skills program) -Academic/Business の構想・・・	P. 3
1.1 開発の目的・背景	―― 3
1.2 よいアセスメントとは？	―― 6
1.3 アセスメントの限界と効果的な活用に向けて	―― 7
【2】GPS-Academic/Business の構成・定義・手法・・・	P. 9
2.1 GPS (Academic/Business) シリーズについて	―― 9
2.2 測定される力の構成・定義・関係性	―― 10
2.3 アセスメント手法	―― 18
2.4 結果根拠	―― 19
【3】スコアの信頼性・妥当性・・・	P. 22
3.1 思考力	―― 22
3.2 姿勢・態度	―― 26
3.3 経験 (GPS-Academic のみ)	―― 29
3.4 思考力/姿勢・態度 (パーソナリティ) /経験の妥当性	―― 30
【4】GPS-Academic 受検結果の分析・・・	P. 38
4.1 全国集計から見られる傾向	―― 38
4.2 各スコアの意味・解釈	―― 40
【5】スコアを活用した人物像把握の方法例・・・	P. 44
5.1 はじめに	―― 44
5.2 測定項目から読み取れる人物像	―― 45
5.3 人物像の大まかな区分けについて	―― 47
5.4 具体的な読み取り事例	―― 49
5.5 面談サポート BOOK のご紹介	―― 57
【6】活用事例・・・	P. 59
6.1 大学での活用事例 (GPS-Academic)	―― 59
【7】おわりに・・・	P. 62

https://www.benesse-i-career.co.jp/gps/product_text/file/gpsa_kaisetsu.pdf